平成24年6月15日発行 ライセンスメイト 第1巻231号通巻557号(年4回3月15日、6月15日、9月15日、12月15日発行) 昭和36年11月6日第三種郵便物認可

LICENSE MATE

ライセンスメイト

ありがとう台湾 世界一の親日国に感謝

日台の生命の絆



台中市政府(市役所)への表敬訪問

発行所 株式会社 日本教育開発

台中市は、中華民國の直轄市であり人口260万人の台湾 第3の近代都市である。台湾中部の政治、経済、文化の中 心として栄え、気候も温暖で、人柄も素朴で情に厚い。今 回は東日本大震災の復興支援への謝意を述べるため表 敬訪問し、蔡炳坤副市長のご歓待を受けた。

LICENSE MATE

特集 台湾慰霊訪問団

- 1 日台の家族(兄弟)交流のあゆみ
- 3 十三周年おめでとうございます
- 5 台湾訪問の目的
- 9 台湾訪問の記録(第1次~第12次)

- 10 十三周年に寄せて
- 15 祭文/台湾訪問の旅 訪台者一覧
- 17 一目でわかる訪問先・交歓先
- 19 訪問先·交歓先一覧(第1次~第13次)
- 22 台湾訪問の旅 帰朝報告
- 25 台湾訪問の旅 紀行文集(抄)
- 38 知られざる「神蹟の遺跡」
- 39 中華民國外交部·台日文化經濟協會· 台中市政府表敬訪問
- 41 結団式·壮行会~帰朝報告会·新年会

平成16年11月22日 第6次訪問団結団式・壮行会(アーバン・オフィ

11月 23日 第6次訪問旅行(11.23~11.26、8名)…27 12月 26日 第2回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、 12.26~H.17.1.2、2回)…28

ス天神6名)...26

43 台湾特別講演会

日台の家族(兄弟)交流のあゆみ

平成11年	3月	6日	第1次訪問旅行(3.6~3.9、23名) ※「結団式・解団式」含む…1
	58	15日	※「福凶式・辨凶式」名も…「 ライセンスメイトにて連載開始…2
	-,,	25日	慰霊祭参加(台中・宝覚寺、11.24~11.26、2名)3
平成12年			第2次訪問旅行(11.23~11.26、17名)
180127	11/3	2011	※「結団式·解団式」含む…4
平成13年	5日	28FI	読売新聞に一面広告掲載…5
1 130 10 1		13日	第3次訪問団結団式·壮行会(平和樓本店60名)6
		23日	第3次訪問旅行(11.23~11.26、38名)7
		22日	第3次訪問団解団式·報告会(平和樓本店50名)8
平成14年	4月	1日	訪問団ホームページ開設…9
	6月	8日	許國雄先生告別式参列(高雄·徳生長老教会、6.7
			~6.9、1名)10
	9月	10日	産經新聞に見開広告掲載…11
	10月	21日	全国の学校(8,443校)にパンフレットを郵送し、
			台湾への修学旅行先選定を呼びかける
			※全国の高等学校5,054校、県内の保育園から大
			学まで3,389校12
		2日	第4次訪問団結団式·壮行会(平和樓本店73名)13
	11月	6日	台湾中日海交協会(胡順来会長以下16名)歓迎晚
			餐会(台湾18名)14
- 04-4-		23日	第4次訪問旅行(11.23~11.26、38名)15
平成15年		-	第4次訪問団解団式・報告会(平和樓本店48名)16
	6月	7日	第1回台湾特別講演会・懇親会(アーバン・オフィス
			天神 講演会134名/懇親会36名)
			山口秀範先生(国民文化研究会事務局長)「台湾に
	11日	8日	根づく日本精神―六士先生を中心に」…17 第5次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店56名)…18
		23日	第5次訪問的紹介(11.23~11.26、23名)19
平成16年			第5次訪問団解団式·報告会(平和樓本店35名)20
十成10年		22日	第1回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、
	_,,		2.22~3.28、6回)21
	4日	29日	台中市日本文化協會(鐘子桓氏以下3名)来訪22
		5日	第2回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバ
			ン・オフィス天神83名/懇親会 花万葉54名)
			張国興先生(久留米大学法学部教授)「台湾の現状
			一総統選挙を中心に]23
	6月	20日	沈・呉ご夫妻来訪24
	9月	9日	台湾福祉実習団(陳徹氏以下8名)来訪25

(城17年 1月 22日 6月 4日 第6次訪問団解団式・報告会(平和樓本店30名)…29 第3回台湾特別講演会・懇親会(講演会 テルラホール100名/懇親会 チャタムダイニング70名) 黄文雄先生(文明史家)「反日教育を煽る中国の大罪一中国が反日・仇日に転じた本当の理由」…30 第7次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店51名)…31 何・陳 ご夫妻歓迎晩餐会(平和樓本店16名)…32 第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)…33 第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1回)…34 第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名)※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる…35 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名)第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月20日 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名)第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月20日 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月27日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 でら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威ー日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、45 第9次訪問所行(11.23~11.26、25名)…46				12.20 11.17.1.2(2円)20
一ル100名/懇親会 チャタムダイニング70名) 黄文雄先生(文明史家)「反日教育を煽る中国の大 罪一中国が反日・仇日に転じた本当の理由」…30 第7次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店1名)…31 11月 5日 11月 23日 第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)…33 端18年 1月 8日 第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1回)…34 第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名) ※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる…35 6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神 156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名) 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月 20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月 21日 第8次訪問団経団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月 21日 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 6月 2日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 (講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威ー日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和健康2月)、第2月間、2月間、2月間、2月間、2月間、2月間、2月間、2月間、2月間、2月間、	成17年	1月	22日	第6次訪問団解団式·報告会(平和樓本店30名)29
黄文雄先生(文明史家)「反日教育を煽る中国の大 罪一中国が反日・仇日に転じた本当の理由」…30 第7次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店1名)…31 11月 5日 何・陳 ご夫妻歓迎晩餐会(平和樓本店16名)…32 第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)…33 第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1回)…34 第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名)※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる…35 6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名)第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月 20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問所行(11.23~11.26、35名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 6月 2日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威ー日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 6時 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和健康4月名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和健康4月名)、第9次訪問		6月	4日	第3回台湾特別講演会・懇親会(講演会 テルラホ
罪一中国が反日・仇日に転じた本当の理由130 10月 22日 第7次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店51名)31 11月 5日 何・陳 ご夫妻歓迎晩餐会(平和樓本店16名)32 第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)33 第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1回)34 第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名)※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる35 6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名)第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)37 11月 23日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)38 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)37 11月 23日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)38 第8次訪問防行(11.23~11.26、35名)39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)40 第2日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威ー日台はいかに対応すべきか?」42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)44 旅程説明会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、45				ール100名/懇親会 チャタムダイニング70名)
10月22日 第7次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店51名)…31 11月5日 何・陳 ご夫妻歓迎晩餐会(平和樓本店16名)…32 第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)…33 第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1回)…34 第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名)※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる…35 6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名)第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月21日 第5回台湾特別講演会・懇親会(請演会 エルガーラホール 1月27日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威ー日台はいかに対応すべきか?」…42 7クニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社会(東京本)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社会(東京本)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社会(東和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社会(東和韓店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社会(東京本)、第9次訪問団結団式・社会(東京本)、第9次訪問団結団式・社会(東京本)、第9次訪問団結団式・社会(東京本)、第9次訪問団結団式・社会(東京本)、第9次訪問団は「東京本)、第9次記述は、第9次記述は、第9次記述は、第9次記述は、第9次記述は、第25回記述は、第25回記述は、第9次記述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述述				黄文雄先生(文明史家) 「反日教育を煽る中国の大
11月 5日 11月 23日 第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)…32 第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)…33 第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1回)…34 第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名)※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる…35 6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月 20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、30公司				罪─中国が反日・仇日に転じた本当の理由」30
11月23日 第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)33 第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1回)34 第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名)※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる35 6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神156名/懇親会 テルラホール67名)黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名)第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)37 11月20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)38 第8次訪問が続行(11.23~11.26、35名)39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名)黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威ー日台はいかに対応すべきか?」42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)44 旅程説明会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社下会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・社会(東京本)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、45		10月	22日	第7次訪問団結団式·壮行会(平和樓本店51名)31
1月 28日 第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1回)…34 第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名)※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる…35 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神6名)…37 11月 20日 旅程説明会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月 23日 第8次訪問が行(11.23~11.26、35名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威ー日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・2015年によりに対している。1月20日に対している。1月20日によりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりによりに				何・陳 ご夫妻歓迎晩餐会(平和樓本店16名)32
1.8、1回)…34 第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名) ※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる…35 6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名) 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月 20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問防行(11.23~11.26、35名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威ー日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団		11月	23日	
1月28日 第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名) ※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる…35 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名) 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団	成18年	1月	8日	
※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる…35 6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神 156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 10月 21日 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名) 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月 20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 6月 2日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45				1.8、1回)34
6月 3日 第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オフィス天神 156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 10月 21日 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名) 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月 20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)、…45		1月	28日	第7次訪問団解団式・報告会(テルラホール38名)
フィス天神 156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日 ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名) 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月20日 11月23日 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…38 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月5日 10月27日 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45				※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる35
黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日 ーこれからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名) 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月20日 11月23日 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…38 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月5日 10月27日 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45		6月	3日	
- これからの台・中・日・米関係の徹底分析」…36				7 11 17 (11 1 1 2 1)
10月21日 旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名) 第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月20日 役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)…38 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…39 域19年 1月 7日 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 1月27日 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 6月 2日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45				
第8次訪問団結団式・壮行会(テルラホール70名)…37 11月20日 11月23日 第8次訪問成行(11.23~11.26、35名)…38 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 7クニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45				
11月20日 11月23日 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…38 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)…39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月5日 10月27日 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45		10月	21日	
11月23日 第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)39 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」42 7クニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)45			000	
端19年 1月 7日 第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1回)…40 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45				
1.7、1回)…40 1月27日 第8次訪問団解団式・報告会(平和樓本店68名)…41 6月2日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 70年年年新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45				
1月27日 6月2日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 でら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 8月24日 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月5日 10月27日 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45	-成19年	1月	/日	
6月 2日 第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45		10	270	
ラホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月 5日 10月27日 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45			-	
黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」…42 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45		OH	20	
事的脅威一日台はいかに対応すべきか?」42 8月24日 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広 告掲載43 10月5日 10月27日 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団 式・壮行会(平和樓本店49名)45				
8月24日 フクニチ住宅新聞で「台湾の国連加盟」支援広告掲載…43 10月5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 10月27日 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45				
告掲載…43 10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 10月 27日 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45		88	2/1	
10月 5日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)…44 10月 27日 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)…45		OH	2411	
10月27日 旅程説明会(平和樓本店19名)、第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)45		10日	5B	
式·壮行会(平和樓本店49名)45				
		. 073		
7307/BJI[9][N] (11.20 11.20(20 [])+0		11月	23日	
				215077[D] [1 [1 [1 [1 [1 [1 [1 [1 [1 [1 [1 [1 [1

平成20年	1月	26日	第9次訪問団解団式·報告会(平和樓本店51名)47
1 130=0 1		9日	第5回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.9
			~4.13.6回)48
	5月	2日	フクニチ住宅新聞で「台湾の世界保健機関加盟」
			支援広告掲載49
	6月	8日	第6回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレ
			ス 講演会123名/懇親会63名)
			黄文雄先生(文明史家)「日本人の道と精神(こころ)」
			清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授) 「日本文化の
			本質を知ろう一新『教育勅語』のすすめ」50
	9月	3日	台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長主催懇
			親会(平和樓本店7名)51
	9月	5日	フクニチ住宅新聞で「台湾の国連専門機関参加」
			支援広告掲載…52
		9日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)53
	10月	25日	旅程説明会(平和樓本店18名)
			第10次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店48名)
	118	22日	※「東京支部・台湾支部設立」兼ねる54
	IIH	220	第10次訪問旅行(11.22~11.26、31名)
平成21年	18	2/10	(A班11.22~26 19名、B班11.23~26、12名)55 第10次訪問団解団式·報告会(平和樓本店64名)56
十成214		22日	第10次前向回解四式、報告云(半位優本店04名)50 第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、2.22
	27	2211	第6回日 <i>湾フリー</i> 大放区(Styler M日曜計論、2.22 ~3.29、6回)…57
	3月	9日	台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長主催懇
	0,,	o H	親会(平和樓本店8名)58
	5月	15日	フクニチ住宅新聞で「台湾の世界保健機関加盟」
			支援広告掲載59
	6月	6日	台湾支部長(黄·葉ご夫妻)歓迎晚餐会(花万葉10名)60
	6月	7日	第7回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレ
			ス 講演会170名/懇親会69名)
			黄文雄先生(文明史家)「台湾と日米中の現在と未
			来ー台湾と中国の最終戦争は避けられるのか?」
			柳原憲一先生(西日本台湾学友会会長)「江見政治
	0.	400	と竹東大圳ー今、甦る台湾水力発電の父」61
	6月	19日	フクニチ住宅新聞で「NHKは台湾人に謝罪を!」意
	0 🗆	14日	見広告掲載…62
		21日	産經新聞で「NHKは台湾人に謝罪を!」意見広告掲載63 フクニチ住宅新聞で第2回目の「NHKは台湾人
	ON	2111	に謝罪を!]意見広告掲載…64
	9月	7日	李登輝元総統お出迎え(福岡空港43名)65
			李登輝元総統お見送り(福岡空港26名)66
		30日	産經新聞で第2回目の「NHKは台湾人に謝罪を!」
			意見広告掲載67
	10月	31日	産經新聞で第3回目の「NHKは台湾人に謝罪を!」
			意見広告掲載68
	11月	1日	旅程説明会(平和樓本店20名)
			第11次訪問団結団式·壮行会(平和樓本店56名)69
	11月	13日	フクニチ住宅新聞で「台湾の国連専門機関参加」
	445	04.	支援広告掲載…70
			産經新聞で「台湾の国連専門機関参加」支援広告掲載71
			第11次訪問旅行(11.22~11.26、30名)72
	12H	200	産經新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大 慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載…73
平成22年	18	23H	慰霊祭で奏上された祭又」思見広告掲載73 第11次訪問団解団式・報告会(平和樓本店61名)74
1 10000		21日	第17次詞同型解型式・報告云(平和懐本店の1名)74 産經新聞で「日華(台)親善友好慰霊訪問の旅・感
	_,,		想文集」意見広告掲載75
	2月	26日	フクニチ住宅新聞で「日華(台)親善友好慰霊訪問
			の旅・感想文集」意見広告掲載76
	3月	7日	第7回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.7
			~4.11、6回)77
	3月	13日	林溪和先生告別式参列(台中·三一基督長老教会、
			3.13~3.14、2名)78
	3月	21日	産經新聞で「明石元二郎台湾総督に対する福岡市
			教育委員会の態度には愛国心が感じられません」
	60	ED	意見広告掲載…79
	0月	5日	第8回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス・講演会1729 / 懇親会589)
			ス 講演会172名/懇親会58名) 明石元紹先生(明石元二郎令孫·画家) 黄文雄先生
			明石元紹元生(明石元—即市孫·迪家)東又雄先生 (文明史家)
			「郷土福岡が生んだ世界的英雄·偉人―明石元二
			郎台湾総督の生涯」80

- 平成22年 6月 27日 台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長送別会 (団長宅12名)...81
 - 8月 4日 産經新聞で「日台の生命の絆死守せむと吾日本の 一角に起つ」意見広告掲載…82
 - 10月 8日 台湾双十節式典参加(ホテルオークラ12名)...83
 - 10月14日 台北駐福岡經濟文化辦事處 曾念祖處長歓迎会 (松幸26名)...84
 - 10月23日 旅程説明会(平和樓本店21名)
 - 第12次訪問団結団式·壮行会(平和樓本店63名)...85
 - 11月22日 第12次訪問旅行(11.22~11.26、46名)(A班11.22~26 35名、B班11.24~26 11名)...86
- 平成23年 1月 22日 第12次訪問団解団式·報告会(平和樓本店65名)...87
 - 3月 15日 台北駐那覇經濟文化辦事處 粘信士處長表敬訪問(3.15~3.16、4名)...88
 - 4月 3日 第8回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.3~5.8、6回)…89
 - 4月23日 産經新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大 慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載…90
 - 5月 28日 産經新聞で「日本の為に従軍して戦死された台湾 人の慰霊に参加するのは日本人の義務である」意 見広告掲載…91
 - 6月 4日 第9回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会159名/懇親会71名) 黄文雄先生(文明史家)「中国が沖縄を獲る日ー中国の「千船保釣」を打ち砕こう!」…92
 - 6月24日 産經新聞で「奉納した龍柱と銘板に感動」意見広告掲載…93
 - 6月24日 フクニチ住宅新聞で「中華民國(台湾)の『国際民間航空機関』(ICAO)への参加の支援を!」支援広告掲載….94
 - 7月24日 産經新聞で「真実で尊い行動は必ず継続される」 意見広告掲載…95
 - 8月21日 産經新聞で「台湾との絆の強化は日本再生への道」 意見広告掲載…96
 - 9月29日 産經新聞で「魂の奥の不思議なふれあいを感じる 唯一の国・台湾 | 意見広告掲載...97

 - 10月17日 産經新聞で「台湾での新発見、そして再発見」意見 広告掲載…99
 - 10月22日 旅程説明会(平和樓本店26名)第13次訪問団結団式·壮行会(平和樓本店67名)…100
 - 11月21日 産經新聞で「日本人は真の親日国家である台湾を 見誤ることなかれ」意見広告掲載…101
 - 11月21日 台北駐福岡經濟文化辦事處 曾念祖處長主催懇 親会(鴻臚6名)...102
 - 11月22日 第13次訪問旅行(11.22~11.26、45名)(A班 11.22~26 38名、B班11.24~26 7名)...103
 - 12月 22日 産經新聞九州総局 野口裕之総局長を囲む会(セントラルホテル10名)…104
 - 12月25日 産經新聞で「日本語世代の方はかけがえのない日本の方式は毎月5年提供 105
- 本の宝です」意見広告掲載…105 平成24年 1月 6日 中華民國建国満100年祝賀式典参加(ホテルオー
 - クラ1名)…106 1月19日 台北駐福岡經濟文化辦事處 曾念祖處長謝恩新
 - 古北駐福回經濟文化辦事處 曾念伯處長謝恩 年会(千羽鶴6名)…107
 - 1月21日 第13次訪問団解団式·報告会(平和樓本店65名) ...108
 - 1月26日 産經新聞で「日本人のアイデンティティを取り戻す 巡礼の旅」意見広告掲載…109
 - 2月22日 産經新聞で「この度の総統選挙のご当選、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。」 意見広告掲載…110
 - 3月25日 産經新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大 慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載…111
 - 4月 1日 第9回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.1~5.6、6回)…112
 - 4月29日 産經新聞で「第10回台湾特別講演会」意見広告掲載…113



日華(台)親善友好慰霊訪問団による台湾慰霊訪問の旅が今年で14年目を迎えられますこと心より敬意を表します。小菅団長をはじめ団員の皆様には、毎年欠かすことなく台湾へ出向かれ、現地での戦没者への慰霊活動や家族(兄弟)交流活動へご尽力戴いているのみならず、平素より日本と中華民國台湾との友好親善に並々ならぬご支援を賜っておりますことに敬意と感謝を申し上げます。

特に、昨年11月の第13次の台湾で訪問の折には、東日本大震災に対する台湾の支援への感謝の気持ちを実際の行動に移され、「謝

「台湾慰霊訪問団特集」に寄せて

台北駐福岡經濟文化辦事處 處長 曾 念祖

謝臺灣 ありがとう台湾」という 横断幕を掲げて台湾を訪問され、 各地で感謝のイベントを催行され ました。その模様は台湾の新聞や テレビを通じて報道され、小菅団 長はじめ団員の皆様の真心が台湾 の民衆に伝わり、日本と中華民國 の両国国民の親善交流がより一層 深められましたことを大変嬉しく 感じております。

今年は我が中華民國にとりまして、次の百年への新たな船出の年でございます。日本と中華民國台湾とは歴史的にも地理的にも強い絆で結ばれています。これまで築き上げてきたこの友好の絆は、い

つまでも太くて強いものであり、 これからお互いに信頼し、協力し ていくことが不可欠と確信いたし ます。今後ますます日本と台湾と の友好の絆が強くなることを祈念 します。

日華(台)親善友好慰霊訪問団の 皆様におかれましては、引き続き 我が国へのご支援とご協力を賜り ますよう、よろしくお願い申し上 げます。

結びに、日華(台)親善友好慰霊 訪問団のますますのご発展と、皆 様方のご健勝とご多幸を心からお 祈り申し上げます。



毎年十一月二十五日、台籍日本 軍人軍属戦没者秋季慰霊祭に三萬 三千余柱の英霊を悼むため、貴訪 問団は遥々海を越え、慰霊団を結 成され御参祭下さいまして、誠に 感激と感謝に絶えません。また、 昨年の中華民國建国100年の慶祝 の横断幕を掲げての訪台には、台 湾台日海交會を代表して心より御 礼申し上げます。

御承知の通り、幣會の會友は軍 属出身者が多く皆、高齢になり病 弱で秋季慰霊祭に欠席するものが 多くなりました。また、日本の戦 友会の皆様も同様に慰霊祭への参 加者は年々減少しております。

そのような状況の中、毎年多く

日本男子として共に国難に當たった 台湾と日本の絆 台灣台日海交會

台灣台日海交會 前會長 林 徳華

の団員を伴い御参祭下さる貴訪問 団はじめ日本の友好諸団体の皆様 は慰霊祭の大きな柱であり、杖と なっております。慰霊祭の存続は 皆様方の世代にかかっていると言 っても過言ではありません。今後 とも宜しくお願い申し上げます。

先の大戦は中国大陸の消耗戦に始まり、過酷な化学戦と肉弾戦で幕を閉じました。欧州戦線でドイツ、イタリアが降伏した後、米軍は中部太平洋に於ける我が軍の各拠点に攻勢を加えてきました。我が軍は攻勢から守勢に陥り、敵は一挙に我が本土占領の戦略を敢えて強行してきました。怒涛の如く押し寄せる米空軍を阻止するた

め、未曾有の少年飛行特攻の肉弾 戦法が実現し、祖国を救うために 沢山の若い戦友が敵空母に体当た りし、撃沈しました。玉砕された 忠義に敬意を捧げる次第でありま す。

日本の降伏で戦火納まり、現在では国籍も異なり国交もありませんが、日本男子として共に国難に當った絆が数十年の戦友愛を保ってきました。台湾と日本の切っても切れない友誼は實に尊いものです。

終わりに、小菅団長はじめ団員 御一同様の御健康と御多幸をお祈 りし、併せて今年の訪台をこころ よりお待ちしております。



每一次招待日華親善友好慰靈訪問團,或 是收看網路廣播節目日曜討論台灣特集,抑 或是閱讀用心編輯的LICENSE MATE刊物時, 內心總會湧上陣陣的溫暖與敬意。令人敬佩 的是,各位數年如一日來台祭拜英靈的虔誠 與用心,許多團員都已是我父執輩的先進,但 都一樣熱忱地投入於緊湊的行程中, 真令人 萬分感佩, 而讓人感到無比溫暖的, 莫過於感 受到各位對台灣這片土地的熱愛及台日間真

訪問団の皆様を接待させて頂き、 またインターネットの日曜討論番 組やライセンスメイトを拝見する たびに心のこもった編集に夫婦と もども大変感動しております。団 員の皆様には、数年一日の如く英 霊の慰霊のため台湾を訪問され敬 意を表します。団員の皆様の大半 は年配者であるため、5日間ある いは3日間の行程は体にこたえる と存じますが、ご英霊に対する尊 敬の気持ちや台湾を愛してやまな いお気持ちや日台間の真摯な友情



日華(台)親善友好慰霊訪問団の 皆様には益々御健勝の由、大慶に 存じます。昨年も台湾軍大慰霊祭 に御臨席して戴き改めて御礼申し 上げます。小生、当日は腰を痛め 立つことも出来ない有様で十分な 対応もできず大変失礼致しまし

大東亜戦争終戦後の昭和22年2 月28日(1947)、日本人が去り、 新しい国造りが始まることを期待 していた台湾に大変な惨劇が襲い かかりました。今も台湾人の心の 深い傷となっている二・二八事件 です。事の始まりは密輸タバコ売 りに対する暴行に端を発し、民衆 は台湾の高度自治化を要求しまし たが、軍に弾圧されました。抗議

與各位在日本相見,我們全家都無比期待 日本の皆様にお会いできることが、 私たち家族の何よりの楽しみです

日華(台)親善友好慰霊訪問団 台湾支部長 黄 明山

摯的友誼。每次與各位相聚,總是覺得非常感 恩, 想必是英靈同時庇祐著我們, 才讓這難得 的緣分從歷史跨越到現代, 傳承至今!

今年六月,承蒙訪問團之邀,即將前往日本參 與台灣特別演講會,心中充滿期待,更開心能 有這個機會與各位在日本相見。小女楷棻長 年在日本求學,工作,一直受到各位的照顧, 也因她參與訪問團的工作,我才有幸與各位

を感じております。毎年、皆様と お会いするときはとても心温まり 感謝の気持ちが湧いてきます。こ れはきっとご英霊のお陰だと思っ ております。また同時に歴史を超 えご英霊とのご縁を今に伝えてい くことはとても得難いことだと思 っております。

今年6月の台湾特別講演会にご 招待戴き、また日本で皆様とお会 い出来ることをとても楽しみにし ております。娘の楷葉が永年、日 本で勉強し、訪問団の仕事に関わ

結緣。每一次各位的到訪,我們全家都無比期 待,每一次的相聚都是如此盡興,看到各位不 遠千里而來, 我深以能參與台灣的招待工作而 感到榮幸與欣慰。未來的每一年, 我仍然會 期待並熱烈歡迎各位的到訪, 讓台日間的友 誼繼續發光發熱,並讓我們台日後代子孫都 能感受並珍惜這份源遠流長的難得情誼。

祝福各位平安、健康。

り皆様には大変お世話になってお ります。それが本で私どもとも結 縁を戴いたことをとても幸せに思 います。毎年わずか一日だけの懇 親会で皆様には少しだけしかご接 待できませんが、私ども家族のな によりの楽しみです。今後も出来 るだけ、遠方より皆様が訪台され る際には台湾人の熱い想いで皆様 を歓迎いたします。この永い時間 をかけ築かれた日台の友情を大切 にし、私たちは子孫に伝えて行き たいと思います。

本省人と外省人の対立の原点

二·二八事件

台湾中日海交協会 会長 胡 順來

デモに対し警備兵が発砲、死傷者 がでました。これを契機に抗議運 動が全島に波及し公的組織での台 湾人の登用や自治権の拡大など政 治改革要求を含む運動に発展しま した。三月八日には大陸から派遣 された約一万三千の応援部隊が到 着し大量の検挙、弾圧を行い、そ の処刑の残虐さは目を覆うばかり のものでした。この事件によって 多くの優れた知識人や前途有為な 若者たちが無残に殺害されまし

今日の本省人と外省人との根深 い対立の原点はこの事件にあると 言っても過言ではありません。

事件発生当時、小生は二十歳の 世間知らずの若造でした。台中で

も本省人と外省人との衝突が始ま り、台中市民は政府機関を次々と 接収し、高官と兵士を刑務所に監 禁しました。事件は段々と拡大 し、第八部隊を接収し、次に飛行 場が標的にされました。当時、軍 の飛行場で台湾人約百名の空軍の 一員として勤務していた小生も事 件に巻き込まれました。大苦戦を 強いられましたが、無事空港と人 命を守ることに成功しました。

その後、台湾に移った蒋介石は 共産党と長期にわたる熾烈な戦い を続け、自由な言論活動等を制限 した戒厳令は、実に三十八年間も 続きました。



「大東亜戦争で 散華された台湾同胞の 英霊三万三千余柱の顕彰」

11月22日(火) 烏來/高砂義勇隊戦没英霊記念碑(写真(1)(2))

11月23日(水) 台南/飛虎将軍廟(写真(3)(4))

屏東/東龍宮(写真56)

11月24日(木) 高雄/保安堂(写真(7)(8))

台南/八田與一ご夫妻墓所(「殉工碑」を含む)(写真⑨⑩)

11月25日(金) 台中/宝覚寺(写真印迎)

イ.日本人墓地(日本人遺骨安置所) ロ.英魂観音亭と「霊安故郷」の慰霊碑

新竹/濟化宮(写真(3))

11月26日(土) 三芝/明石元二郎台湾総督墓所(写真⑭)

士林/芝山公園/六士先生墓所(写真(5)(6))





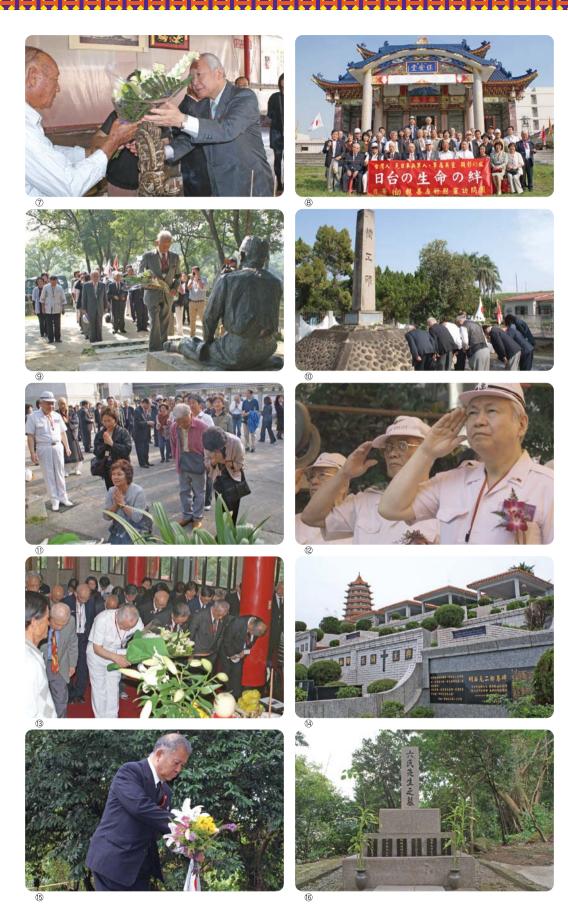








台湾訪問の目的





「台湾の皆様方との

家族交流·兄弟交流」

11月22日(火) 台北/中華民國外交部(黄明朗秘書長)表敬訪問(写真①②)

台北/台日文化經濟協會(鄭祺燿會長)主催の懇親会/海覇王餐廳(写真③④)

11月23日(水) 台南/許文龍先生・郭玲玲館長による招待昼食会/奇美博物館(写真⑤⑥)

高雄/黄明山・葉美麗ご夫妻による招待夕食会/海慶澎湖海産(写真7/8/9)

11月24日(木) 台中/台中市政府(蔡炳坤副市長)表敬訪問(写真⑩⑪⑫)

台中/台湾台日海交會(簡朝陽會長)主催の懇親会/香蕉新樂園餐廳(写真(3)(4))

11月25日(金) 台中/台湾中日海交協会(胡順來会長)主催の懇親会/大北京餐廳(写真⑮))













台湾訪問の目的





















16

台湾訪問の記録(第1次~第12



濟化宮(新竹)



芝山公園、六士先生墓所(台北)



明石元二郎総督墓所(台北)



宝覚寺「霊安故郷」碑と森晴治顧問(台中)



蔡焜燦先生(台北)



高砂義勇隊戦没英霊記念碑(台北)



貞愛親王殿下登陸記念碑(布袋)



飛虎将軍廟(台南)



保安堂(高雄)



東方工商専科学校、許國雄先生と(高雄)



奇美博物館、許文龍先生と(台南)



潮音寺(墾丁)



日本人墓地(高雄)



蓮池潭、詹徳寛先生と(高雄)



ありがとう台湾 慶祝中華民國建国100年

小菅 亥三郎 日華(台)親善友好慰霊訪問団 団長

私たちは、原台湾人元日本兵軍 人軍属三万三千余柱のご英霊に深 甚なる慰霊の誠を捧げるため、平成 11年から13年に亙り台湾訪問を継 続して参りました。実に様々な皆様 のご縁とお陰で今日まで続けてくる ことが出来ましたが、この事業を推 進してきた過程で段々と固まってき たことを述べさせていただきます。

先ず第一に台湾人元日本兵軍人 軍属三万三千余柱の英霊と向き合 ってきた13年でした。社員旅行とい う契機はそれとしても、この訪問団 の立ち上げに際しご指導戴いたの は、当時、福岡県郷友会事務局長の 日高清先生です。先生のご指摘を深 く受け止め、団の名称を「日華(台) 親善友好慰霊訪問団」と定めること にしました。この命名こそが訪問団 の運命を大きく変えた要因ではない かと思います。大東亜の解放と祖国 の防衛に若い命を捧げた人々に私 たちが直接的にできることは何か。 それは故人が主人公となる時間と 空間を組織化し、慰霊に始まり慰霊 に終わる供養の旅を継続することで した。

第二は、現地で戦死者の碑を守り、 当時の勲を忘れずに日本時代の名 誉をひたむきに守り通してくれる人 たちとの交流に心を砕いてきた13 年でした。なぜ英雄が存在したのか。 それは英霊として素直に尊崇し伝承 してくれる人々がいてくれるから、後 世の私たちが英雄として認識できる のです。また、伝承し勲を語り伝える 行為も英雄に負けず劣らずの働き だと思います。この人たちと交流せ ずして、あるいはこの人たちの貢献 を讃えずして誰と交流し何を讃える というのでしょうか。

第三は、マンネリズムと闘い、新し い訪問場所を積極的に開拓してき た13年でした。私たちは4泊5日か けて南部の高雄から台南、台中を 通り、台北まで三百キロ以上の行程 を縦走し、元日本人の軍人・軍属が 祀られている場所や碑を訪れ、各地 で慰霊の誠を捧げています。これら の慰霊地を毎年5ヶ所以上選定し、 戦没者の方々に敬虔な祈りと感謝

の誠を捧げてきました。これまで私 たちが訪れた訪問先・交歓先は 222ヶ所(正味69ヶ所)、訪問団員 384名(正味235名)に及んでいます。

第四は、連携と協力を求めて門を 叩き続けてきた13年でした。この事 業をご理解して下さる所にはご協力 を仰ぎ、ご理解いただけない所には ご理解して下さるよう門を叩き続け ました。もし、唯我独尊に陥っていた らとても13年はもたなかったでしょ

第五は、10年前の平成14年10 月21日に全国の高等学校と福岡県 内全ての教育施設に台湾への修学 旅行を呼びかけるため8,443通も のDMを発送したように告知活動に 励んできた13年でした。そのために 多様性溢れる方法を駆使してきまし た。この根底にはこの事業を隠れた 善行や秘め事にせず、我が国の国 民すべてがご英霊と向き合って欲し いという強い思いと願いがあるから です。もし、告知活動に無知か無関 心だったらとても13年はもたなかっ たでしょう。

第六は、結団式、帰朝報告会等の 行事に拘り、露出に拘ってきた13年 でした。公然と名乗り出て堂々と公 募せずして世間の認知は勝ち取れ ません。また、行ってらっしゃい・行っ て参ります、お帰りなさい・ただ今戻 りましたとお声掛けできる場を設け ずして事業の共有化は決して図れま せん。訪台経験はお見送りとお出迎 えによってこそ入魂が勝ち取れるゆ え、その陣容の組織化こそが問われ ています。もし、こうでなかったらとて も今のような訪問団はできなかった でしょう。

第七は、ドキュメントを残し記録を しながら前進することに心を砕いた 13年でした。今日のことは明日には 歴史になるというのは幻想にすぎま せん。ドキュメントを残し、記録を体 系化しない限り歴史は作れません。 そしてその歴史をたどれない限り、 後に続く人は現れません。たどりたく てもレールがないからです。私たち は慰霊訪問の旅の真実の姿を冊子

やDVDに残すことに拘り、歴史を作 ってきました。そして本日、皆様とこう してまた新しい歴史を刻むことがで きました。

私たち訪問団が台湾を訪問する 第一義の目的は、原台湾人元日本 兵軍人・軍属三万三千余柱に、日本 国民として追悼と感謝の誠を捧げ、 顕彰することですが、昨年の第13次 訪問では、東日本大震災への台湾 の皆様のご支援に感謝の念を伝え るとともに中華民國建国100年への 祝意を表すことを大きな目的としま した。「ありがとう台湾 慶祝中華民 國建國100年|と書いた横断幕を掲 げ、移動のバスの両面にも同様の 張り紙をして台湾中を走り回りまし た。このことは台湾でも大変喜ばれ、 歓迎を受けました。

また、13次の訪問で特筆すべき 点を三つ申し上げておきます。先ず 一つ目は宝覚寺での日本人墓地に おける慰霊式に私たち訪問団とは 別に現地の日本人観光客71人が 合流したことです。二つ目は念願だ った台中市政府表敬訪問が3年越 しに成就し、蔡炳坤副市長のご歓待 を受け、宝覚寺での慰霊式・慰霊祭 が市政府の公式ブログで告示され たことです。三つ目は台北駐福岡經 濟文化辦事處の曾處長による台湾 の報道機関への事前連絡により、空 港に到着した初日から取材攻めに あい大々的に報道されたことです。

大震災復興支援へのお礼や中華 民國建国100年慶祝の件で訪問団 の活動のステージが上がったような 感じがしてなりません。また点から線、 そして面への広がりを持つに至った この活動を台湾の皆様もすっかり 信頼され、私たちとの交流を心待ち にされておられる方が年々増えてい ます。私たちは13年に及ぶ訪問で体 得した貴重な経験を今後の両国関 係のさらなる強化に役立てていきた いと思います。

結びにあたり台湾を愛する皆様 におかれましては、私たち訪問団へ の尚一層のご教示、ご鞭撻を賜りま すよう祈念してやみません。



中国の「懸念」は日本の理想

産經新聞九州総局 総局長 **野口 裕之**

加害者が"被害者"を装うのはミステリー小説の定番だが、国際社会でもエセ被害者が跋扈する。昨秋の中国共産党中央委員会機関紙・人民日報系ニュースサイトの人民網日本語版はまさに、日本に脅えたフリをする中国の「演技力」を余すところなく伝えていた。

■政治的虚構の専守防衛

まず「武器輸出三原則」を緩和しようとしている、 当時の日本政界の動きを紹介。緩和は軍需産業活性 化や外国との最先端技術共有などのメリットがある 一と防衛相発言を引用している。その上で、謎の 「アナリスト」氏を登場させ「日本の狙いはこれだけ ではない」といわせる。曰く一《第二次世界大戦後、 日本は『平和憲法』をやむなく受け容れ、軍事力や 対外的軍事行動を厳しく規制された。その後、違反 すれすれのきわどい手段で『軍事的正常化』を果た すことが、客観的に見て安全保障政策の目標となっ た。国連平和維持活動(PKO)など国際協力への近年 来の参加により『専守防衛』政策は空洞化が進んで いると共同通信は指摘する》

PKO参加が「専守防衛空洞化」への一里塚だと警戒 しているらしい。だが世界的に見て、専守防衛を自 称する国の方が、むしろ奇観だ。

ロンドン市局長時代の2001年秋、米中枢同時テロに端を発したアフガニスタンでの対テロ戦争が勃発、戦況把握のために英国防省に通った。その際、日本の参戦の可能性を逆質問されて「専守防衛」を説明することが何と難しかったことか。世界の陸空軍士官学校や海軍兵学校で「専守防衛」を教えているのは、日本の防衛大学校だけだろうから当然だった。

「専守防衛」は軍事用語ではない。軍事合理性に照らして有り得ない人為・政治的に捏造された虚構、防衛力整備を少しでも遅らせまいとした政府側が、55年体制における国会答弁の中で開発したウルトラ Cだった。新型兵器導入にあたり、左翼陣営に「周辺諸国の脅威になる」と糾弾された時「大丈夫でございます。わが国は専守防衛政策を堅持し…」などと弁明するといった具合に。そもそも「周辺諸国の脅威」にならぬ兵器など導入するべきではない。「周辺諸国の脅威」にならぬ兵器など導入するべきではない。「周辺諸国の脅威」になって初めて抑止力に成り得るのだ。

■矛盾の極み、PKO警戒

国会用語で止まるのなら、ここまで日本の防衛力、 自衛隊の装備を縛ってこなかった。ところが1970 年、中曽根康弘・防衛庁長官時代の「日本の防衛―防 衛白書」に「わが国の防衛は、専守防衛を本旨とする 」とやってしまった。これがいつの間にか一人歩きし、 批判を許さない、時に「国家防衛の基本方針」である かのように、時に「国是」であるかのように君臨しつ づけてきた。国土を焦土化しても、国民の生命と財産を戦争に巻き込んでも、日本列島に敵を引きつけ撃破?せんとする、大東亜戦争末期の「本土決戦」「一億総玉砕」に似た危険思想を、この国は選択しているのだから恐ろしい。

ところで、自衛隊のPKO参加が「専守防衛空洞化」 につながるとは矛盾の極み。3月4日、第11期全国 人民代表大会(全人代)第5回会議の記者会見で、メディアより「軍事費の大幅増加」を追及された李肇星・ 報道官は臆目もなく次のごとく反論した。

「中国の軍事力と外交は全て平和維持のため。中国は世界平和に向け、全ての平和を愛する国・人民と共に多大な努力をしてきた」また、具体的数字も挙げ「2011年6月までに、中国は2044人の平和維持部隊を派遣し、世界12の地域で平和活動に参加した」

中国自身、PKOについて平和目的だと認めている のだ。だのに、日本がPKOに参加すると「専守防衛 政策が空洞化する」のだそうだ。

■非核三原則も撤廃?

人民網の報道に戻る。報道では三原則自体に対しても、緩和されれば「日本は世界の艦艇市場の60%、 軍用関連市場の25~30%を支配する」と危惧。その根拠について、朝日新聞を登場させ「日本が軍事力整備に力を入れれば、地域に軍拡競争と摩擦の激化を引き起こす」と予測させている。

オイオイ「激化」を引き起こしているのは中国ではないか。中国は過去23年間、1989年を除き、2桁で軍事費を増やしている。「経済成長に比例し軍事費が増える」とオウム返しに反論するが、軍事費増加率はGDP(国内総生産)増加率の2倍以上であることはバレている。具体的には、公表額だけで日本とインド、韓国の軍事費合計額と同水準。NATO(北大西洋条約機構)の上位8カ国の軍事費合計額よりも多い。

実際には、その3倍の隠れ予算を関連分野に埋蔵しているはず。人件費が安く、資源を一カ所に集中できる一党独裁・共産主義国家の実態も考慮すると、その不気味さは激増する。

人民網は、結論をこう導く。《世界の人々は武器 輸出三原則撤廃後、核兵器の製造・保有・持込を禁 止した『非核三原則』も撤廃されないかと懸念して いる。どのような結果になるか、注視が必要だ》

「注視が必要」なのは中国の方だが、中国の警戒対象は「注視」に値する。中国が望まない安全保障政策はそのまま、わが国が中国に主権侵害されない体制の構築を意味するためだ。

そうだ、専守防衛を空洞化などと遠慮せず葬り去り、返す刀で非核三原則も止めよう。中国のご指南に深謝する。



訪問団の真心が台湾民衆に伝えられた

九州不動産専門学院グループ九栄会(同窓会)会長 角 洋一郎

日華(台)親善友好慰霊訪問団は平成11年より毎年 台湾訪問を実施し、昨年で13次を数えるに至りまし た。訪問団は大東亜戦争で散華されたご英霊の顕彰 と、現地の方々との家族交流・兄弟交流を主な目的 としており、特に昨年の第13次では中華民國建国 100年の慶祝と台湾の方々に東日本大震災復興支援 への感謝の意を伝えるという大きな課題を背負って の訪問でした。当訪問団は、行政等の公式訪問でも なければ、多くの議員を擁しているわけでもなく、 一市井の人たちからなる民間の団体です。台湾各地 で催される各分野での交流促進の熱意は訪問団への 信頼であり、台湾人元日本兵軍人軍属への継続的で かつ誠実な慰霊訪問は、台湾の人たちに感動と尊敬 の念を与え、親密な紐帯を構築しています。

今回の訪問では、台湾の報道機関により、空港に 到着した初日から取材攻めにあい大々的に報道され たのをはじめ、念願の台中市政府への表敬訪問を成 就され、宝覚寺での慰霊式・慰霊祭が市政府の公式 ブログで告示され、当日の日本人墓地での慰霊式に は日本人観光客71人が参加しました。また、「あり がとう台湾 慶祝中華民國建国100年」と書かれた 横断幕を掲げ、移動のバスにも同様の張り紙をして 台湾中を走り回り、各地で大変喜ばれ、慰霊訪問団 は行く先々で手厚い歓迎を受けました。

私たちは、誇りあるこの活動を大切にし、『日 本』を再発見する訪問を末永く継続してゆきたいと

今後も世界一の親日国家である台湾との関係強化 と、一日も早い両国の国交回復を目指して、訪問団 と共に邁進して行きたいと考えております。



台湾に顔向け出来ない民主党の日本

日華(台)親善友好慰霊訪問団 名誉顧問 日高 誠

東日本大震災から1年、3月11日に政府主催の慰霊 祭が実施されました。その際、政府は外交団の一員 として台湾を遇せず、一般参加の2階席に放り上げて 平然としていました。さすがに国会で追求されるや 野田総理は申し訳ないと答弁し、陳謝しました。

また、藤村官房長官は天皇陛下の臨場と退席に際 して起立しませんでした。その上、記者会見で台湾 の処遇について「その件は外務省とも調整のうえで決 めたことで、田中内閣の日中国交正常化以来の方針 である」とうそぶいたのであります。

人口2千万強の台湾の方々から200億余の義捐金を 受け取っておりながら、政府として正式なお礼もし ませんでした。若しその理論を貫くならば、義捐金 の受領を拒否すべきで、「共産中国の政府を通じて送 金してくれ」とすべきでしょう。その際の国際世論 の沸騰を懸念したのか、黙って受け取っておりなが

らお礼は言わない。礼儀を知らない人間は日本人で はない筈です。剣道や柔道は勿論、相撲を見ても礼 に始まり礼に終わります。

今年も11月25日には台中の宝覚寺に参りますが、 台湾人に会わす顔がありません。今も「日本精神」を 大切にする台湾人に、恥ずかしくて礼儀を知らない 日本人と思われる事が耐えられないのであります。

「恥を知れ」これが日本人の伝統であり、歴史であ り、体質であった筈です。武士道の根本もそこにあ りました。戦争に負けたからと言って武士道を否定 することは許されません。それは国家の歴史を否定 することであるからであります。

国家意識の無い政治家よ、学者よ、国民よ、良心 を持て、正当な意見に耳を傾けよ。そして日本人と しての国家観念と自信を取り戻せ。これが私が最も 叫びたい緊急最大の声であります。



五官の働きで実体は見えてくる

日華(台)親善友好慰霊訪問団 団昌 永石 辰郎

私は、第12次と第13次の2回に亘り日華(台)親善 友好慰霊訪問団に参加しました。明治28年以来、 50年間に及ぶ台湾の日本統治時代の歴史やその後の 国情については、知人や各種の書籍により多少の関 心と知識は身につけていました。しかし実際に台湾 に足を踏み入れ、原風景に接し、現地の方々との直 接の交流で感じたことは、「百聞は一見に如かず」の 言葉通り人間のもつ五官の働きによってはじめて実 体が見えてくることを改めて痛感いたしました。先 の大戦で台湾出身の同胞、三万三千余人にも及ぶ戦 病死者に対する慰霊訪問には毎年、日本全国から心 ある有志が参加し、台湾各地の慰霊地で厳粛かつ盛 大な祭事を行います。その際、現地の方々より心温 まる直会をして頂きますが、心によぎる思いは何で あるかを考えてみた時、訪問団がこのような行事を 継続している真意が問われているような気もしてい ます。その意義と慰霊訪問に対する日本人のもつ価

値観を確認する一つの方法として、現地の各年代の 男女の方々と本音で語り合う機会が設けられたら、 想像だにしなかった意外な意見が生まれてくるかも 知れません。また日華(台)両国の親善友好を一段と 深化させていく手段になるかも知れません。

顧みれば、昨年の東日本大震災に際しては約200 億円近くの世界一の義捐金が寄せられました。それ はかつての同胞であったという心情の発露でもあり ましょうが、台湾から寄せられた思いやりの精神性 には感謝と感動を禁じえませんでした。このような ことを考え合わせるとき日本と台湾はそれぞれ独立 した二国ではあるが、精神的には正に一国の同胞と いう感を覚えることを結論として、次のことを提唱 して筆をおくことにします。

- 1. 日華(台)の親善友好は過去・現在・未来への道
- 2. 日華(台)の親善友好は国家と民生安定の道
- 3. 日華(台)の親善友好は国益の道



現地に立って想いを巡らせば、心は感動する

日華(台)親善友好慰霊訪問団 団員 小野 正明

統治にも品格がある。国民性の良否と為政者の資 質・能力によって定まる。

領有当初に内地から来た官民は傲慢で悪どく、住 民の反感と抵抗を募らせた。乃木総督は辞職し、次 の児玉総督は、強権を以って官吏千八十名を罷免、 不逞民間人を追放した。

児玉・後藤コンビが去った後、台湾の文化を軽ん じた性急な理蕃同化、更には皇民化施政が執られた。 差別を生じ、不満を抱かせたとの批判は否めない。 一方で、児玉・明石両総督の構想による教育、衛生、 交通、水利、殖産などのインフラ近代化は、優秀な 専門家を集めて着々と進められた。これが台湾統治 の成果とされている。

台湾人の精神は、苛酷な条件に揉まれて、強靭に して醇厚、加えて勤勉、義侠、勇敢な気風がある。 日本の戦況悪化に際して命懸けの志願により助太刀 をしたために三万三千余の戦没者を出した。動機は 極めて純粋な義心である。厚く顕彰せねばならぬ。

八田與一記念公園に往時の官舎が再現されていた。 一家揃って団欒の時を過ごし、また子供等が両親を 失った悲喜こもごもの家である。遺族の思いは如何 許りか。八田氏の遺体は一ヵ月後に洋上で発見され た。敗戦の翌年に建てられた墓には、御夫婦の遺骨 が揃って納められている。八田氏の銅像は、戦時中 に徴発されたが住民が隠し通し、後になって墓前に 移された。これらはすべて現地関係者の情念によっ て為されている。

現地に立って想いを巡らせば、心は感動する。五 日間の旅は感動の連続であった。

余談であるが、三月二十三日朝、テレビで台湾志 願兵の厳粛な入隊式と、高砂族主力の<薫空挺隊> レイテ出撃状況が放映されていて釘付けになった。



報道によれば、三月十一日の政府主催の東日本大 震災追悼式に遥々、台湾から参加下さった代表に献 花の機会を差し上げなかったとのこと。何たる非礼 であろうか。一年前、大震災が起きるや、どこの国 より早く駆けつけ、官民合わせて200億円ものどこ の国よりも多い義捐金。更に、救援隊は遺体袋まで 持参して下さった由。先の台中地方の大地震の際の 日本からの救援に対する恩返しだとしてもこの一事 をもって台湾が世界一の親日国だと言える。

陛下のお言葉の中に世界各国に対する深甚感謝の 辞があった。後に国会の予算委員会の席上、野田総 理は陳謝したが、一体何処の誰に気兼ねしてこんな 恥ずかしいことをするのか?

日本会議の機関紙『日本の息吹』に掲載された広 告が縁で台湾慰霊訪問団に連続4回参加したが、実 は小生には台湾に対する深い負い目がある。東芝の



私は、この日華(台)親善友好慰霊訪問団には二度参 加しました。初回の第11次への参加のきっかけは 『潮音寺』へお参りできるという全く個人的な理由 だけでした。父が乗船していた輸送船・玉津丸が昭 和19年8月にバシー海峡で米潜水艦に雷撃され戦死 していますので、一度は現地に行って父の霊を弔い たいと願っていたからです。この訪問で願いが叶っ たのは勿論ですが、同時に訪問団の目的が大東亜戦 争で散華された三万三千余柱の原台湾人元日本兵軍 人軍属の英霊顕彰と現地の台湾の方々との家族交 流・兄弟交流であることを知りました。更に、小菅 団長のバスの中で、或いは訪問先でのご挨拶により 団長のこの事業にかけた並々ならぬ熱い想いを知る に至りました。特に宝覚寺での慰霊祭で奏上された 祭文は感動以外の何ものでもなく目頭が熱くなった ことを思い出します。このとき私は、翌年の第12次 への参加を決意しました。

日本は道義の国であるはずだ

日華(台)親善友好慰霊訪問団 団員

岩本 宣善

海外事業部課長だった昭和四十七年(1972) に会社 は周四原則を承認して中共・広州交易会に参加した。 四原則の禁止条項のひとつに「台湾への多額の投資」 があり、多年手塩にかけて育てた合弁先、技術提携 先から資本を引き揚げる苦渋の選択をした。『鉢の 木物語』を好む台湾大同董事長に血涙の通告をした のが小生である。台湾は国連からも締め出された。 よって、小生の慰霊訪問の裏には贖罪の思いがある。

地勢学的にも台湾は日本のシーレーンの要である。 中共の侵略を許せば次は尖閣・沖縄・九州に覇権の 手が伸びてくる。一蓮托生である。周辺事態には集 団的自衛権を発動し、防衛せねば日本が危ない。

今こそ台湾に骨を埋めた明石元二郎台湾総督や義 によって金門島危機から台湾を救った根本博中将等 先輩諸氏の熱き心を継承し、台湾との生命の絆を強 化せねばならない。

英霊顕彰事業の継続を願う

日華(台)親善友好慰霊訪問団 団員 前原 清美

第12次の訪問ではバシー海峡へは行けなくても満 足でした。この英霊顕彰事業の目的を果たすことの 重要性を強く認識していたからです。宝覚寺での大 慰霊祭を中心に、六十先生のお墓や八田與一ご夫妻 のお墓、日本人墓地、高砂義勇隊戦没英霊記念碑な ど各地を訪問し、慰霊式に参列することができまし た。また現地の方々との交歓会では初対面ながらも 歓談でき充実した時間でした。第12次では若い人の 参加者が多かったことが頼もしいと団長は話されて いましたが、次世代への継承が重要であることの認 識の上での言葉と理解しました。

昨年の第13次も当然の如く参加を申し込んでいま したが8月に突然、心不全となり入退院を繰り返し たため参加できなかったことはとても残念でした。

今年の第14次には絶対に参加できるように治療に 専念しているところです。

下さったのです。 で、そういう国であり、国民であるからこそ世界も驚嘆するほどの援助をして湾、そういう国であり、国民であるからこそ世界も驚嘆するほどの援助をしてがアジア人に謝罪すべきは、大東亜戦争に負けたことだ」と温かく叱咤する台代史のテーブルマウンテンたる地位を確固として築いてくれた台湾、「日本人塗(まみ)れずわが国の戦死者をますます手厚く遇してくれる台湾、わが国近

の兄弟感・一体感が時空を超えていかんなく発揮・発揚されたのです。というでは、これであり、歴史の創世であり、他ならぬ台湾人の誕生そのものでした。皆様にとって父なる日本、母なる日本、そして帰るべき国・日本、わが国がた。皆様にとって父なる日本、母なる日本、そして帰るべき国・日本、わが国がた。皆様だにとって、五十年間に及ぶ日本統治とは清国の言う「化外の地」から皆様方にとって、五十年間に及ぶ日本統治とは清国の言う「化外の地」から

として散華された御英霊」にお応えする務めであるからです。
東に充実・拡大し若い世代に継承していきます。それはこの道こそが「日本人とをお祈りしてまいりました。今後も、この顕彰事業を風化させることなく、とをお祈りしてまいりました。今後も、この顕彰事業を風化させることなく、没者大慰霊祭」に参列させていただき、三万三千余柱の御霊の安らかならんこれ、本成十一年以来、私たちは宝覚寺における「原台湾人元日本兵軍人軍属戦

英霊のご遺徳を偲び、御霊の平安を心より祈念し、慰霊の言葉といたします。以上の決意も新たにわが国の近代史に稀有なる勇気と献身を刻まれたご

H

台

の生

^{上命}の絆

日本の一角に死守せむと

一角に起つ

民國百年 平成二十三年

十一月二十五日

皇紀二千六百七十一年

日華(台)親善友好慰霊訪問団

小菅

亥三郎

台湾訪問の旅 訪台者一覧 (第1次より第13次までの団員235名)

赤松 公昭 浅見 晃甲 阿部 敏彦 安部 雅俊 荒津 雅也 荒牧 賢二 有吉 忠助 有吉 弘子 安藤 政明 安藤 由紀子 飯島 志津子 家村 茂美 池田 裕二 章臣 石原 石原 石原 祐教 市川 憲三 市来 徹夫 井手田 洋基 健二 稲田 井上 俊治 井上 昌俊 井口 セツ子 井原 四郎

今村 之昭 岩渕 宣仁 岩元 照周 岩本 宣善 ウイクラマスレンドラサニー 牛島 康智 江頭 伸一 江崎 君公 エドワーズ博美 大嶋 俊英 太田 玲子 大塚 ヨシ子 大西 敬吾 大西 雅樹 大橋 昭仁 大庭 道夫 大林 さやか 緒方 俊美 小倉 和彦 小倉 弘子 小倉 美帆 克江 小副川 鬼塚 芳治 小野 正明

小野 実里 小濱 善和 折居 一志 正規 折居 加藤 聖三 勝敏 梶栗 柏原 正弘 金澤 明夫 千代美 金澤 金澤 礼 金子 孝夫 亀渕 武士 亀渕 喜久子 茅野 輝章 茅野 紀子 河野 一寿 神田橋 勉 治彦 木須 北浜 道 木付 辰生 木付 靖子 嘉平 木下 権作 木村 木村 賢二

木村 秀人 木村 孝子 尚枝 桐野 國武 利貴弥 國友 健男 久保 聡子 黒田 務 黄 楷棻 古賀 誠 古賀 靖啓 小菅 紀武吾 小菅 亥三郎 小菅 順子 小辨野 聖也 小松 友子 小松 正隆 小柳 陽太郎 五郎丸 浩 五郎丸美佐江 阪中 三幸 彰 坂本 櫻井 英夫 佐護 美和子

佐々木

建城

佐々木 佳重 佐竹 秀三 冬子 佐竹 正子 佐藤 佐藤 吉彦 讃井 健三 塩先 晋照 重松 源吉 重松 博子 章好 篠原 柴田 知則 柴田 好章 下田 健一 下田 純子 白水 キミ子 菅沼 寬 由美 菅沼 杉山 雄-角 洋一郎 妹尾 和之 高須賀 俊 高田 信一 治之 高野

佐々木

朗子

日華(台))親善友好慰霊訪問団を代表し、

原台湾人元日本兵軍 人軍属三万三千余柱の御霊の御前にて 謹んで祭文を奏上いたします。

祭 文

旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壌無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ』「教育勅語」より

三重の人災として被災地を襲いました。 を展開する恰好の舞台としか考えない彼らの無責任極まりない対応は二 半島や支那大陸に心の故郷(ふるさと)をおき、わが国を反日・嫌日・侮日活動 実行犯と限りなく深い関係をもつ人物を首班とする内閣であったことです。 された天災ですが、わが国にとってこれ以上に不幸なことは、時の政府が拉致 級の大地震とそれに続く大津波に見舞われました。後に東日本大震災と命名 く御意志と、これを担うべく国民のあるべき姿をお示しになられました。 米列強の軍事的重圧をはね返し、維新日本を守り、世界に伍して建国してい さて今年・平成二十三年三月十一日、私たちは千年に一度ともいわれる超 は明治二十三年の教育勅語の一節であります。この中で明 治天皇は欧

の離反をひきおこすにいたりました。 すり替え行為は、被災地の人々を戸惑わせ、その心を弄んだ結果、広範な国 る電力会社と、国策として推進してきた原子力発電であるといわんばかりの 自らの無能・無策ぶりには一顧だにせず、諸悪の根源は東京電力を始めとす

る義捐金に象徴されるように物心両面で惜しみないご支援をして下さった台 わず善意の洪水は枚挙に暇がありませんが、その中でも二百億円を優に超え 徳心の高さは世界中の人々に限りない勇気と感動を与えました。国内外を問 る生き方や相互扶助、 ように、被害にあわれた方々の辛抱強くも公(おおやけ)を第一に考え行動 艦隊の総力を挙げたトモダチ作戦を一方の軸とすれば、それと対をなすか それにひきかえ、十万人規模に及ぶ自衛隊の 一譲り合いの精神、「渇すれども盗泉の水を飲まず」の公 決死の救出活動や米海

出口

徳田

戸田

中尾

中島

中島

中嶋

中園

中村

中村

中村

中村

中村

中山

永石

永田

永田

永渕

永吉

南條

西田

西山

庭木

中島田

清

慎也

幸雄

博憲

公明

重夫

大介

公浩

哲

卓

朝子

英夫

辰郎

昌巳

裕章

正紀

實

洋

正二郎

タマミ

茂

那津子

信輔

たとえ負けても日本人でいたかったと悔しがる台湾、 今日の日本人のうち何人が知っていたでしょうか。反日の合唱団に加わらず、 しかし、このような国・台湾が最も身近にあり続けてきたということを一 、東京裁判史観の汚濁に

高橋

高原

田尻

田中

田中

田中

田中

田中

田中

田中

谷尾

谷口

田村

反田

反田

專

陳

塚田

塚本

辻森

土山

鶴田

鶴

谷

成子

裕之

雄一

伯央

純夫

秀男

キミヨ

美咲

道夫

秀幸

亜希子

侃

祐子

邦明

邦彦

征二

能久

弘美

栄一郎

彬

修輔

宝誠

怡勲

由美子

野口 ヨシエ 野田 正治 野見山 優亮 修平 羽音 濱田 修 原 千里 林 克紀 原田 和典 種雄 原田 原田 經子 原田 泰宏 東 昭臣 久野 智教 睦子 久野 誠 日高 日吉 淳治 日吉 悦子 平泉 弘美 平尾 武敏 明伍 平永 平永 由子 和彦 平野 平松 扶二雄 有美 廣石

福岡 滋子 史子 福田 洋子 福原 藤田 達男 藤村 星野 孝典 星野 友秀 堀川 克巳 治義 前田 前原 清美 前原 照美 又丸 斉次 松岡 祐貴 松下 美佳 松下 実 松俵 義博 松俵 茂子 松永 亜弥 簑原 政裕 三好 誠 村山 淳 村山 初美 晴治 森

森

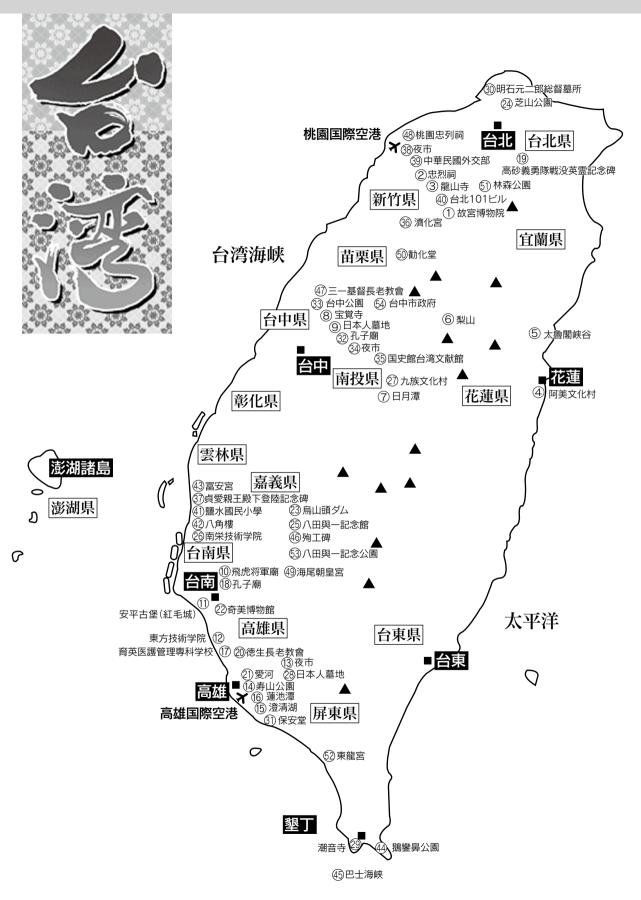
靖子

守田 昭雄 康彦 安河内 八尋 妙子 好史 山鹿 自然 山口 山口 秀範 山口 智子 英明 山口 山下 亜希子 山下 賢悟 山田 悟 横山 勝美 吉村 恭二 博朗 頼永 力武 崇樹 脇山 博文 一弘 渡邉 渡邉 瑞枝

学

森下

敬称略



〈一目でわかる訪問先・交歓先〉

〈訪問先〉(訪問年月日順/日付は初回訪問日)

- ①故宮博物院/H11.3.6
- ②忠烈祠/ H11.3.6
- ③龍山寺/ H11.3.6
- ④阿美文化村/ H11.3.6
- ⑤太魯閣峡谷/ H11.3.7
- ⑥梨山/ H11.3.7
- ⑦日月潭/ H11.3.7
- ⑧宝覚寺/ H11.3.8
- ⑨日本人墓地(台中)/H11.3.8
- ⑩飛虎将軍廟/H11.3.8
- ⑪安平古堡(紅毛城) / H11.3.8
- (2)東方技術学院(旧東方工商専科学校) / H11.3.8
- ③夜市(高雄·六合路)/ H11.3.8
- ⑭寿山公園/ H11.3.9
- ⑤澄清湖/ H11.3.9
- 16蓮池潭/ H11.3.9
- ⑪育英医護管理専科学校/H12.11.24
- ⑱孔子廟(台南)/ H12.11.24
- ⑩高砂義勇隊戦没英霊記念碑/ H13.11.26
- ②徳生長老教會/H14.6.8
- ②受河/H14.11.23
- ②奇美博物館/H14.11.24
- ② 鳥山頭ダム (鳥山頭水庫) / H14,11,24
- ② 芝山公園 / H14.11.26
- ②八田與一記念館/H15.11.24
- 20南栄技術学院/H15.11.24
- ② 九族文化村/ H15.11.25
- 28日本人墓地(高雄)/ H16.11.23
- ②潮音寺/ H16.11.24
- ③明石元二郎総督墓所/ H16.11.26
- ③保安堂/H17.11.23
- ③孔子廟(台中)/ H17.11.25
- 33台中公園/ H17.11.25
- 34夜市(台中·中華路)/ H17.11.25
- ③国史館台湾文献館/H17.11.25
- 36濟化宮/ H17.11.25
- ③前真愛親王殿下登陸記念碑/H19.11.24
- 38夜市(台北·士林区)/ H19.11.25
- 39中華民國外交部/H19.11.26
- 40台北101ビル/H19.11.26
- 4D鹽水國民小學/ H20.11.24
- 42八角樓/ H20.11.24
- 43富安宮/ H20.11.24
- 44鵝鑾鼻公園/H21,11,23
- 45巴士海峡/H21.11.23
- 46殉工碑/H21.11.24
- ④三一基督長老教會/H22.3.13

- 個桃園忠列祠/H22.3.14
- 49海尾朝皇宮/H22.11.23
- 50 勧化堂 / H22.11.25
- ⑤林森公園/H23.11.22
- ⑤東龍宮/H23.11.23
- 63八田與一記念公園/H23.11.24
- 每台中市政府/H23.11.24



現地メディアの取材を受ける小菅団長(台北)



現地メディアの取材を受ける松俵常任顧問(台北)

〈交歓先〉(交歓年月日順/日付は初回交歓日)

許國雄先生/ H11.3.8

台湾中日海交協会/H11.11.24

蘇金淵先生/ H11.11.25

蕭興従先生/ H11.11.25

詹徳寛先生/ H14.11.23

許文龍先生/ H14.11.24

何怡涵·陳清華ご夫妻/H15.11.24

台灣台日海交會(旧「台灣台日海交聯誼會」)/H16.11.24

台中市日本文化協會/H16.11.25

王春茂·馮英鳳ご夫妻/ H16.11.25

沈芳以·呉月雲ご夫妻/ H17.11.25

蔡焜燦先生/ H18.11.26

台日文化經濟協會/ H18.11.26

黄明山·葉美麗ご夫妻/ H20.11.24

黄崑虎先生/H21.11.24

ラバウル會/H22.11.24

台湾慰霊の旅

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
第1次訪問 23名 H.11.3.6~9 ±~火 ガイド 李燕光 神職 なし 旅行社 ヤマトトラベル	①故宮博物院 ②忠烈祠 ③龍山寺 ④阿美文化村	⑤太魯閣峡谷 ⑥梨山 ⑦日月潭	 ⑧宝覚寺 ⇒日本人墓地(慰霊式) ⑨飛虎将軍廟(慰霊式) ⑩安平古堡 ⑪東方工商専科学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ⑫夜市 	③寿山公園 ④澄清湖 ⑤蓮池潭
(15ヶ所)	(花蓮泊)	(日月潭泊)	(高雄泊)	
第2次訪問 17名 H.12.11.23~26 木~日 ガイド 陳 賜賢 神職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト	①蓮池潭 ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④育英医護管理専科学校 ⇒東方工商専科学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ⑤孔子廟 ⑥安平古堡 ⑦飛虎将軍廟(慰霊式) (台中泊)	⑧宝覚寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒霊安故郷碑(慰霊祭)⑨交歓会(台湾中日海交協会)(台北泊)	
第3次訪問 38名 H.13.11.23~26 金~月 ガイド 陳 賜賢 神職 古賀靖啓 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①故宮博物院 ②夜市 (高雄泊)	③東方工商専科学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ④孔子廟 ⑤安平古堡 ⑥飛虎将軍廟(神事) (台中泊)	⑦宝覚寺⇒日本人墓地(神事) ⇒霊安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑧交歓会(台湾中日海交協会)	⑨高砂義勇隊戦没英霊 記念碑(神事)
第4次訪問 38名 H.14.11.23~26 ±~火 ガイド 呂見涛 神職 古賀靖啓・田村邦明 旅行社 近畿日本ツーリスト (12ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③愛河⇒交歓会 (詹徳寛先生) ④夜市 (高雄泊)	⑤孔子廟 ⑥奇美博物館 ⇒交歓会(許文龍先生) ⑦飛虎将軍廟(神事) ⑧烏山頭ダム (台中泊)	②宝覚寺⇒日本人墓地(神事) ⇒霊安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑩交歓会(台湾中日海交協会) ⑪日月潭 (台中泊)	⑫芝山公園 (慰霊式)
第5次訪問 23名 H.15.11.23~26 日~水 ガイド 呂見涛 神職 堀川克巴 旅行社 近畿日本ツーリスト	①飛虎将軍廟 (神事) (台南泊)	②烏山頭ダム⇒八田與一・ 外代樹夫妻墓所(神事) ⇒八田與一記念館 ③奇美博物館 ⇒交歓会(許文龍先生) ④南栄技術学院 ⑤交歓会(何怡涵・陳清華 ご夫妻) (台中泊)	⑥宝覚寺⇒日本人墓地(神事) ⇒霊安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑦九族文化村 ⑧交歓会(台湾中日海交協会)	⑨芝山公園(慰霊式)

●ご協賛ありがとうございました。

十一周年おめでとうございます

台北駐福岡經濟文化辦事處

處長 曾 念祖

25(092)734-2810

〒810-0024 福岡市中央区桜坂3-12-42

不動産の総合プランナー 福岡県知事免許第(11)2626号

榎本ビル商事㈱

代表取締役社長 榎本 敏巳

1 (093) 531-4488

〒802-0081 北九州市小倉北区紺屋町1-12 榎本ビル301

総合建設業

松俵建設株式会社

取締役会長 松俵 義博

1 (0948) 42-1033

〒820-0205 嘉麻市岩崎1554-10

訪問先·交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
第6次訪問 8名 H.16.11.23~26 火~金 ガイド 林 英志 神職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト	①日本人墓地 (慰霊式) ②寿山公園 ③夜市	④潮音寺(慰霊式) ⑤飛虎将軍廟(慰霊式) ⑥交歓会(台灣台日海交聯 誼會)	⑦宝覚寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒霊安故郷碑(慰霊祭) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) ⑨交歓会(台中市日本文化協會) ⑩交歓会(王春茂・馮英鳳ご夫妻)	①明石元二郎総督墓所 (慰霊式)
(11ヶ所)	(高雄泊)	(台中泊)	(台中泊)	
第7次訪問 20名 H.17.11.23~26 水~土 ガイド 林 英志 神職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト	①保安堂 ②寿山公園 ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) ②交歓会(台灣台日海交別) ②交歓会(台灣台日海交別)		 ⑧宝覚寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒霊安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) ⑩交歓会(台中市日本文化協會) ⇒孔子廟⇒台中公園 ⑪交歓会(沈芳以・呉月雲ご夫妻) ⑫夜市 ③明石元二郎総督墓(慰霊式) ⑭芝山公園(慰霊式) 	
(14ケ所)	(台南泊)	(台中泊)	(台中泊)	
第8次訪問 35名 H.18.11.23~26 木~日 ガイド 簡 添宗 神職 なし 旅行社 協進観光	①保安堂(慰霊式) ②交歓会(何怡涵・ 陳清華ご夫妻) (台南泊)	③飛虎将軍廟(慰霊式) ④奇美博物館⇒ 交歓会(許文龍先生) ⑤烏山頭ダム⇒八田與一· 外代樹夫妻墓所(慰霊式) ⇒八田與一記念館 ⑥交歓会(台湾中日海交協会) (台中泊)	⑦宝覚寺→日本人墓地(慰霊式) →霊安故郷碑(慰霊祭) ⑧交歓会(台灣台日海交會) ※台中市日本文化協會合流 ⑨國史館台湾文献館(調査) ⑩濟化宮(慰霊式)	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ②講話(蔡焜燦先生) →交歓会(台日文化經濟協會)
第9次訪問 25名 H.19.11.23~26金~月 ガイド 簡添宗 神職 なし 旅行社 協進観光	①保安堂(慰霊式) ②奇美博物館 →交歓会 (許文龍先生) ③交歓会(何怡涵・ 陳清華ご夫妻)	④飛虎将軍廟(慰霊式) ⑤烏山頭ダム⇒八田與一・ 外代樹夫妻墓所(慰霊式) ⇒八田與一記念館 ⑥貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑦交歓会(台灣台日海交會) ※台中市日本文化協會 合流	⑧宝覚寺⇒日本人墓地(慰霊式)⇒霊安故郷碑(慰霊祭)⑨交歓会(台湾中日海交協会)⑩濟化宮(慰霊式)⑪夜市	②中華民國外交部 ③台北101ビル ④交歓会(台日文化經 濟協會)
(14ヶ所)	(台南泊)	(台中泊)	(台北泊)	

●ご協賛ありがとうございました。

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

旅行代理店 (社)日本旅行業協会会員

(株) JTBトラベル九州

取締役支店長 弓岡 正敏

2 (092) 732-8811

〒810-0001 福岡市中央区天神3-2-8 エキスプレスビル3階

教育正常化教職員ネットワーク

福岡教育連盟

執行委員長 副島 賢三

2 (092)631-2901

〒812-0045 福岡市博多区東公園7-7 福岡県庁地下1階

総合印刷

大道印刷(株)

代表取締役 今村 由紀男

2(092)582-0927

〒816−0873 春日市日の出町6-23

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

第10次訪問 31名 10高砂義勇隊戦役 英麗記念碑 10元 10元										
投票記念碑		第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目				
第11次訪問 30名 H21.11.22~26日~木 ガイド 蘭添宗 神職 なし 旅行社 JBトラベル九州 第12次訪問 46名 H22.11.22~26月~金 ガイド 蘭添宗 神職 なし (②要丁泊) 第12次訪問 46名 H22.11.22~26月~金 ガイド 蘭添宗 (高雄立) (②素質素質 (高雄立) (③素質素質 (高雄立) (③素質素) (〇字数質、(名)()で交数会) (高神中自奏 (記述) (③素性室(副本式) (○素質素) (○表質素) (○表質素	H20.11.22~26 土~水 ガイド 簡 添宗 神職 なし 旅行社 JTBトラベル九州	英霊記念碑 (慰霊式) ②芝山公園 (慰霊式)	④東方技術学院 ⑤奇美博物館⇒ 交歓会 (許文龍先生) ⑥飛虎需式) ⑦交歓会 (何怡涵・陳清華 ご夫妻)	與一·外代樹夫妻 墓所(慰霊式)⇒ 八田與一記念館 ③鹽水國民小學⇒ 八角樓 ⑩交歓会(黄明山· 葉美麗ご夫妻) ⑪貞愛親王殿下登 陸記安宮 ⑫富安宮 ⑬交歓会(台灣台日	地(慰霊式)⇒霊安 故郷碑(慰霊祭) ⑤交歓会(台湾中日 海交協会) ⑥濟化宮(慰霊式) ⑦夜市	⑩交歓会(台日文化				
H21.11.22~26 日 本	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,					_				
第12次訪問 46名 H22.11.22~26月~金 ガイド 簡 添宗 徐 永隆 神職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 第13次訪問45名 H23.11.22~26火~土 ガイド 簡 添宗 ② 芳鶴 (慰霊式) ③ 鳥山頭ダム→八田 與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式) ○ 万パウル会) ① 交教会 (河怡海・陳清華ご夫妻) ⑤ 海尾朝皇宮→ 飛虎将軍廟(慰霊式) ⑥ 保安堂(慰霊式) ⑦ 交教会 (黄明山・葉美麗ご夫妻) ② 高砂義勇隊戦没 英霊記念碑 (慰霊式) ○ 常子 (慰霊式) ○ 宗 (別霊式) ○ 宗 (別霊会) ○ 宗 (別霊社) ○ 宗 (別霊社) ○ 宗 (日) ○ (別霊会) ○ (別霊会会) ○ (別霊会会会) ○ (別霊会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会	H21.11.22~26 日~木 ガイド 簡 添宗 神職 なし 旅行社 JTBトラベル九州		③潮音寺(慰霊式) ④巴士海峡(献花式) ⑤奇美博物館⇒ 交歓会 (許文龍先生) ⑥飛虎将軍廟(慰霊式) ⑦交歓会 (黄明山・葉美麗 ご夫妻) ⑧夜市	與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式)⇒ 殉工碑(献花式)⇒ 介田與一記念館 ⑩交歓会(何怡涵・ 陳清華ご夫妻) ⑪鹽水國民小學(歓 迎式典)⇒八角樓 ⑫交歓会(黄崑虎先生) ⑬交歓会(台灣台日	地(慰霊式)⇒霊安 故郷碑(慰霊祭) ⑤孔子廟 ⑥交歓会(台湾中日 海交協会) ⑦濟化宮(慰霊式)	英霊記念碑 (慰霊式) ⑩中華民國外交部 ⑩交歓会 (台日文化經濟				
122.11.22~26 月~金	(20ヶ所)	【墾丁泊)	(高雄泊)	海交會)(台中泊) 	(台北泊)					
第13次訪問45名 H23.11.22~26 火~± ガイド 簡 添宗 呂 芳儀 僧職 塩先晋照 旅行社 JTBトラベル九州	H22.11.22~26 月~金 ガイド 簡 添宗 徐 永隆 神職 なし	(慰霊式) ②講話	與一·外代樹夫妻 墓所(慰霊式)⇒ 殉工碑(献花式)⇒ 八田與一記念館· 陳清華ご夫妻) ⑤海尾朝皇宮⇒ 飛虎将軍廟(慰霊式) ⑥保安堂(慰明山·	(歓迎式典) ⑨交歓会 (ラバウル会) ⑩宝覚寺(A班)、 台中公園(B班) ⑪交歓会(台灣台日 海交會)	地(慰霊式)⇒霊安 故郷碑(慰霊祭) ④交歓会(台湾中日 海交協会) ⑤勧化堂(献花式) ⑥濟化宮(献花式) ⑦交歓会	英霊記念碑 (慰霊式) (⑨中華民國外交部 ②交歓会 (台日文化經濟				
H23.11.22~26 火~± ガイド 簡 添宗 B 表音	(20ヶ所)		(高雄泊)	(台中泊)	(台北泊)					
	H23.11.22~26 火~土 ガイド 簡 添宗 呂 芳儀 僧職 塩先晋照	②高砂義勇隊戦没 英霊記念碑 (慰霊式) ③交歓会(台日文 化經濟協會)	(慰霊式) ⑥奇美博物館⇒交 歓会(許文龍先生) ⑦東龍宮(慰霊式) ⑧交歓会(黄明山・	⑩烏山頭ダム⇒八田 與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式)⇒ 殉工碑(献花式)⇒ 列工明與一記念 館⇒八田與一記 念公園 ⑪台中市政府 ⑫交歓会(台灣台日	(慰霊式)⇒霊安故郷碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日海交協会)					
	(17ヶ所)	(台北泊)	(高雄泊)		(台北泊)					

第13次 台湾親善友好慰霊訪問の旅

帰朝報告

期間

平成二十三年十一月二十二日(火)~二十六日(十)

参加者 四十五名

■十一月二十二日(火)

機内で医師の古賀先生が活躍

総勢四十五名の今次訪問団員のうち、二十二日福岡出発の三十六名は、八時に福岡空港国際線出発ロビーに集合し、搭乗手続きを終えた後、VIPルームで簡単な出発式を行いました。昨年に引き続いて今回も全行程を収録し、DVDを制作してもらうために、シネマトグラフの又丸斉次氏に団員として参加してもらいました。また、十一次訪問団のときと同様産經新聞に同行取材をお願いし、東京本社から頼永博朗氏が参加されました。

訪問の意義確認、役員紹介、諸手続の 説明等を終えた後、出国手続きを済ませ、 チャイナエアラインーー一便で十時二十 分台北へ向けて飛び発ちました。機内で 寛いでいた所、「お客様で具合の悪い方 がいらっしゃいます。お医者様か看護師 の方がおられましたら、乗務員までお声を かけて下さい。」という機内放送が流れま した。ちょうど団員の一員にお医者様の古 賀誠先生がおられましたので早速申し出 られて処置にあたられました。一時的な 体調不良ということで事なきを得たそう ですが、改めて古賀先生の同行を心強く 思いました。

台湾の地元メディアから取材

飛行機は、現地時間十一時五十分に 桃園空港に到着しましたが、第二ターミナ ルに降り立ちましたので、モノレールのよ うな乗り物で第一ターミナルに移動。今 回初めての体験でした。入国手続きを済 ませて待合室に着くと、今回で六度目とな るガイドの簡添宗さんが暖かく出迎えて 下さいました。ここで中部国際空港出発 の石原祐教氏と合流し、専用バスに乗っ て羽田空港出発組が待っている松山空 港へと向いました。空港に着くと、地元メ ディアの記者数人が待ち構えており、小菅 団長と松俵義博常任顧問が囲まれて共 同取材を受けました。団長は今回の訪問 の意義について、東日本大震災に対する 台湾の皆様からの世界一のご支援に対 する感謝とお礼、そして中華民國建国百 周年のお祝いであることを強調しましたが、この模様が台湾のテレビやインターネットで広く紹介され、多くの台湾国民に高く評価されたと仄聞しております。

インタビューを終えた一行は東京組の 八名の方々と共に専用バスに乗り込み、 最初の訪問先である中華民國外交部へ と向かいました。

黄明朗氏と向明徳氏に再会

外交部に到着すると、待っておられた のは奇遇にも元台北駐福岡経済文化辦 事處處長だった黄明朗亞東関係協会秘 書長でした。久しぶりの再会で懐かしく、 名刺交換の時に覚えていますよと声をか けて下さいました。

黄秘書長の福岡時代の思い出も含めた歓迎の挨拶に続いて、小菅団長が今回の訪問は従来の慰霊と交流に加えて、東日本大震災の復興支援への感謝と中華民國建国百周年のお祝いも目的としている旨の答礼の辞を述べ、耳目を集めました。そして図らずも建国百周年記念のバッジと名刺入れを全員が記念品として戴きました。黄秘書長を交えて外交部の玄関で記念写真を撮った後、一行は鳥来の高砂義勇隊戦没英霊記念碑へと向いました。

碑前に到着すると、周萬吉氏や邱克平 氏が待ち受けておられ、早速慰霊式を斎 行しました。国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献 花、団長挨拶の後、周萬吉氏が毎年沢山 の方が慰霊に訪ねて下さり、散華された ご英霊もさぞかし喜んでおられることと思 いますと謝意を述べられました。碑の周囲 は昨年よりも更に整備が進み、展望台も 新たに造られていて、もっと多くの日本人 に慰霊に訪れてほしいとつくづく感じまし た。その後少し山を下って、傳龍源氏の営 まれているお土産店に立ち寄り、茶菓のも てなしを受けましたが、出来たての熱いパ イナップルケーキをそこでいただき、美味 しい味が今でも忘れられません。

酋長文化村を後にした一行は台北市 内に戻り、台日文化經濟協會主催の歓迎 会に臨みました。会場は市内でも有名な 海覇王餐庁で、今回も各テーブルに団員 一人ひとりの名前を書いた席札が置かれていて、変わらぬ細やかな配慮に感じ入りました。鄭祺燿会長の歓迎の挨拶、小菅団長の答礼の挨拶が終ると開宴となり、美味しい料理に舌鼓を打ちました。この席に昨年まで福岡の辦事處でお世話になった向明徳領事事務局組長が同席されていて懐かしいと同時にお元気な様子に安堵しました。

来年の再会を約した一行は、ホテルに 向かう途中林森公園に立ち寄りました。こ こは明石元二郎台湾総督のお墓があっ た所で、総督と乃木希典大将の母上の鳥 居だけが残されて再建されていました。 二十一時を過ぎていましたので、周囲は 暗かったのですが、薄明かりの中で鳥居 と碑文を目の前にしてご冥福をお祈りしま した。その後宿泊先の慶泰大飯店で寛い だ後、ぐっすりと眠りました。

■十一月二十三日(水)

焼失を免れた飛虎将軍廟

ホテルで朝食を摂った後、一行は台北 駅八時三十六分初の新幹線六二一号で、 台南駅までの一時間四十五分の快適な 新幹線の旅を楽しみました。台南駅に着く と専用バスに乗って飛虎将軍廟へと向い ました。実は飛虎将軍廟は十月末に精神 障害のある地元の女性に放火され、被害 を受けていたのです。現地に着くと、廟は 原形をとどめ、内部も一部焼毀の後が残 るだけで、昨年までと殆んど変わらない姿 だったので安心しましたが、毎年奉納し 続けていた博多人形や干支の置物が焼 失していたのが正直残念でした。

廟の前に整列した一行は、廟顧問の蔡志宏氏の進行で、「君が代」の斉唱、献香、献花、献果、玉串奉奠、「海ゆかば」斉唱、萬歳三声と地元の作法で慰霊式を執り行いました。その後御祭神の杉浦茂峰兵曹長以下三柱に煙草を献上し、呉進池堂主他地元の方々から寒天(?)の入った飲物と果物のおもてなしを受けながらしばし談笑にふけりました。記念写真撮影の後、名残を惜しみつつ次の目的地奇美博物館へと向かいました。

奇美博物館に着くと、顔馴染の照子さ んと新榮市からわざわざ出向いて来られ た何怡涵さんが出迎えて下さいました。何 さんは昨年道路で転倒して頭を打たれ、 二度も大手術をされたと聞いていました ので心配しておりましたが、足取りもしつ かりしておられて安心しました。石榮堯氏 と前館長も交えて、準備されていた昼食の お弁当をいただいた後、照子さんの案内 で館内を見学しました。夥しい数の展示 品を一つひとつ説明を受けながら感動し て見て回りましたが、近い将来移転の計 画があるそうで、この地で見学できるのは 今回か次回が最後になるかもしれません。 見学を終えた一行が正面玄関前で記念 写真を撮ろうとしていた時、アメリカから のお客様と外出中だった郭玲玲館長が 駆けつけられ、「間に合って良かった」と 笑顔を見せられて、ご一緒に写真に収ま りました。

威風堂々の東龍宮に感動

奇美博物館の皆さんに見送られて出 発したバスは、屏東にある東龍宮を目指 しました。ここは田中綱常将軍が祀られて いる廟で、福岡の辦事處の呉沛晃副領事 からぜひ訪れてほしいと勧められていた 所で、高い階段の上に威風堂々たる立派 な廟が建立されていました。到着すると堂 主の石羅界さんと十一月上旬に訪問団 の事務局を尋ねて来られた息子さんの 李光立さんや十数名の地元の方々が温 かく出迎えて下さいました。早速国旗敬 礼、国歌斉唱、黙祷、献花の手順で慰霊 式を斎行した後、石羅界さんから田中将 軍からのお告げによる建立のいきさつ等 の話しを伺いました。廟の一隅には、東龍 宮を紹介した西日本新聞の記事が貼っ てあり、以前目にしたこともあって、不思議 なご縁を感じました。廟を守っておられる 地元の方々と、バナナやポンカンをいた だきながら談笑し、暖かいおもてなしに故 郷に帰った時の様な安堵感を覚えまし た。

名残を惜しみつつ東龍宮を後にした 一行は高雄市に戻り、黄明山台湾支部長 主催の歓迎夕食会に臨みました。会場に は支部長のご家族やご親戚、そして職場 の中国鋼鉄の社員の皆さんが待ち受け ておられ、一年振りの再会を喜び合いま した。支部長の長女で訪問団事務局の黄 楷菜の通訳で、支部長の歓迎の挨拶、団 長の答礼の挨拶に続いて開宴となり、各 テーブルで歓談の輪が広がりました。宴 が進むにつれて、東京から参加の古老の 方々の歌と踊りで大いに盛り上り、八十代 とは思えぬパワーに改めて感心しました。 恒例となりつつある「アイビャージャエイ ヤー」の合唱の後、来年の再会を約して 会場を後にし、宿泊先の華園大飯店で旅 の疲れを癒しました。

■十一月二十四日(木)

来年には完成予定の保安堂

三日目の最初の訪問先は高雄市内に ある保安堂でした。九時前に到着すると、 趙恵麗さんをはじめ地元の方々が十数 名朝早くから歓迎の準備をして待ってお られました。早速整列して、国旗敬礼、国 歌斉唱、黙祷、献花、団長の挨拶と慰霊式 を執り行い、建設中の廟の見学をしまし た。昨年は夜だったのでよく見えませんで したが、今年は明るい日差しの下じっくり と見て回りました。建物はほぼ出来上がっ ており、内部も松俵義博常任顧問が奉納 された龍柱が堂々と立っていて、その立 派さに感銘を受けました。一日も早い竣 工が待ち望まれます。見学を終えた後、い つものぜんざいや茶菓で接待を受け、地 元の方々と談笑してしばし時を忘れまし た。廟を背景に記念撮影をし、来年の再 会を約してお暇乞いをしました。

保安堂を後にした一行は次の訪問地 烏山頭水庫へ向かい、まず八田與一ご夫 妻の墓所に到着しました。昨年にも増して 整備されたお墓の前で、国旗敬礼、国歌 斉唱、黙祷を行い、谷尾侃名誉顧問がお 花を供えられ、八田技師の偉業を偲びま した。その後全員がお線香を上げてご夫 妻のご冥福をお祈りした後、八田與一記 念館へ向かいました。ここで、記念館で技 師の偉業を紹介するDVDを観るグルー プと、ダムの中腹にある殉工碑をお参り するグループに分かれました。殉工碑に 行くには急な階段を登る必要があるの で、ご年配の方は遠慮されるであろうと思 っていたのですが、豊図らんや、陸士第五 十八期生の八十代の皆様が参列され、戦 争を体験された方は戦後生れの私達とは やはり違うと感嘆した次第でした。殉工碑 の前で献花式を終えると、記念館グルー プと合流し、公園内にあるレストランで昼

食を済ませ、ダムの湖畔を訪れました。コンクリートではなく土を利用した特殊な工法で造られた壮大な人造湖を眼下にして、ガイドの簡さんと建設会社を経営されている松俵常任顧問の説明を聞きながら、改めて八田技師の先見の明と意思力の強さを感じました。

次に訪れたのは昨年新しく造られた八田與一記念公園で、初めての所です。八田技師がダム建設に取り組んでいた当時の建物を再現したもので、広い公園敷地内に技師の住居も建てられており、つつましい生活振りを垣間見ることができました。今後更に整備が進められ、新名所になって訪れる人が増えて、技師への評価が高まってゆくことを期待しています。

台中市政府で破格の接遇

烏山頭水庫を後にした一行は台中市 政府(市役所)で、この日日本を発った二 泊三日のBグループ七名の団員と合流し ました。新築されて間もない庁舎は銀色に 光り輝く立派なもので、その威容に圧倒さ れました。合流して勢揃いした四十五名は 隊列を組んで庁舎内に入り、昨年実現し なかった表敬訪問を果たしました。通され た会場は、市政府のトップクラスの人が 利用する一番立派な部屋で、破格の待遇 でした。接待して下さったのは蔡炳坤副 市長で、中学校の校長出身で実直な方で した。歓迎の挨拶の中で、十二年前の台 湾中部の大地震の際に日本の救助隊が 一番最初に駆けつけてくれたことを台湾 の人は忘れておらず、台中市民が義捐活 動を開始すると僅か二時間で八百万円 集まったことを紹介されました。これに対 し小菅団長は、大震災に対する世界一の 援助の淵源は、五十年間の日本統治時 代の先人の努力にあり、日本と台湾は地 下水でつながった兄弟国であって、八田 與一の功績を今尚顕彰し続けて下さるこ とに敬意を表しますと答礼の挨拶を述 べ、Bグループの金澤明夫副団長に持っ て来てもらった「復興支援感謝」の手拭い を贈呈して応えました。

小一時間の表敬訪問を無事終えると、 台灣台日海交會主催の歓迎夕食会に臨 みました。会場に着くと、簡朝陽新会長の 代理として林徳華前会長が会員の皆様と 待っておられました。林前会長の開会の 挨拶に続いて、小菅団長、石川県海交会 の湊氏が挨拶をされて開宴となりました。 顔馴染の方が多いこともあってすぐに全 員打ち解けて酒盃を重ねました。元従軍 看護婦だった女性の皆さんが、嬉しそう に昔の日本の歌を歌われていたのが印 象的で、いつまでも長生きして、歌声を聞 かせてほしいと目頭が熱くなりました。翌 日の宝覚寺での再会を約して海交會の 皆さんと別れた後、宿泊先の全国大飯店 で深い眠りにつきました。

■十一月二十五日(金)

日本人観光客七十名以上が一緒に焼香

いよいよこの日は、慰霊訪問団の最大 の目的である「原台湾人元日本兵軍人軍 属大慰霊祭」への参列です。宝覚寺に着 いた一行は、門前に供えられた慰霊団の 花輪の前を二列縦隊で行進して境内に 入り、先ず日本人遺骨安置所(日本人墓 地)で物故者一万四千余柱のご冥福をお 祈りするため慰霊式を斎行しました。お酒 と果物をお供えした後、国旗敬礼、国歌斉 唱、黙祷、献花、団長挨拶に続いて二人ず つお線香も上げました。今回は浄土宗西 福寺住職の塩先晋照様がご一緒でした ので、皆さんが線香を上げておられてい る間読経をしてもらいました。読経の中で の回向は初めてでしたが、眠っておられる 方への本当にいい供養になりました。

続いて、私達の慰霊式を遠まきに見守 っておられた日本人観光客にもご焼香を お願いし、記念品の手拭いをお配りしまし たが、その数何と七十名以上に及びまし た。実はこれには伏線がありまして、宝覚 寺の門扉に慰霊式・慰霊祭の予告と参加 お願いの札を掛けていたのです。それを ご覧になった方々がお集まりになったの で、今までにない数になったのだと思いま す。

慰霊式を終えると、「霊安故郷」の碑の 前に移動し、慰霊祭に参列しました。前日 の歓迎会でお見受けした方々の姿が何 人もありましたが、参列者が年々減ってい るのが気がかりです。昨年「台湾の若い人 をもっと沢山連れて来る」と発言された許 世楷前駐日台湾代表のお姿がなかった のが残念でした。ご遺族や各団体の代表 による祭文奏上が続きましたが、今年の 団長の祭文は東日本大震災に際しての 台湾からの群を抜くご支援の淵源が五十 年の台湾統治を通じて培われた兄弟感・

一体感にあることを喝破した格調高い内 容で参列者に深い感銘を与えました。

慰霊祭が終わると、台湾の皆さんと一 緒に記念写真を撮り、境内を散策した後、 中日海交協会主催の歓迎昼食会会場へ と向いました。会場には胡順來会長や会 員の皆様がお揃いで、会長の開会の挨拶 に続いて小菅団長がお礼の挨拶をし、開 宴となりました。早速胡会長がアコーデオ ンを弾いてサービスして下さったり、カラ オケが続いたりで大いに盛り上がりを見 せました。一年振りの再会で話が尽きませ んでしたが、次の濟化宮へ明るいうちに 着くように、名残を惜しみつつお開きとな りました。

新竹にある台湾の靖國神社・濟化宮に 着いたのは十六時過ぎで、日が暮れる前 に訪れたのは久し振りでした。謝鏡清菫 事長の案内で本殿へ上り、献花に続いて 二礼二拍手一礼で参拝した後、永田昌巳 副団長ご夫妻が「九段櫻」を吟詠されて、 ご英霊の御霊に捧げました。その後靖國 神社から分祀された四万余柱の霊璽を 拝見させていただき、社務所の前で特製 のお餅とお茶をいただきました。

謝菫事長をはじめ職員の皆さんの見 送りを受けて出発した専用バスは一路台 北市を目指しました。市内のレストランで の夕食会では、岩本宣善班長の粋な取り 計らいで、十一月生れの団員に「故郷」の 合唱の誕生プレゼントがあったりと、台湾 最後の夜を満喫しました。夕食を終えて、 宿泊先の慶泰大飯店に着くと、希望者十 名余りは士林夜市の見学に出かけまし た。再開発で夜市が移転するかもしれな いという計画があるそうですが、相変わら ずの賑わいで、沢山の露店と人出に今年 も台湾の活力を感じ、中国に負けるなと 心の中で声援を送りました。小一時間の 散策を楽しんだ後、ホテルに戻り帰国の 為の荷物の整理をしました。

■十一月二十六日(土) クリスチャン墓地で読経

ホテルで早目の朝食を摂り、最終日の この日は台北県三芝郷にある明石元二 郎台湾総督の墓所をお参りするために、 少し早目にホテルを出発しました。昨年は バスの運転手の怠慢で墓所を訪れること ができなかったので、今年は万全の手配 で臨みましたが、何とか無事に到着し た時には正直ホッとしました。墓地の中腹 にある総督のお墓の前に整列した一行 は、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花に続 いて、クリスチャン墓地であるにもかかわ らず、紙コップで急きょ線香立てをこしら え、お線香を上げました。しかも、塩先住職 に読経をお願いすると、いいですよと快諾 され、クリスチャン墓地で読経の中お線 香を上げるというチグハクな形でしたが、 心のこもった慰霊式を斎行しました。お墓 の明石総督も苦笑されたかもしれません。

予定外の芝山公園を訪問

墓所を後にした一行は、時間に少し余 裕があったので、予定にはなかったので すが、土林にある芝山公園に立ち寄るこ とにしました。ここには六十先生のお墓が あり、公園に到着すると「学務官僚遭難之 碑」の前で六人の先生方を供養するため に慰霊式を行いました。国旗敬礼、国歌 斉唱、黙祷に続いて、六士先生にゆかり のある国民文化研究会の会員でもある 古賀誠氏に献花と挨拶をしてもらいまし た。思いがけない訪問、そして献花に古賀 氏が謝意を述べられて式を終えました。

その後毎回立ち寄る土産物店に入り、 買い忘れのお土産を買い求めてショッピ ングを楽しみました。買い物を終えた一 行はレストランで飲茶の昼食を摂った 後、松山空港に寄り、ここで羽田空港へ向 かう七名の団員と来年の参加を確認して 別れを告げました。福岡空港と中部国際 空港へ向かう残り三十八名は、桃園空港 で五日間お世話になったガイドの簡さん にお礼を述べ、来年のガイドもお願いし て、出国ゲートへ進みました。福岡組三十 七名は十七時三十五分発のチャイナエ アライン一一○便で桃園国際空港を飛 び発ち、二十時四十分(日本時間)、福岡 空港に着陸しました。入国手続きを済ませ た一行は、空港ロビーで簡単な解散式を 行い、全員の無事の帰国と台湾の皆様方 の心温まるおもてなしに感謝しつつ、沢山 のお土産と思い出を抱え、一月の帰朝報 告会での再会を約して帰路につきました。

(文責 原田和典)

第13次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 紀行文集(抄)

掲載は名誉顧問・常任顧問・副団長・班長・副班長・一般団員・新聞社の順とした。

凡生を我國に禀くるもの 誰かは國に報ゆるの 心なかるべき

をにお ただし 名誉顧問 谷尾 侃氏

一、教育勅語尊崇の国で軍人勅諭を 復習

小菅団長殿の今回の旅行参加勧誘 の文に、軍人勅諭第一項「一、軍人は 忠節を盡すを本分とすべし。凡生を我 國に禀くるもの、誰かは國に報ゆるの 心なかるべき。況して軍人たらん者は、 此心の固からでは、物の用に立ち得べ しとも思はれず」の下線部を引用してお られた。久方振りにこの文に接し、懐し さから、手許の詔勅集を繙いて「陸海 軍人に賜はりたる勅諭」(明治十五年 一月四日)全文を朗読したら、気分が すっかり生徒時代に帰り爽快感を味わ うことができた。その後、何回か繰り返 し奉読する中に現今の人々にこれを理 解して貰ったら、大変素晴らしい事だと 思い今度の旅行メンバーならこれに応 じて貰える人が何人かいる筈と三冊購 求して持参した。

軍人勅諭は万葉仮名が種々使われているのが特徴で、生徒時代は原文に忠実にその使用されている所にそれぞれの字を当てて奉書するのに苦労したが、この度は難読文字は現仮名との対応一覧を別に作り、付録とした。石原さんの他、木下・金子さん(二名?)に呈上したと思うが、帰宅後の勉強進捗如何かと案じている。

二、軍人階級は属地か?属人か?

この度、初めて明石総督の墓を参拝した。

同氏は一八六四年生れ、一九二五年生れの小生は六十一年も後輩である。士官学校は途中で制度が変わって、新制度の一期生を現在は一期生と称し、旧制度の明石さんは旧八期生と称している。私は陸士第五十八期生であるが、海兵に行った同僚は十五年も古い七十三期を名乗っている。

ところで明石さん墓付属の履歴に ○○年中校、○○年上校と中国の階級 で記載されている。(校は佐官を指す)。 台湾は中国語圏ではあるが階級は個 人に与えられたもの、日本人である明 石さんの履歴は中佐、大佐と日本軍の 階級で処理してほしいと思った。

日本人よ台湾に学べ

ひだか まこと 名誉顧問 日高 誠氏

今回で三回目の参加となりましたが、 約半数の人が初参加の方で、小菅団長 の気遣いも大変だったと思います。田 中将軍の廟は初めての参加で、私には 乃木大将の静子夫人が祀られておら れる点については、俄に信じがたい感 じがしました、原田事務局長の説明を 聞きたいと思います。飛虎将軍廟に於 いて小学校の学芸会に子供達が演じ て居る話には感激しました。日本の学 校では考えられない話であるからであ ります。

次に士林の六士先生の墓にお参り した時に、添乗員の簡さんの説明によ ると、明治二十九年二月一日に六人の 日本人教師がここのお寺で日本語の 教育を始めたが、未だ治安は悪く当時 の生蛮族の反対で殺された事件であ るが、戦後は墓を壊されて居たのを、李 登輝総統の時代に名誉を回復し現在 の立派な墓が再建され、現在は毎年二 月一日に台湾中の台北から台南まで の総ての大学・高校・中学・小学校の生 徒達が朝礼の時にこの士林の六士の 墓の方向に向かって礼をする、と言うこ とであった。この話は私にとって物凄い 衝撃を与えた。何故ならば戦後六十六 年の台湾の政治が現在の馬英九総統 の国民党政権と同様であったのならば 額けるが、戒厳令下の政治から李登輝 総統の時代になって初めて民主的政 治が実施されて来た筈である。現在の 馬政権はどちらかと言えば中国と友好

を旨としている、と私は認識しているが、 それでもこの様な国民教育が実施されている、とするならば、翻って日本の日教組に毒されて、国歌の君が代を歌わない、歌わせない教育界の状況を考えると、日本は台湾に学ぶべきである、と思う次第である。

台湾人の従軍看護婦で従軍し広東 の陸軍病院で日本人看護婦と一緒に 勤務された日本名東恵美子・陳恵美さ んが「台湾人従軍看護婦追想記」と題 する本を、日本の展転社から出版され ている。その本を戴いた中に、終戦に なって日本軍は当時の国民党軍に降 伏の手続きをしたのであるが、国民党 軍は台湾出身の三百名の従軍看護婦 を台湾に帰すけれどもお前達は元々中 国人であるから、国民党軍に身柄を引 き渡せ、と云うことになった。その時婦 長さんが「皆さんは国民党軍に行った らどんな目に合うかも知れない。若し凌 辱されるような事態になったらこの昇 **汞錠を飲んで自決しなさい。」と言って** 一錠づつ渡されたが、その様な事態は 起こらなかったが、日本名「大林宏子」 さんが「私は中国人に戻りたくない。日 本人として死んで行きたい」とこの昇汞 錠を飲んで自決された事が書いてあり ます。この記事を読んで感激しない日 本人は一人も居ないと思います。うら若 き十九歳の乙女の心情を思うとき、日 本の特攻隊の心情と愾を一にするもの と思います。

アメリカの日本占領対策に毒されて、 国家観念を喪失し、生活の安定と自由 を求めて、権利のみの主張に終始し、 義務や公共の福祉や国家在っての国 民である事を知らない、知らせないメ ディアの態度は、恐ろしい思想教育の 謀略としか考えられない。日米安保に よって国家の防衛を他国の軍隊に任せ、 自衛権が有るとは言え、憲法によって武 器の使用を放棄し、武器はあれども使 用出来ない国家が、独立国と言えるだ ろうか。警察官の正当防衛しか頭に無 い憲法では、個人の責任で刑法に問わ れながら国を護れ、としている。

台湾の人々が領台五十年の間に学 んだ事は「一日緩急アレハ義勇公二奉 シ・・・・と言う教育勅語の教えを受け継 いでいるからである。今こそ日本は台 湾に学ぶべきである。昨年の獅頭山勸 化堂に於けるマニラから帰国した元警 察官の方が「日本の皆さん速やかに教 育勅語を復活して下さい・・・」と訴えら れた顔が忘れられない。

日本は経済復興の為に共産中国と 和を結び、台湾を中国の一部と認めて 放棄した。その台湾が常に共産中国の 武力侵攻を背にしながら経済復興を 果たし、中国にも多くの工場を進出して いる現実をみるとき、田中角栄を頂点と する歴代自民党政権の無能振りが今 日の民主党政権の無策振りを招いて いる事を認識し、日本人の精神愬興こ そ急務であると思うものであります。「主 権在民」と憲法に書いてあっても主権と は国家に存在するものであって、国家 あっての国民であるという大原則を忘 れてはいけない。地方分権をうたう思 想には地方に主権ありとする。民主主 義の欺瞞と、そのように方向づけてきた、 アメリカや中国の意図が、即ち謀略が 潜んで居る事を読み取らなければいけ ない。その根は深くマルクスの共産主 義理論よりドイツのフランクフルト学派 の思想(裏にユダヤ有り)が、百年前の 日露戦争の時代から、何故英国は日本 と日英同盟を結んだのか、米国の対日 政策の歴史を分析して、排日移民法撤 廃から経済封鎖に至る経緯、そして日 支事変に際しての援蔣排日、戦後の国 共内戦にどちらを援助したか、ルーズ ベルト大統領は勿論、歴代大統領の側 近に在ってその政策を操った裏の事 情を勉強しなければ、今日の日本の置 かれた状況を理解する事は出来ない。 NHKをはじめ日本のメディアは総て牛 耳られて、正論はいっさい報道されなく なっている。天皇陛下をはじめ皇室関 係の報道における敬語の使い方を見 ても、天皇皇后両陛下と申し上げるべ き言葉を天皇ご夫妻と呼ぶが如きは、 何時の間にか国民に我々平民と同じ 目線で、同じレベルで皇室を見るよう に仕向けているのである。

外国人参政権にしても夫婦別姓にし ても、選択するから良いではないか、と 云うマジックがかかって、その方向が 何を意味するのかを判断しなければい けない。多くの日本人は生活の安定が 得られれば、その様な事には無関心で あるが、これでは日本と言う地名は残っ ても日本と言う国は亡くなって行く事を 改めて認識しなければいけない。これ が生活よりも何よりも目下の急務である と思う。

「日本人よ台湾に学べ」・・・これが今 回の慰霊訪問の成果であり、テーマで あった。

来年も再来年も台湾に参りたいと 思っている。

保安堂で結ばれた 不思議な縁

常任顧問 松俵 義博 第一班 茂子氏

昨年に続き今回三度目の参加で、十 一月二十二日出発前の朝は霜で真っ 白い寒い朝でした。第十三次日華(台) 親善友好慰霊訪問団で松山空港に着 いた時、きのう迄雨で今日は天気にな り気温三十度との事、温度差にびつくり。

四泊五日のスケジュールで一日一 日が意義のある旅でした。台湾との絆 に感動。

高砂義勇隊では回をかさねるごとに 道路も整備されていました。

飛虎将軍廟でファックスが届いてお会 いした事もない方より「福岡の松俵様、 友達になってもいいですか? 東日本 大災害に台湾の方が個人で一〇〇〇 元、市長が一ヶ月の給料を寄付されて いる」事が書かれていました。きれいな 日本語で、読んでびっくりしました。新聞 で知ったとの事、感動感動です。また今 回東龍宮にはじめて行きましたが、今 年保安堂のお祭に出席した際にお会 いし、ぜひ来て下さい、と言われていた 所とのこと。またもびっくり、縁は通じる ものですね。人と人との出会いがどれ だけ尊いか、ちょっと目線を変えること によって又新しい台湾が見えてくるか な・・・と思いました。

保安堂で龍の柱が気になり、胸をド キドキさせながら柱の前で嬉しくて涙 が出ました。

行く先々で大勢の皆さんが笑顔で出

迎え、又一人一人にお土産を準備して 下さり、やさしい気持ちに感謝です。あ りがとうございました。道徳が欠落して いる日本人は見習わなければいけな いと思います。気付かないで一生過ご すより台湾に行くと良くわかる事ばかり です。

台中市政府表敬訪問は出来たばか りの大きな建物で、日本では考えられな いほどの歓待を受け感動でした。

宝覚寺慰霊式では三万三千余柱の 方々の日本人として戦われた姿に頭が 下がり胸が一杯で、祭文が読み上げら れた時、涙が止まりませんでした。本来 日本人がしなければならない事を続け てくださって感謝感謝です。私達に出来 ることは台湾に慰霊に行くこととよく小 菅団長が説明されますけれど、よくわか ります。

明石元二郎台湾総督墓地に行きま した。近頃明石元二郎総督のことをテ レビで見ましたが、すごい人だったの

小菅団長、スタッフの皆さん、お疲れ さまでした。本当にありがとうございま した。またぜひ参加させて下さい、よろ しくお願いいたします。再会があり、又 新しい出合いもあり感謝です。

日台は深く地下水で つながっている

ながた まさみ 副団長 永田 昌巳氏

今回の第十三次日華(台)親善友好 慰霊訪問団は三つの目的をもっての訪 台となった。

一つ目は宝覚寺における英霊慰霊 祭に参加し、現地の人たちとの親善交 流、二つ目は中華民國の建国百年の 慶事のお祝い、三つ目は東日本大震災 という未曽有の惨事において、二百億 円をこす、世界一の義捐金を差しのべ てくれた台湾への感謝である。

まず、台北桃園空港に到着し外に出 てみると道路際にずらりと青天白日満 地紅旗(赤地に左上四分の一に青天 白日と同じ模様を染めた旗・中華民國 の国旗) が掲げられ建国百年を祝って いる。

松山空港で東京組と合流するや現

地のメディアの取材を受け訪問団の目的がインターネットで報道された。謝謝台湾・慶祝中華民國建国百年の赤い横断幕の写真を掲載し、小菅団長以下四十五名の訪問団はこれまで十三回台湾を訪問していることや、中華民國建国百年を祝うと同時に台湾からの震災義捐金の謝礼を行っていると伝え、「世界各国の中で最高の義捐金は日本の全国民が感動し、この台湾の支援は永遠に忘れない」という団長の言葉も紹介した。初日から目的を達成するスタートである。

今回の訪問団には産經新聞の記者や行橋市西福寺住職も加わった。産經新聞の台湾慰霊訪問の旅《生命の絆》五回にわたる連載は日本と台湾の長い歴史の真実を国民に正面から伝える重要な役割を果たし、又、僧侶の読経は宝覚寺における慰霊祭を一層厳粛なものとし、御英霊もさぞかし喜んでおられることだろう。

今回の旅では初めての訪問地が幾 つかあった。台中の市政府表敬訪問も そのひとつである。宝覚寺における慰 霊祭のPRが目的とされていたが思わ ぬ大きな収穫があったと思う。応対した 蔡副市長は十三回にのぼる慰霊訪問 団の訪台に感謝を述べた後、「皆様を 歓迎するために一番大事な会議室を 使用します。皆様は台湾の大臣です。小 菅団長は日本の代表です」と敬意を表 した。十二年前に発生した台湾大地震 の折は日本から多くの支援を受けた。 今回の日本の大震災に対しては大変 関心を寄せている。当日雨であったが 多くの市民が義捐金を持ち寄ったと述 べこれからも仲良くしたいと交流を 誓った。

これに対し団長は作ったばかりの記念の手拭いを蔡副市長に渡し、国賓級のもてなしを受け有難うございますとお礼を述べ「隣人にもいろいろある。商売上仕方なく付き合わねばならない厄介な隣人もいれば困ったときお互い助け合える隣人もいる。日本と台湾は真の友人、隣人だ」と返答し、日本をはじめ国際社会は台湾を独立国家として認知すべきと表明した。表面上は目立たないが、『日台は深く地下水でつながっている』という訪問団の思いがいつの日か鳥居信平の地下ダムのごとく地上に

噴出するであろう。初訪問であった台中市政府訪問は日台の交流の核心を ついた素晴らしい対話の交換の場と なった。

宝覚寺における霊安故郷の慰霊祭では、読経の続く中、小菅団長の祭文奏上のあとをうけ、左腕に白地に赤十字の腕章をつけた八十歳代の女性が原稿も用意せず直立不動、しかもしっかりした日本語で切々と弔辞をのべられる姿に感銘した。

「日本教育一筋に生き抜いてきた。 皇軍の喜びもつかの間、戦後どん底に 落とされた。列強による植民地から解 放された喜び、今は自由と平等の理想 郷となったがこれも偏に先達の尊い命 のお陰です。これからもこの交流が末 永く続くことをお祈りいたします」と結ん だ。

高齢化に伴い慰霊の継承が危惧されるところだが一筋の光明を感じたのが飛虎将軍廟にあった。例年と変わらぬ熱烈歓迎ぶりだが目を引いたのは廟内の壁に掛けられた数枚の写真である。子供達が胸に日の丸をつけ、頭にはヘルメットのパイロット姿で飛虎将軍杉浦少尉の劇を大勢でやっている写真があった。横に杉浦茂峰少尉の凛々しい姿の写真も掲げられていた。台湾では子供の時から公に奉ずる精神の大切さをこの日本人から学んでいるのである。

最終日には明石元二郎第七代台湾 総督の墓参りが出来た。昨年は念願か なわなかったが今回は実現し、明石総 督墓所を現地で確かめることができた。 林森公園の日本人墓地から台北市三 芝郷(李登輝元総統の生まれ故郷)に ある福音山基督教墓地へ移され、安か らに眠られている。一九一八年(大正七 年)から一年あまりの台湾での仕事が どれほど台湾近代化の礎を築いたこと か。正に郷土が生んだ英雄である。そ れにしても林森公園の二つの鳥居が 何とも寂しく建っている姿は目に焼き付 いて離れない。中国国民党がこれまで やってきた日本人墓地破壊、これもま た歴史の真実である。今、日本で一番 大切なことは、真実を如何なる困難が あろうとも勇気をもって伝えることにあ る。

最後の中日海交協会による歓迎の

昼食会で一人の女性に^{*}日本は親日 政権となって下さい、と一冊の本をいた だいた。

「恥ずかしい」と 「感謝」の訪問

たなか みちお 副団長 田中 道夫氏

今回の訪問は、これまでとは違った 二つの目的が追加されました。東日本 大震災への支援に対する感謝と中華 民國建国百年への祝意を伝えることで す。台湾入国審査を受け、台北の地を 踏んだ訪台一日目、台湾政府外交部 を表敬訪問し、台日文化経済協会によ る歓迎の夕食会に招かれました。私の テーブルには外交部亜東関係協会の 専門委員の楊氏が同席し、私は楊氏に 今回の東日本大震災の支援のお礼を 述べました。

楊氏「私たち台湾人は一九九六年の台湾大震災の時、日本人が支援をいち早く送ってくれたことを決して忘れてはいません。その支援活動で、日本人がどれだけ我々台湾のことを大切にしているか再確認できました。日本人が、被災地での活動で助けることができなかったご遺体を前にして、黙とう最敬礼をし、『申し訳ありませんでした。』と整列し頭を下げている姿を見て、私たち台湾人はどれほど救われたかわかりません。今度は私たち台湾人が恩返しするときです。頑張って下さい。」

さらにこの後、私は楊氏から新しい 事実をお聞きすることができました。

楊氏「台湾政府は三月十一日には対策本部を立ち上げ、救援物資のリスト(おしめ、ミルク、生理用品、電池等)を作り、日本に送りました。私(楊氏)は羽田空港で待機し、三月十四日に救援物資を受取り、十トントラック四台で被災地に向け出発しました。」

私は楊氏に「その日は雪が降り、ガソリンは無く、渋滞し寝る所も無かったのではないですか?」と尋ねました。

楊氏「はい、私たちはトラックの中で

寝ました。そして三月十七日に宮城県 庁に到着しました。」

このことを私たち日本人は知りません。又、日本政府やメディア、マスコミにも報道されていません。何故・・・私は怒りを感じました。あの時、欧米諸国の政府機関、企業関係、特に支那人(中国人)達が事務所を移転したり帰国したりする中、あえて誰が現地に行こうとしたでしょうか。米国は「ともだち作戦」として現地に救援部隊を送っていますが・・・。台湾政府の救援報道は私たちの目や耳に届いていません。台湾は日本にとっては世界で唯一の親日国家です。私は「今でも心は日本人です。」という台湾人を多く知っています。「真の友」「絆」とは何なのでしょうか。

我々の台湾訪問の前後に台北駐福 岡経済文化辦事所(領事館)の黄氏、 福岡台湾留学生会会長の林氏にお会 いする機会がありました。外国人登録 証には国籍は中国になっています。台 湾という国名(中華民國)ではありませ ん。黄氏も身分は外交官ですが、入国 審査では中国人、韓国人は外交官専用 の通路で入国できますが、台湾外交官 は国交がないため一般人と同じです。 これが日本政府と中国のやり方です。 日本はいまだに支那の属国でしかない のでしょうか・・・。

又台湾の留学生の誰もが台湾人とし ての誇りを持っています。

留学生 林氏

「私たち留学生は日本で学問や社会活動、就職活動に一生懸命です。でも一つ哀しいこと、辛いことがあります。 『あなたは中国人ですね。』と相手に言われることです。『私たちは違います。台湾人です。(文化も教育も歴史も民族も独立しています)』と答えます。」

今回日本政府は(文科省)は私費留学生を支援するため、国費留学生として奨学金を受けられる措置を決定しました。しかし、「日本と国交のある国の国籍を有する者」が対象であるため、台湾留学生は申請ができません。今回大震災で台湾から二百億円の義捐金が寄せられた中、留学生の方達もまず必要なものはお金だと判断され、一人当

たり五万円の義捐金を苦しい生活費の中から我々被災地の人達にいち早く寄せてくれています。これに対して日本政府はいったい何を考えているのか理解できません。日本のこのような仕打ちを台湾政府は自国民には知らせてはいません。もしこの事を台湾の人々が知ったら親日から反日になるのではないかと憂いています。まして義の国日本にとっては「恥」です。恥ずかしくて何とお詫びすればよいかわからず、私は黄氏、林氏に「申し訳ありません。」「ごめんなさい。」と言うことしかできませんでした。

訪問団の目的は慰霊、そして台湾と の親善友好です。私はいつも数多くの ものを得ることが出来ます。日本人とし ての誇りを新たに感じる契機でもあり ます。しかし今回は誇りより「恥」を感じ ます。私の誇りは一体何だろうか・・・慰 霊祭はまず国旗に向かい一礼、続いて 君が代国歌斉唱、一分間の黙とう、祭 文の奏上後一礼、厳正粛々と行われま す。訪問中にこの慰霊祭が十数回行わ れます。台中市宝覚寺日本人墓地には 一万四千余柱を、台湾軍人、軍属を三 万三千余柱をお祀りしています。又台北 県烏来郷には「高砂義勇兵」の英霊記 念碑、新竹県には済化宮(台湾の靖國 神社)があります。ここに祀られている 英霊は、かつて日本人として戦い、散華 された台湾の若い青年達であり、その ひとつしかない命を捧げたのです。一 体誰のために、何のために、そして彼 等の夢は何だったのでしょうか。また彼 等の両親は、兄弟はどんな想いだった のでしょうか。答えは「日本人だったか ら」ではないでしょうか。日本は当時台 湾を教育(学校)制度、工業、農業、病 院その他すべてにおいて日本と同じよ うに豊かで幸せな民族としての価値観 で考えていたに違いないと確信してい ます。

人間としての差別なき国造り、人造りを行ったと信じたい。だからその当時台湾人は居なかったのです。今現在日本・台湾が国際社会においてあるのは、元日本人として戦い、尊い命を捧げた方々のおかげではないでしょうか。今現在に生きる我々日本人は、彼等英霊に感謝こそすれ、どうして粗末にできるでしょうか。これまでの日本政府の台湾に対する仕打ちを見ていると、真の友、家

族、兄弟としての絆はどこに行ったので しょうか。支那に遠慮し義を捨てるので しょうか。

私は今回の訪問で、かつて台湾で多 くの日本人が携わってきた事で現在の 台湾があるという見方をしていました。 確かに教育制度においての六十先生、 農業改革をするために八田ダムを造っ たり、数多くの政治、経済を導いた先達 が偉業をなしえたことは事実ですが、 私は日本が台湾に与えたものではない と思います。日本人があれもこれもやっ た、だから今日の台湾が存在するのだ と優越感に酔いしれているだけではな いかと感じると、私自身悲しくなってきま した。それはただの「上から目線」でし かありませんでした。私達日本人は、台 湾人から多くのことを得、そして学んで います。それは日本人としての新たな誇 りです。私たちは日本に暮らし生きてい ますが、台湾には真の日本人が失った 大事な誠心が生き続けています。あり がとう、台湾。私は、台湾の独立を支持 する日本人です。

日本にとって真の友人である台湾

かなざわ あきお 副団長 金澤 明夫氏

今回の訪問団は、本来の目的に加えて日本国民として東日本大震災復興支援に対する感謝の意を表すという重要な任務を負っていました。

そこで、謝意の証として考えられたのが「復興支援感謝」の文言が入った記念の手拭い五百本であったのですが、二十二日の出発までに業者からの納品が間に合わず、後発隊(二十四日出発)の責任者を仰せ付かった私に託されました。

そして、後発隊の参加者のご協力を 得て無事お届けすることができ、その 時の団長の安堵した表情は今も思い 出されます。

先発隊と合流した場所は台中市政府の庁舎でありますが、表敬訪問のセレモニーの中で早速この手拭いは副市長に手渡され、後に産經新聞の記事の中で写真入りで紹介されることになりました。

また、この時の副市長のご挨拶の中で述べられた、台中市民の震災に対する素早い反応は、日本にとって真の友人は誰かということを思い知らされました。

さて、現在、周知の通り中国は大変な 勢いで軍事力を増強させ、東アジアの 安全を脅かしておりますが、こういう時 期だからこそ真の友人である台湾と日 本は益々連携を深めなければなりませ ん。

しかし、政府の弱腰外交、防衛意識の希薄さにはほとほと呆れるばかりであり、集団的自衛権が行使できないという自らに制約を課している我国の今日の政治状況は、台湾を含む東アジア諸国からすれば「頼れる国日本」にはほど遠いと言わざるを得ません。

一刻も早く日本の政治状況が変わり、 強い国日本、頼れる国日本になること を切望する次第であります。

正に、台湾国あげての、 慰霊団受け入れ態勢作りに感謝

しもだ けんいち すみこ 第二班班長 下田 健一、純子氏

第十三次日華(台)親善友好慰霊訪問団にも三回連続の参加をさせて戴きましたが、その度毎に、時の流れの違いや物の見方、考え方の違いから、更に新たな感動を得ることが出来ます。この企画の実施段階に至るまで毎年ご苦労戴いている小菅団長様を始めスタッフの方々に敬意を表します。

さて、今回の訪問団の最初の事業は 中華民國外交部の表敬訪問から始ま りました。外交部では、いつもの広いレ セプションルームに案内された後、亜 東關係協会秘書長の黄明朗氏の話を 聞き、セレモニー終了後は、我々団員 一人一人丁寧に名刺交換をして戴き、 いつものことながらも、非常に有難く思 いました。そして、この様な外交部との 繋がりから、後に訪問した台中市との パイプが再三再四に亘る外交部から 台中市との連携の結果、今回の台中訪 問が実現したとの団長からの説明を受 けました。更にこのパイプを今後活かし て、来るべき日本政府の親善友好の慰 霊訪問が実現することを願うものです。 また、台中市の蔡副市長が、日頃、わが 国でも叫んでいる通り、「国連参加を支 持して下さる異国の友として歓迎しま す」と述べられた。

この外交部や台中市の慰霊団の受 け入れ方は、十三回にも及ぶ、親善友 好慰霊団を称え、非常に丁重で、目つ 厳かな中に親日体制が構築されており、 正に我々団体が、日本国政府代表団 (実質その通り)のような扱いをされて いて、深く感動しました。ここでは、当方 からは、東日本大震災に際し迅速な支 援が、震災発生当日のうちに行われた ことに対する感謝の記念に『日台の生 命の絆』と描かれた手ぬぐいを差し上 げ、先方からは、建国百周年の記念 バッジを全員戴きました。この様なとこ ろに非常に良き戦前、戦後の分け隔て ない、日本との親善友好を保って戴い ているのが読み取れます。この外交部、 台中市表敬訪問は非常に印象深く、台 湾国挙げての慰霊団受け入れ態勢を 見た時、我が国の政府、政治家たちは 本当に台湾の事を理解しているのだろ うかと疑問を感じました。

ところで、メイン行事は十一月二十五 日台中市にある宝覚寺での慰霊祭で す。こちらでは、献花式、慰霊式が毎年 行われております。台日海交会による儀 式の運営、小菅団長による英霊への祭 文の奏上が行われます。この祭文作成 には、団長も多忙の中に一字一句に魂 を込めた信念がこもっており、参列した 団員からも、満足の声が聞かれました。

保安堂や、飛虎将軍廟では、現地の 方々の大歓迎を受け、毎朝夕、「君が 代」、「海ゆかば」を流しながら、日本人 を神様として、崇めて戴いている。

また、日本国総理大臣が参拝しない 靖國神社と同じ、この台湾には日本の 靖國神社が認めた「台湾の靖國神社 【済化宮】」があり、お参りしました。ここ は、日本精神を敬う人々の参拝が絶え ないといいます。そして、明石元二郎台 湾総督の墓参も念願がかない、台南県 宮田郷にある鳥山頭ダムを建設して、 嘉南平野を穀倉地帯と変身させた八 田與一技師もこの台湾の地に眠ってお られます。毎年五月の命日には、台湾の 方達により法要が営まれています。

この様な偉人を日本国内で知る人 は極少数です。これからは、もっと多数 の人達が我々のこの事業を知り、大いに参加戴き、内情を知って戴く事が大切ではないかと思います。繰り返しますが、今回初の台中市訪問が今後、日本国挙げての事業の礎を築くものと確信致しております。

ご慰霊の旅に終りはない

ひよし じゅんじ えつこ 第三班班長 日吉 淳治、悦子氏

日華(台)親善友好慰霊訪問団に夫婦で初めて参加させていただきましたこと、心より感謝しております。また、慰霊訪問先々では沢山の温かいおもてなしをいただくなど、台湾・中華民國の皆様ありがとうございました。

内地の延長としての日本の台湾統治 時代のことは蔡焜燦先生、黄文雄先生、 楊素秋先生のご著書から。霧社事件、 六士先生、日本と台湾の協働で嘉南平 野を緑の地に変えた八田先生のこと、 ニューギニア戦でタイアル族他(高砂 義勇隊)の方々にどれだけ助けられた か、台湾沖空戦で散華された台・日の 方々、バシー海峡で戦没し台湾に到着 した兵士達を弔っていただいたこと、日 本敗戦後の台湾のこと、また奇美博物 館を創られた許文龍先生、李登輝前総 統の著書や金美齢さんの講演などから、 隣国・台湾について沢山勉強出来たこ と誠にありがたいことと思っております。

台湾・日本が今後、厚誼の関係をどう創り、高め、どのように継続していくかが東アジアの平和に欠かせないことなのだという思いを深くするようになりました。

まだ、台湾の辺隅で台・日の戦没の 方々が待っておられると思います。日本 各地でも同じことのように思います。ご 慰霊の旅に終わりはないかもしれませ ん。

次回にも参加出来ることを願うととも に、国内のどこに出かけても慰霊の心 を表してまいります。



台湾は日本にとって 大切な絆で結ばれた国

なかしま きみあき 第四班班長 中島 公明 氏

最初に、この度の訪問団に参加しよ うと思ったきっかけである。五月だった と思うが、産經新聞に掲載されていた 広告で、日高名誉顧問の論文を読んだ ことに始まる。同じページに黄文雄先 生の講演会のお知らせがあったと記憶 している。何い?中国が沖縄までも狙っ ているだと?ケシカラン!と、講演を拝 聴することにした。会場にはいると正面 に、日台両国国旗に、「日台魂の交流」 との横断幕が掲げられており、何よりB GMが「興亜行進曲」に「台湾軍の歌」 ではないか。いやが上にも期待は高ま り、「君が代」の斉唱に続く「海ゆかば」。 この信時潔の「海ゆかば」の旋律に私 は、めっぽう弱い。パブロフの犬のよう に反射的に涙腺がゆるむのである。そ の時の配布資料からライセンスメイト という機関誌やwebページを見ること に繋がっていった。

そこには何と!国旗と軍艦旗を掲げ ている一団が写っている。しかも海軍の 艦内帽も見受けられる。何せ昨今、祝 祭日に国旗を掲げている家は、ご近所 では我が家の一軒だけという情けなさ。 日の丸ですら、日教組は軍国主義云々 として法廷闘争を仕掛けている中、い わんや軍艦旗に至っては、彼らにすれ ば卒倒ものだろう。その二つの旗を高く 掲げている訪問団に率直に心を揺さ ぶられ、その趣旨にもいたく賛同した のである。常々、高砂義勇隊、あるいは 中村輝夫二等兵(昭和四十九年フィリ ピンから帰還) のような旧日本軍人軍 属の献身的な働きに、祖国日本は十分 報いただろうか、という負い目もあった からだ。これまでもご英霊への感謝の お参りは、上京時の靖國参拝とみたま 祭りの献灯、ここ数年は靖國の春季、秋 季例大祭に合わせた上京等、それなり にやってはいたが、台湾慰霊訪問団を 知り、是非参加してみたい、そう思った。

先ずは、小菅団長のこと。常に海軍 の夏用艦内帽を着用され、ご英霊のこ とを第一に思われる信念の人とお見受 けした。その語り口は、実に確信に満ち て小気味よく、蘊蓄があって聞く者の琴 線に触れる。というより、まさに聴き手の 心を鷲掴みである。自分もこの歳に なって涙腺の堤防は、大分弱くなってい るが、団長の話を聞きながら段々熱い ものが堤防すれすれまで込み上げて来 ることが多かった。これにとどめを刺す のが「海ゆかば」である。これを聴くと大 体五小節目くらいで涙が溢れてくる。団 長の話で堤防が揺さぶられ、「海ゆか ば」で決壊する。今回の旅で、だいぶ目 の洗濯をした。それから外交部の表敬 訪問を実現させた方ということ。友人 に話したら、よほど格の高い訪問団な んだね、と感心していた。私も驚いたが、 もっと驚いたのはその外交部の中へ、 海軍帽と日の丸と軍艦旗を捧持したま ま行進して入ったことだ。台中市政府の 時もそうだった。当時の日本は、実に不 本意であったが青天白日旗と干戈を 交えた訳だし、大丈夫かな・・・と、でも 杞憂であった。何事もなく、団長は堂々 としたものだ。長年の継続で今日の信 頼関係を築かれているものと感激した 次第。

さて、海交会の歓迎夕食会等で台湾 の方々とお会いした。帝國軍人だった 方々、陸軍看護婦として大陸で勤務さ れた方々、口から出るのは日本が負け て残念だったという主旨の言葉であっ た。教育勅語を一緒に諳じてもらった が、途中間違ったのは私で、その方は 御名御璽までを完璧に唱えられた。古 き良き日本がここには未だ健在だ。感 動!その日本は戦後、日本国籍を喪失 したこれらの方々に決して暖かい手を 差し伸べてはいない。なのに恨み事、繰 り事の一つも聞かなかった。もっともそ ういう人は、交流会に参加していない だろうから、これをもって台湾人は皆そ うだと言うつもりはない。しかし、三十五 年ほど前、最初に訪れた時の見ず知ら ずの台湾人(旧帝國軍人)に実に親切 な歓待を受けた経験、そして此度の大 震災に寄せられた支援等を併せて考 えると、やはり台湾は日本にとって大切 な絆で結ばれた国であることを確信さ せるに十分であった。同様のことは、旅 程が進み、それぞれ訪問地の話を聞く ごとに益々強くなるのである。

一例を挙げる。台南の飛虎将軍廟に おける御祭神杉浦兵曹長。民家への被

害を避けるため脱出の機会を逃して戦 死されたその崇高な自己犠牲の精神 を、 真っ当に評価してくれている地元台 湾の方々。この話を知った時は有り難 さに胸が熱くなった。さらに今回、園児 達による寸劇があることを知った。星条 旗をつけた米軍機、日の丸をつけた杉 浦兵曹長機、そして農民、それぞれに 園児が扮してこの劇を演じる。飛虎将 軍廟の縁起を学ばせ、代を次いでお祭 りを永続させようとしている地元の方々 の活動には、単に頭が下がると言った 表現では足りないものを覚える。翻って、 我が国にも自衛隊機がやはり集落を 避けようと機首を巡らせたため、脱出 の機会を逸して殉職された例がある。 地元の行政は慰霊の石碑を建てること を拒否したそうである。・・・言葉を失う。 戦後の日本人は日本精神どころか普 通の人の心さえ無くしてしまったようで ある。

六士先生を始め、明石元二郎総督、 八田與一技師等々、まさに一視同仁の 大御心に従って台湾開発に心血を注 いだ偉大な先達、この先達とその真意 を理解した台湾同胞のお陰で今の日 台の良好な関係があるものと確信する。 この先人達の業績を正当に評価してく れている台湾。そのお墓、その記念碑 の扱いがそれを如実に証明している。 ありがとう台湾、日本人に自信を取り 戻させてくれる台湾。もっと多くの自信 喪失の日本人がこの地を訪れ、目から 鱗の思いをし、日本精神(武士道)は、 決して間違っていなかったんだと気付 いてくれることを切に願う。そして我々 日本人は、この日本びいきの台湾の 方々の期待を二度と裏切るような振る 舞いをしてはならない。

結びに、この慰霊訪問団を企画・実 施され、参加の機会を与えて頂いた小 菅団長並びにスタッフの皆様に深甚 の感謝を申し上げる。

●ご協賛ありがとうございました。

ひとをつくり まちをつくり くにをつくる 九州不動産専門学院グループ

代表 小菅 亥三郎

25(092)714-4131

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

慰霊訪問は日本を 代表する事業

いわもと のぶよし 第五班班長 岩本 宣善氏

英霊の加護の下、仏縁により訪問先と団員を拡大し継続するところ十三次となった。小生は平成二十年の第十次より連続四回目の参加である。それでも、念願叶って明石総督の墓、昼間の六士先生の墓、台中市政府訪問、八田與一旧宅等が初体験であった。

どこでどうだったの行動記は原田さんが詳細に書かれる筈だから小生は過去三回に比較して今回特に印象が強かったことを中心に述べることとする。

小生には財力が無いが精神力を以て当慰霊団を支え連続十回参加を目指したいと思う。

一、念願叶って羽田から松山に飛び、 桃園到着の福岡組にピックアップして 貰うことが実現し誠に有り難かった。飛 行機代が往復で一万五千円割増にな るが小生の場合、時間的にも乗り物代 も成田の半分となり替えがたいことで あった。

二、初めて台中市政府を訪問した。 対応した副市長は多分国民党であろう。 通された会議室は国資級の部屋、実際 にオバマが来台した時坐った部屋だ そうで、入口にピストル持ったポリスが 立っていた。私費による民間団体では あるが、両国の間に国交の無い今日、 我々は日本を代表する立場である。

副市長の挨拶はまあまあ無難な両 岸関係や独立のどの字もない外交辞 令であったが、これに応えて我が小菅 団長のスピーチは超一流・パーフェク トなものだった。十三次に亘る我々のミ ッション、目的を述べて認知を求めるこ とに引っかけて台湾が国際社会の一 員として認知されることを希求すると述 べた。これは我が国外務大臣や官房長 官でも言えない痛烈な表現であった。 併せて東日本大震災に対する支援に 深甚な謝意を述べたのである。

三、台中宝覚寺に於ける合同慰霊祭はこの旅の目玉である。例年の如く進行したが、小菅団長の読まれた祭文の内容は小生が言いたいこと全てを言い切って余りあるものだった。中でも民主

党政権批判のくだりは胸のすくものであった。この目的、この認識の下にこの旅に加わったのだと高校二年の孫に持ち帰る最大の土産がこの祭文であった。

四、小菅団長は今回もバスの中で車 酔いに耐えて適時的確な解説をされた。 ガイドの簡先生はいつものユニークな ガイドを展開された。小菅節と簡節は 当ミッションの宝である。今後もご両所 のご健勝を祈るや切なるものがある。

五、帰国前夜の最後の晩餐はいつものレストランで広東料理の豪華版である。しかも訪問団だけの内々のディナーである。この席で小菅団長の奥様、順子先生のお誕生日に十一月生まれの方々を加えて皆で『ふるさと』を歌ったのが心にしみた。私ごとを遠慮しておられた奥様に喜んで頂けたので仕掛人として幸いであった。日台の絆の前に先ずは団員の絆である。

六、四十五名の内八十歳代が何と六名、その内四名が第五班(羽田組)に属する。老骨に鞭打ち、常に率先して自称「近衛師団」的、親衛隊的行動をとった。その中核は陸士五十八期の方々であり、小生はいつも知れば知る程凄い方がおられるもんだと驚き入った次第である。諸先輩には今後もご壮健で指導して頂きたく存じました。皆様を嚮導機として小生も頑張りたく存じます。

老兵の雄々しき命積み重ね 積み重ね護る小菅軍団

七、マスコミの取材が増えた。インターネットも効果的であった。陽動作戦である。現に台中の昼食会に現地の大学で教鞭を取る日本人の若い先生天江(あまえ)喜久氏が現れ、台南空軍杉浦兵曹長にそっくりな墓の存在を話していた。

八. 最後にいつもの通り駄句を並べますが常夏の地の旅吟は季語が狂って閉口します。

身を投げし貞女の話冬桜

(烏山頭水庫)

鳥も啼け『霊安故郷』冬日粲

(台中宝覚寺)

冬日当たる布袋の鼻に燕の巣

(台中宝覚寺)

新竹の山に分け入る冬遍路

(南天山済化宮)

パパイヤの隣り合わせに銀芒

(三芝郷明石総督墓)

さりげなく別れて来たり返り花

(松山空港)

一度行けば再び訪れたく なる台湾慰霊の旅

さご みわこ 第六班班長 佐護 美和子氏

私は今回二泊三日の日程で第十三次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅に参加させていただきました。昨年に続き二度目の訪問でした。初めて訪れたとき心からの歓待に触れ心温まる有意義な旅でしたが、今回は再会出来る嬉しさをともなった旅でした。

十一月二十四日福岡空港午前八時に集合。十月に結団式、壮行会でお会いした方や空港で初対面の方々の七人のグループだった。学院とJTBのお世話になり一路台灣桃園空港へ向いました。また、復興支援の感謝の気持ちが込められた手拭いが届き持参することができました。私たちは無事に入国審査が終ると出口に添乗員さんがおられたので安心しました。バスから新幹線に乗り込み、のどかな車窓を眺めながら、台中へ向いました。ホテルについて時間があったので皆さんとお茶をしながら名刺交換などして過ごしました。

いよいよ台中市政府表敬訪問となり やっと全員と合流できました。まず秘書 の方から大会議場に案内されましたが、 広くて立派で革張りの背もたれ付きの 椅子でした。思い思いに腰掛けると蔡 副市長の歓迎の御挨拶があり震災の お見舞いや台灣の方みなさんが寄付 されたことなどを話され感謝の気持ち が溢れました。また、この会議場にお客 様を迎えたのは慰霊訪問団が最初で すと言われ有難く光栄なことでした。小 菅団長の十三年間の積み重ねられた 努力と思いが、太く繋がったのだと思 いました。小菅団長は凛とした、心温ま る謝辞を述べられ訪問団の目的、思い はしっかりと伝わったことでしょう。目頭 が熱くなりました。副市長はひとりひとり と名刺交換と握手を終えられ私も義捐

金のお礼を申し上げ市役所を後にしま した。もうすっかり日は暮れ、その建物 はネオンを受けて大きく力強く私たち を見送っていました。

夕食は台湾台日海交会の方々によ る歓迎会となりました。看護女子の方と 笑顔で再会でき、また前回に日本に行 ってみたいけれど、もうそれは叶わない と言われ、つくしの絵を見せてくれまし た。寂しそうに言われたことばが耳に 残っていましたので、布に書いたつくし の絵をさしあげたらとても喜んでくださ いました。二十五日は、曇り空でしたが だんだん日差しが眩しくなりました。日 本人墓地慰霊式は国旗敬礼、国歌斉 唱、黙祷をし、お線香をたむけ粛々と行 われ、冥福を祈りました。今年は、観光 客も大勢お参りされました。宝覚寺の 慰霊祭がラッパとともに兵隊さんの行 進で始まりました。やはり空にそびえる 日本国旗、台灣国旗、軍旗は力強く美し く、鳥の鳴き声がいつまでも響いていま した。

午後からバスは一路新竹の済化宮 を目指しました。明るいうちに着いたの で景色や建物も違って見え屋根の朱色 が鮮やかでした。靖國神社を思い手を 合わせました。美味しいつきたてのお餅 などご馳走になり、となりの土産店でピ ーナツを買い、台北へ走り出しました。

二十六日は明石元二郎総督の墓所 に無事着き、お参りすることが出来安堵 しました。また一段と有意義な訪問とな り、素晴らしい方々にも出会えたことに 感謝いたします。誇りある日本の先駆 者の偉大さを再確認した旅となりまし

最後に日本万歳 台灣万歳 日華 (台)親善慰霊訪問団万歳 多謝 多謝

初年兵の時台南で任務 していた叔父に代わって

もりした まなぶ 第二班 森下 学氏

始めて、叔父と参加する予定でした が家庭の事情で叔父が参加できなくな りました。戦後生まれの私が何も解らな いで、参加しました。叔父は初年兵の時 台南で任務に就いていたので、台湾に

行きたかったのです。

台湾の方が日本国の為に犠牲にな ったのも、知りませんでした。八田先生 や明石先生その他の方達が今でも台 湾で崇められてる事が良く理解できま した。

日本と台湾が強い絆で結ばれてる 事が、台湾の方達の交流会や慰霊祭 で日本の人達に感謝してる事を震災の 時すぐ義捐金が集められた事で強く感 じました。

団長や団員の方に仲良く交流をさせ てもらって良かったです。叔父も来年は 是非参加したいと、言っていました。お 世話になりました。

念願適つた六士先生墓

第三班 古賀 誠氏

訪問団参加も三度目なので、新しく 訪問した所を中心に記しておきたい。 【東龍宮(屏東県)】

台湾南部の屏東県枋寮郷隆山村に ある「東龍宮」の祭神は、明治時代の海 軍少将田中綱常らである。

百四十年前の明治四年台風の為に 台湾南部に漂着した宮古島の島民六 十六人のうち五十四人が、台湾先住民 に殺害される事件(牡丹社事件)が起 った。外務卿副島種臣が清国と外交折 衝を行なったが、清は「台湾人は化外 (文化文明の外)の民」として、日本を相 手にしなかった。

明治五年に陸軍の田中綱常を中心 に二十三名の調査隊(中山、良山の看 護婦二人を含む)が台湾に送られた。 明治六年西郷従道らによる「台湾の役」 には田中綱常も従軍し、原住民の鎮撫 にあたった。争討に際しては戦死およ びマラリアなどの病死者合計五百七十 三名が出た。

田中綱常は海軍に転属になり、軍艦 「比叡」の艦長などを歴任した後、明治 二十四年からは台湾の役時の軍人・軍 属の遺骨収集や墳墓合葬などの処理 に従事した。そして、台湾併合後には澎 湖列島行政府長官、台北県知事、総督 府民政治事務官などを務め、後年貴族 院議員に勅任された。

田中綱常少将から「廟を建てて欲し い」とのお告げを受けたとして、道教道

士の石羅界女史は屏東の地元企業か らの寄付金と私財を使って、十三年前 に東龍宮を建立した。廟では田中綱常 少将を挟んで二人の看護婦、北川伍長 (台湾出兵時の最初の戦死者)、第三 代台湾総督乃木希典が祀られている。 地元の人がこの廟に参拝すると病気が 治る等のご利益があるそうだ。

【芝山巌神社(台北市)】

芝山巌は日本統治時代の台湾教育 事初めの地である。併合直後に台湾学 務掛長となった伊沢修二(日本唱歌の 父として有名)と、彼に率いられて赴任 した六人の教師(楫取道明、平井数馬 ら)は台北近郊の芝山巌に学堂を開き、 十数人の塾生を相手に熱心に教育を 行っていた。

地元の土匪(盗賊またはギャング) が襲撃する噂があると塾生が伝えたが、 「身に寸鉄を帯びて住民の群中に入ら なければ、教育の仕事は出来ない。若し 我々が国難に殉ずる事があれば、台湾 子弟に日本国民としての精神を具体的 に宣示できる」と言って取り合わなかっ た。学堂設立から五ヶ月半後の明治二 十九年一月一日(一八九五年)に、六 人の教師は年始参りに出掛けた所を 百名の土匪の襲撃を受け、素手で戦い 惨殺されてしまった。伊沢はその後、芝 山巌に慰霊碑を建てて霊を弔った。芝 山巌精神「たおれて後巳む」はその後 の台湾教育に受け継がれた。

一九三〇年に創建された芝山巌神 社は戦前の台湾では修学旅行に必ず 訪れる場所だった。六人の先生の受難 にも拘らず日本本土からは沢山の教師 が海を渡って台湾に赴任し、日本統治 時代の殉難者は三百三十三名に上っ た。芝山巌神社は終戦後国民党により 一旦破壊された。しかしその後、芝山巌 学堂の後身である士林国民小学校卒 業生有志らの尽力により「六士先生の 墓」と「学務官僚遭難の碑」、そして「芝 山巌神社」は立て直され、芝山公園とし て整備されている。

なお、六士先生のリーダー楫取道明 は実は吉田松陰の甥(実妹の子)であ り、楫取道明の孫に当たる小田村寅二 郎、四郎両先生に、私達国民文化研究 会会員は約五十年前から師事して薫 陶を受けてきた。六士先生のお墓に今 回参拝でき、私の長年の念願がやっと 適った。

【明石元二郎総督記念碑(台北県三芝郷)】

明石元二郎は福岡市大名出身で、日 露戦争時代のロシア後方撹乱工作に 従事して日本の勝利に貢献した事は有 名である。その後一九一八年に第七代 台湾総督に就任した。台湾統治中には 台湾電力設立、日月潭水力発電所建 設、華南銀行設立、新教育令での民族 差別撤廃などに尽力した。八田與一に よる烏山頭ダム建設もこの頃である。

途中で病気(インフルエンザ後の肺炎あるいは脳溢血・尿毒症とも言われる)に罹り、生家近くの福岡市天神で亡くなった。任期は約一年四ヶ月と短かったが、「余は死して護国の鬼となり台民の鎮護たらざるべからず、若し我が身に万一の事あれば台湾に葬るべし」との遺言に従い、遺骸は台湾に埋められた。

戦前は日本人墓地の一部に「明石神社」があったが、戦後台湾に進駐して来た国府軍はこれを破壊し、長い間兵隊のバラック街になっていた。この場所は現在台北市のほぼ中心部で新生南路に位置しており、一九九七年頃「林森公園」として整備された。園内の二つの鳥居は、戦前は明石元二郎らの墓前にあったものという。また公園の周囲は現在日本企業のオフィス街になっているそうだ。

明石元二郎のお墓は、陳水扁総統の 時代(一九九九年)になって台北県三 芝郷に改めて埋葬され、我が訪問団も 現地で慰霊祭を行った。

【中華民國外交部訪問など(台北市)】

今回も訪問団は中華民國外交部を 表敬訪問した。亜東関係協会秘書長黄 明朗氏より、台湾と日本の間で結ばれ た投資自由化協定への期待をお聞き した。台湾政治の中枢である台湾総督 府付近には、日本統治時の建物が沢 山残っており、特に道路幅の広い中山 路は民政長官後藤新平による都市計 画の名残が覗われて興味深かった。

第二次世界大戦後六十六年経って、 台北市内も当然変っている。戦前に北 白川宮能久親王らを祀っていた台湾 神宮は、戦後蒋介石夫人の宋美齢の 別邸となり、現在は圓山大飯店(ホテル)となっている。また、台湾護国神社は 国府軍忠烈祠に建て替えられた。台湾 総督府近くの台湾軍連隊跡に建てられた蒋介石時代の中正記念堂は、現在国立台湾民主記念堂と名前が替わって、主に劇場・ホールとして使われているそうだ。

台北市内ではないが、日本人観光客 が多数訪れる日月潭湖が、実は明石元 二郎総督時代に水力発電の為に作ら れたダム湖である事は余り知られてい ない。また、阿里山の林業開発の為に 河合鈰太郎が作った森林鉄道は、近年 の台風でかなり大きな被害があったよ うだが、一度訪れてみたいと私は思っ ている。

台湾の人たちとのもっと 深い心底からの交流を求めて

おばま よしかず 第四班 小濱 善和氏

台湾に関しては、メディアを介して、日本の台湾統治時代の末期に、軍人・軍属として日本人とともに多数の台湾人が犠牲になったこと、台湾の発展に寄与し現地の人たちに今でも尊敬される日本人が存在していたこと、それらの慰霊碑等が各地に点在していること、台湾人は並べて親目的であること等の簡単な知識しか持ち合わせていなかった。

したがって、台湾統治の時代はただ過去のこととふんぎっていたわけではなく、実のところ考えたことすらなかったのだ。まったく無関心だったといってもいい・・・他団員諸兄の詰責を甘んじて受けるしかない。

今回の初めての訪台も、心の中では 実は、慰霊訪問という大義にかこつけ て、自分自身の念願である来年以降の 中国語留学に向けての環境づくりの一 環と考えての訪問団参加だった。普通 の旅行(ツアー)ではおそらく体験する ことができない、上っ面ではない視点 からの多くのことが体験・体感できるの かもしれないと淡い期待を抱いていた のだった。

期待をはるかに超えた体験だったと感じている。帰国後、地図上で行程を正確に辿れないほどにハードな移動スケジュールだったように思うのに、訪れた各所の慰霊碑や墓碑と、それらを鎮

守なさっておられる現地の人たちの親 しげな表情・様々な心からのおもてなし 等を各々、断片として鮮明に思い起こ すことができる。こんなほのぼのとした 感情の繰り返しは久しぶりのことだ。

その台湾の人たちとのもっと深い心 底からの交流を求めて、長期語学留学 か、あるいは写真や絵の材料になる風 景を求めての旅行か、きっと再訪する。

今後、一身上の環境が思いのままになるならば、来年の宝覚寺慰霊祭は現地からの参加になりそうな・・・!?

宝覚寺に響く「鎮魂の譜」の音色

なかむら さとし 第四班 中村 哲氏

私は三年続けて訪問団に参加して いますが、これまで何一つ団に貢献出 来ておらず、少しでもお役に立てばと思 い今回訪台前に二度、十月と十一月に インターネットに書き込みをしました。 過去自分がそうであったように観光目 的で台灣を訪れる多くの日本人旅行 者に宝覚寺慰霊祭の参加を呼びかけ 慰霊祭を、日本の歴史を、絆を知ってい ただくためです。その結果かどうかは定 かではありませんが多くの日本人観光 客が旅の途中、足を止め日本人墓地 にお参りしてくれました。中でも大阪か ら来られた四十代のご夫婦にお話を 聞くとネットの書き込みを読んで知った とのこと。いまさらながらネット社会の 力に驚きました。

今回の訪問におきましても新しい出会い、発見がありました。懐しい人々との再会が出来ましたことは団長はじめ事務局の皆様のおかげと感謝いたしております。各地での歓迎会ではいつに無く大歓迎でお話が弾んだことは言うまでもありません。特に高雄での夕食会での歓迎振りは一番の賑わいで台灣の「ふるさと」といった感じでした。台灣支部長黄明山ご夫妻には大感謝です。

島山頭水庫近くに八田與一記念公園が新しく整備され参観できましたことも新たな収穫でした。台灣の人々が戦後の戒厳令下の政治弾圧を恐れず、八田夫妻の墓を建て銅像を守り長い間、毎年記念行事を行ってきたことを日本

人は決して忘れてはいけないのです。

昨年の暮れに石川県の「金沢ふるさ と偉人館」を訪れたとき許文龍先生寄 贈の八田技師の胸像がふるさと館裏 庭の角にひっそりとあったことを思え ば台灣の人々の熱い想いが分かると いうものです。今回ご一緒した「金沢ふ るさと大使!の木下嘉平氏にはこれか らも八田ご夫妻の偉業を金沢市民はじ め全国の日本人に知らしめるために頑 張っていただきたいと思います。

訪問団最大の目的であります元日 本軍人、軍属台灣人戦没者宝覚寺慰 霊祭における小菅団長の祭文を聞き 涙したのは私だけではないでしょう。台 灣代表のご婦人の言葉に「なぜ、天皇 陛下は台灣をみなしごにせず独立させ てくれなかったのか。日本が戦争に負 けたことが一番悔しい」との言葉には 胸が熱くなりました。今回初参加の中 島公明氏の奏でる「鎮魂の譜」のラッ パの音色にはご英霊もさぞかし喜ばれ たのではないでしょうか。

南の枋寮にある東龍宮に、はじめて お参りしましたが、訪問に至る経緯につ いてのお話を団長から伺い参加者一 同驚きと日台の絆をさらに強く感じた のではないでしょうか。

台灣を愛する台灣大好き人間の一 人としましてはこれからも出来る限り台 灣を訪ね日台友好、親善、慰霊の旅を 続けて行きたいとあらためて思ってお ります。

謙虚に学び合い助け合う

第四班 小野 正明氏

七十二年ぶりに少年時代を過ごした 台湾を訪れた。松山に向う車窓から眺 めると、先ずは道路工事とビルの建設 ラッシュ。台北に近づくと、かつての郊 外は中心街と化し、緑の並木で区分け された広い大通りが縦横に走っている。 台湾の爆発的エネルギーに圧倒され た。翌日、南へ向かう途中で、工業地帯 や農村地域が見えた。計画生産が地域 ごとに集約されている。住民の公共心 あっての事業推進である。日本では、と てもこうはいかない。

台湾の人は義理堅い。私心なく、差 別なく、ひたすら台湾の発展に尽くした 人を忘れない。記念碑を建て、民族宗 教によって祀るなどして、敬慕している。 島山頭ダムを見下ろす大きな殉工碑に、 八田與一技師の直筆と思われる碑文 があり、礎石の三面には、日台の別なく 肩を組み合うように、ぎっしりと殉職者 の姓名が刻まれていた。友情と苦闘の 証である。

大東亜戦争の戦没者慰霊式典で 〈海ゆかば〉を唄いながら、涙が溢れて 止まらなかった。「皇民化運動」のもと、 台湾人が最初に志願したのは、ガダル カナル激戦中の昭和十七年四月、徴兵 制施行は、十九年九月である。戦地に 着いた者は、弾丸も食糧も届かない悲 惨な負け戦の場で、言葉では表せない 苦しさを味わって亡くなられている。海 に消えた人も多い。もともと台湾には兵 役がなかった。たとえ熱誠をもって志願 したとしても、このような戦況下、行かせ ないのが日本人の意地ではないかと、 私は思っている。

台湾統治時代に「同胞化」という用 語が使われている。いつの世も、このよ うなキャッチフレーズにはまやかし物 が多い。初代樺山総督は「一視同仁」 「愛育」「撫育」を、統治の基本として掲 げた。四代児玉総督に台湾統治を一 任された後藤新平民政局長は、「鮃の 目を鯛の目にすることはできぬ」との比 喩をもって、台湾文化の濫りな破壊を 戒めている。幕末の藩政を体験してい る明治初期の為政者は、何かひと味違 うものを身に付けていたように思う。

残念ながら、ほとんどの台湾関係著 書は、〈台湾人は差別を受け、二流日本 人として扱われた不満を抱いていた〉 と記している。それを否定するつもりは ないが、日本などに留学して高レベル の知識や能力を備えた優れた人々は 多い。私自身の少年時代に接したいわ ゆる本島人は善い人ばかりで、内地人 と変らぬ友達であった。

日本の国益にとって、中華民國即ち 台湾は最も大切な隣邦である。台湾統 治から離れて六十六年、日中共同声明 によって国交を失ってから三十九年、 相変らず親しい友としての関係は途切 れていない。その間に果した台湾の大 発展を讃え、学ぶべきものは学ぶ謙虚 な気持で、絆をより強めながら、助け合 っていきたいものである。

日本と台湾は精神的には 名実共に一国という実感

ながいし たつろう 第五班 永石 辰郎 氏

昨平成二十二年第十二回の日華 (台)親善友好慰霊訪問は陸軍士官学 校の同期生の盟友、日高誠君の勧誘 によって初参加をした。初めて訪問する 台湾への旅でもあり、胸をふくらませな がらの成田空港からの旅立ちだった。

台北、台南、高雄、台中、新竹、苗栗 のそれぞれの縁(ゆかり)の霊地を訪ね、 現地の方々の心からの手厚い歓迎を 受け、戦後の日台関係の精神的な絆の 深さに接し感動の余韻はさめることな く、日本と台湾は精神的には名実共に 一国という実感が第一回参加の真実 の結論であった。そして去る三月十一 日の東日本大震災に際しては、台湾の 人口約二千三百万人という小数人口 にもかかわらず、日本円にして二百億 円を超す世界一の義捐金を頂くなど親 善友好のあかしとは言え、日本国民ひ としく台湾の善意に対し畏敬の念を抱 くと共に敬服の至りでありました。

今回の第十三回の慰霊行事には陸 土時代の同期生、谷尾侃君、日高誠君、 初参加の小野正明君と小生四名は何 れも旧軍時代のパイロットで昭和十七 年以来のかけがえない同期の盟友で ある。更に烏山頭ダムの建設に当られ た総督府の技師八田與一氏が石川県 出身であることから、小生の友人として の勧誘もあって木下嘉平氏も会社経営 繁忙の中にあって初参加して頂き、慰 霊の輪が広がってきたことは大変喜ば しいことでもあった。

顧みれば第一回目は初参加でもあり、 いろいろと想像をめぐらすこともあり、訪 問した先々で見落としたり聞き損じた ことも多くあったし、また参加者との初 対面ということもあって、相互の対話も 少なかったが、今回は同じ目的に賛同 する同士団体の一行だけに、初対面の 方々とも親しくなり出会いのご縁に感 謝し、二回目の参加のことから再会の 懐しさや喜びもあって終始、和やかな 雰囲気を感じながらの旅でもあった。 また私自身前述のとおり二回目の参加 でもあり、現地の方々と一段の親しみを

覚え慰霊行事も前回の儀礼的な形そのものから精神的なものに移行してきた感を抱いたことは、台湾出身の軍人軍属の三万三千余人にのぼる戦没された当時同胞としての国への、忠誠心の尊さが改めてわが胸に訴えられてきた結果であろう。

今回初めて台中市の政府を表敬訪問し、副市長の蔡炳坤様の心温まる歓迎ねぎらいのスピーチを頂き、本年は孫文による辛亥革命による中華民國建国百周年記念の年でもあり、記念のバッジなど参加者全員に贈呈を受けました。

又、台中の宝覚禅寺の境内には先 の大戦で戦没された三万三千余の軍 人軍属を祀る李登輝元総統の書によ る霊安故郷の碑文を刻した石碑があ る。十一月二十五日は現地の毎年の祭 礼慰霊祭の日で、私達慰霊団一行も現 地の台湾台日海交会主催の例祭と一 緒になった。私達一行もその例祭に参 加したが、碑文にすすみ出た旧従軍看 護婦の劉張蕊さんの堂々たる態度でと なえる祭文は、原稿なしに霊魂に直接 語りかけるように然も日本語で祭文を 語られた言葉には言霊さえ感ぜられ、 参列者の中には感動のあまり嗚咽(お えつ)さえもらされていた。私自身も感動 のあまり目頭が熱くなった。

引き続きわが慰霊訪問団の小菅団 長の祭文も、推敲に推敲を重ねられた 尊い誠実そのものの慰霊の祭文で、そ の中に秘められた言霊は戦没者の御 霊に通じたであろうという実感胸に迫 り、その余韻は今日なおわが心に脈打 っている。

また前回目的を達しえなかった明石 元二郎総督(陸士第六期)が眠ってお られる墓地にもお参りできたことは幸い であった。

私は想うに、小菅団長の主催による 本団体は民間の心ある有志によるもの で、これからも益々団体の構成を堅固 にしていくことはもとより、全国の魁(さき がけ)となって両国の親善友好の輪が 広がり、その実が発揮されていくことを 念願したい。国際情勢益々酷しく複雑 多岐の中にあって、この事業が一つの 起点となり長期の年月もかかるであろ うが、国政の上で、具体的には外交、安 全保障、産業経済、民生が安定増進し、 このような国益の上で両国が深化してはじめて真の親善友好の実が結ぶものと思い、それを只管(ひたすら)念願する一人でもあり、また日本人が台湾を過去の統治国家としてのみ見るならば、未来に亘っても両国の信頼と互恵関係は生れないであろう。

最後の締めくくりとして申し上げたいことは、四泊五日の慰霊の訪台に対しては小菅団長の並々ならぬ綿密周到な計画とそのご配慮に対し深甚の感謝の念を捧げると共に、現地でのガイド役の簡氏の適時適切な説明並びに通訳、また福岡事務局の参加者一行に対する管理面を担当して頂いた原田氏、黄女史。そして記録写真撮影の任に当られた方々、更に産經新聞の頼永記者に対してもその労をねぎらい謝意を致し拙筆ながら感懐の筆を置く。

戦争がこんなにも身近な旅

いしはら ひ ふ み 第五班 石原 一二三 氏

明日は今日より豊かになる時代。同時 に明日は共産の世界が必至の混沌の 時もあった。そんな私達が今平和で豊 かにいられるのはひとえに先人のお陰 だと思います。

今回の訪問はその先人の外地でのご活躍ぶりを目の当たりにした旅でした。台湾統治において理想の社会を建設すべく生命・心・物を全力投球した事跡を多く見た。その証が今回の我々に対する台湾の人達の温かい歓迎ぶりに表れていた様に思われる。また、今回の東日本大震災に対する莫大な金銭・人・物の援助も同じレベルのものの様に思う。だが一方で個人にとって戦争の殆どは悲惨の極限である事もいろんな機会に見てきた。

今回の旅には生の戦争が身の周りに常に溢れていた。それら見聞きしたものは殆どが明の部分であったがこれも事実であろう。それらを踏まえたうえでこれからじっくりと戦争を勉強し直してみたい気持ちにさせられた。これから自分に何ができるのかを考えなくてはいけないと思い知った旅でした。

小菅団長以下皆様には大変お世話 になり厚くお礼申し上げます。 台湾に散華の御霊一万余 祖国の平和に生きる人待つ

台湾で最も愛される 日本人、八田與一を訪ねて

きのした かへい 第五班 木下 嘉平氏

今回日華(台)親善友好慰霊訪問団の一員として参加させていただき、何ものにも変えがたい有意義な感動の五日間でした。そして、小菅団長以下スタッフの皆様方が一年を費やした事業計画のことを知りその努力に厚く感謝申し上げます。私は、今でも目を閉じると、国旗に正対し、国歌を歌った全てのシーンが映像として再現されてきます。国旗・国歌の意義の深さを心から体験出来、その事だけでも深くお礼を申し上げます。

さて、私と慰霊団の繋がりは、昨年参 加された、永石さんが天風会の集いで 話された時から始まっております。当時 話された中で、八田與一が県人の関係 で心に止まり、機会があったら墓所に 訪ねてみたいな~の印象でした。今年 に入り、3.11東日本大震災が発生、こ の震災で台湾から送られた義捐金額 が突出していた事を知り、慰霊訪問団 員として八田與一の眠る里と友好台湾 の実情視察に参加しようと決意したの です。私の動機と慰霊団の目的には、 思いの差は有ったようだが、初日の外 交部で、十三年の時間を懸け育んだ誠 意の歴史が形となった現実に触れ、こ の慰霊団の真意を感じました。私は十 数年前観光では台湾入りの実績があ るのにも拘わらず、慰霊地のことに触れ ることは無かったのです。この度、わが 明治の人が残した偉業や功績が海の 彼方台湾に語り継がれ活き続け尊敬さ れている実情に出会い、戦後における 近代日本は物質文明を優先し精神文 明、特に教育(道徳)を疎かにし、今日 に至ったことに、国民の端くれとして深 く責任と反省をしております。旅を終え 日華友好の絆を更に深めることに力を 注ぎたいと思い、特に語り継ぎたい事 を纏めると、芝山巌事件(六士先生)。

当時周辺の住人は先生たちに避難 を勧めたが、、死して余栄あり、実に死

に甲斐あり、と芝山巌を去ろうとしなか った。現在二月一日台湾全土で小学校 から大学まで朝の朝礼後、六士先生墓 地の方位に向かい敬意を表す儀礼や、 慰霊祭が執り行われていること。それ に、烏山頭ダムを造った八田與一、烏 山頭ダムの構造が他に類を見ないこと、 セミ・ハイドロリックフィルという石や土 を組み合わせてコンクリート以上の強 度を生み出す石積工法で出来、一万 六千キロメートルにわたってはりめぐら された、水利設備が嘉南大圳と呼ばれ、 いまも五月八日に八田與一記念公園 において農業用水建設の恩人として慰 霊祭が執り行われている。私は現地で 八田さんのビデオ(マンガ含む)二本 購入したので、県人会や同窓会などで 放映し、若い人に知ってもらおうと思う。

それから、宝覚寺・台湾人元日本兵 軍人軍属三万三千余柱の人々を祀る 「霊安故郷」慰霊碑の存在。李登輝元 総統の揮毫により「霊安故郷」と書かれ、 十一月二十五日の記念日に慰霊祭が 挙行されていること、また同じ敷地に戦 前台湾で亡くなった日本人居留者約 一万四千人の遺骨を納めた、日本人 墓地(日本人遺骨安置所)がある事な どなど。他にも現地の方々による浄財で 建立された「保安堂」、台湾第七代総督 明石元二郎の功績のこと、このように 台湾の方々が勇者や恩人に対する愛 情と尊敬溢れる行動や態度は、日本人 として深い感謝と敬意を表さずにはい られない気持ちでいっぱいの旅でした。

最後に、友好慰霊訪問団員の皆様と 縁が出来たことが私の旅の宝です。台 湾謝謝!がんばれ日本!

終戦時まで日本の臣民で あったことの誇り

みよし まこと 第六班 三好 誠氏

英国の格言、「フレンド イン ニー ド イズ フレンド インディード。」 必要な時の友こそ本当の友である。困 った時に進んで助けてくれる。その典 型がこの度の震災であった。

日本の統治時代を知る人は少ない。 日本の悪業を刷り込まれた世代、無関 心層を含めて二千三百万の台湾同胞 が二百三十億円の募金に応じたのは、 一人平均一萬円を出して下さったこと になる。しかも東北は内地でも縁遠い。 見知らぬ人たちの島なのだ。

私事で恐縮だが、台中の中日海交 協会副会長、林政徳氏の初対面の言 葉は「私はハヤシマサノリです。」終戦 時まで日本の臣民であったことの誇り。 本土の人々以上に純粋な愛国心を持 ち、謙虚な人柄で日本人を尊敬する姿 勢を保ち、年少の私に行届いた氣配り を見せる紳士です。アコーデオンの名 手でカラオケは軍歌を唄い続けて日 本語ばかり。

そして驚いたことに日本語の絵入り 格言付き日めくりカレンダーを、カラー 印刷で製作されたことです。林政徳氏 は絵も達者で、常々お便りにも風景画な ど添えられており、これを編集して日本 人のために印刷されたことには、感謝 で胸が詰りました。

今回の訪問でお会いできると楽しみ にしていた処、御病気で参加できず、早 速見舞状を送ったら入違いに早目の 年賀状が来ました。

池の鯉の絵に恭賀新年、いつもお世 話になりまして有難うございます。また 会える日を楽しみにしております。林より。

病人から慰められてしまった。これは もう金銭の枠を超えた友情の偉業だ。 しっかりと受け止めて心に刻みつけ感 謝しなければならない。忘れさせぬよう 広く伝え続けて行かなければ、罰が当 る。

馬政権も無視できない 慰霊大訪問団へ

まただ くにひこ ゆみこ 第六班 反田 邦彦 由美子 氏

日本人慰霊碑、日本式靖國神社、明 石元二郎総督の墓を参拝し、蒋介石総 統以来、日本時代を評価されない時期 を経ても護って頂いたことに感激致し ました。

想像以上に日本語が達者な方が多 く、日本統治時代に教育を受けた台湾 の世代の方々に教育勅語の精神がし っかりと根付き伝承されていて、皆様の 熱き思いに十二分に接する事が出来

た事は幸いでした。

この方々は台湾国民の中の少数派 なのか? 世代交代が進む中で、将来 の日台関係はどうなっていくのか?が 心配になりました。

次回訪台した時には、言葉の壁はあ りますが、分け隔て無く多数の方々の 意見を聴きたいと思います。日本語を 専攻している学生との交流などを通し、 現地の若者達の日本観を幅広く聞き 日本を理解する人を増やす事も大事 だと考えます。

小菅団長のご指摘の様に、台湾は国 連からはじき出されており、国連再加盟 を後方支援することは大事だと思いま す。日本にとって重要なのは、南シナ海 での航行の自由を護る事が我が国の 死活的問題である事を日本国民に周 知させ、他の国々と支援を進めていくこ とです。

多くの日本人が親しみを込めて訪問 して行く事が台湾の独立と繁栄を側面 から擁護する事に繋がると考えます。日 本政府は台湾、及び日本国内で、この 事を正しく広報することが、両国民への 啓蒙に繋がり、台湾の若い世代を知日 家・親日家へと育むことになると考えま

至る所に台湾国旗が掲揚されてい たのは選挙の為か、大陸に対する違い を強調するものか、翻って我が国にお ける日章旗の掲揚数の実情は寂しい 限りです。陳水扁総統時代と比べ馬英 九政権になってから台湾国旗の掲揚 数が一段と増えたと聞きました。台湾国 旗は本来は国民党旗だったと理解して おりますので、国民党主席でもある馬 英九総統下では当然の事でしょう。

慰霊式典について

・偶然同時間帯に他の日本人観光客 が行き会わせ、この方々をも巻き込み 参拝して頂き理解を深める切っ掛け作 りが出来ましたのは団長の長年のご経 験の賜です。

多くの日本人に目指すべき日台交流 について考えて頂きたい、という団長の 方針を支持します。

・原台湾人元日本軍人・軍属慰霊祭で

は、日本からの慰霊団の数が現地の方 より多かった様です。高齢化が進むに 従い、参加者減少は避けられない傾向 で、絶やさぬ方法はないものでしょうか。 ・つぎの選挙はどうなりますか?馬英九 総統下の台湾では国民党支持者が過 半数を占めていますが、無視出来ない 日本からの慰霊大訪問団を今後とも継 続して頂きますようお願い致します。

日本にもらった愛を忘れてはならない

よりなが ひろあき 産經新聞社 頼永 博朗氏

縁あって、十三回目となる日華(台) 親善友好慰霊訪問団の旅に、取材とい う形で同行させていただきました。

恥ずかしながら、同行取材のお話をいただくまで、台湾について深い関心を持ったことはほとんどありませんでした。高校時代の世界史の授業でもアジアの近現代史というものをしっかりと教わった記憶はなく、強いて挙げれば、台湾は「安・近・短」の海外旅行先という程度の感覚しか持ち合わせていなかったというのが、正直なところです。

それだけに、今回、初めて台湾を訪れ、行く先々で今も息づく「日本精神」や、親日感情に触れることができ、これらは台湾の一側面に過ぎないのでしょうけれども、貴重な体験となりました。

実は、出発前に、少し不安を抱いていました。といいますのは、こうした取材の際には、連載記事をどのように展開するかについて一定の構想をまとめた企画書をあらかじめ作っておくのですが、今回はそれができなかったからです。

書く内容を具体化できれば必然的に 取材対象者も決まりますし、逆に取材対 象者が決まっていれば必然的に書く内 容も決まります。つまり、こうした同行取 材の連載記事は、よほど現地で突発的 な出来事がない限り、通常であれば出 発前にある程度出来上がっているとい ってもいいでしょう。

ところが、小菅亥三郎団長が、宝覚 寺での慰霊祭を引き合いに出し、「(台 湾側には)式次第がなく、いい意味でお おらかと考えてください」と移動バスの 中で話されたように、現地での展開が ほとんど予測できませんでした。また、現 地での取材対象となり得る人の素性が 事前にほとんど分かりませんでした。さ らに、前年の訪台の様子を記録、放送 したスタジオ日本「日曜討論」の模様 をインターネットのUSTREAMを通じ て出発前に拝見していたものの、各訪 間先で行う慰霊式は、国旗拝礼、君が 代斉唱、献花などほぼ同様の繰り返し であるため、原稿や写真にどう変化を つけてよいものか悩んでいました。事前 にリサーチできたことといえば、各訪問 先の歴史的なストーリーくらいで、あと は、蔡焜燦氏の著書「台湾人と日本精 神」と、黄文雄氏の著書「台湾は日本の 植民地ではなかった」などの書籍に目 を通す*にわか勉強"でした。

こうして筋書きのないまま現地入りしたわけですが、そのモヤモヤとした思いに光を射し込んでくれたのは、初日に訪れた「高砂義勇兵」の英霊記念碑で訪問団を出迎えたタイヤル族のバヤス・アベオ(周萬吉)さんの一言でした。

「私は日本人だと思っています」

訪問団を前にあいさつした際のアベオさんの言葉です。日本統治時代の教育を受けた台湾の方の中に、今もそのように考えていらっしゃる方がいるのだという事実に向き合い、胸が熱くなりました。アベオさんのこの一言によって、連載記事の方向性と軸足が定まったといえます。

アベオさんには、土産物店前のベンチに座りながら、一時間近くお話をうかがったでしょうか。流暢な日本語で、日本に対する思いを語ってくれました。中でも、日本軍人として出征した二人の兄、そして英霊記念碑の建立に尽力された姉のリムイ・アベオ(周麗梅)さんから、「日本にもらった愛を忘れてはならない」といつも言い聞かされていたという逸話は、心に響きました。台湾の教育やインフラを整えたのは日本であるととらえ、今も日本を大切に思う人がいるのだという事実。その後、行く先々で台湾の方からうかがったお話は、合点がいくものとなりました。

一方、アベオさんのように日本語を 話せることができ、日本統治時代の歴 史や出来事を語れる人が、高齢化のために少なくなってきていることは、時代の流れとはいえ、残念なことです。宝覚寺で毎年十一月二十五日に開催され、訪問団の最大の目的である「大東亜戦争旧日本軍台湾軍人・軍属大慰霊祭」の主催団体、台湾台日海交会も、同様の事情を抱えていることでしょう。

アベオさんはまた、こんな心配もしていました。

「日本の優れた教育と道徳によって 生活は向上しましたが、台湾の若者の 道徳観念がなくなってきていることが気 がかりです!

日本にも同じことが当てはまるかもしれません。

七十九歳のアベオさんは、時間をつくっては、地元の若者に日本語を教えるようにしているそうです。英霊記念碑を訪れる日本人に対し、民族の武勲を語り継いでいってほしいとの願いがあるからです。そして、日本語を知ることで道徳観念を取り戻すさっかけにしてほしいと考えているようにも、私には思えました。

今回の同行取材に際し、小菅団長を はじめ団員の皆さまから、さまざまなご 教示をいただきました。連載に登場して いただいた中島公明さん、木下嘉平さ んには、しつこい質問にもかかわらず、 快くお付き合いいただきました。黄楷棻 さんには、訪問先で、ややこしい話のや り取りにもかかわらず、根気強く通訳を していただきました。五郎丸浩さんには、 膨大な枚数に上る写真の整理でお忙 しいところ、連載記事に掲載する写真を 提供していただきました。団員の皆さま のおかげをもちまして、五回にわたる連 載記事を九州・山口版に無事、掲載す ることができました。この場を借りて、お 礼申し上げます。

ありがとうございました。

●ご協賛ありがとうございました。

ふれあい 学びあい 助けあい 九州不動産専門学院グループ同窓会

九 栄 会

1 (092) 714-4341

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38 天神121ビル13階

知られざる「神蹟の遺跡」

台湾の日本神ー東龍宮 参拝者溢れる日本人だけを祀る廟

台湾南部の屏東県枋寮郷降山村 にある「東龍宮」。この廟は「田中綱 常」という日本人を祀るために建立 されたものだ。綱常を取り巻く様に 祀られている4人も日本人だ。

乃木将軍、中山其美将軍、良山 秋子将軍、北川将軍の4人で、中山、 良山両女性将軍は軍の看護士とし て同行した方だ。台湾には夥しい数 の廟があるが、ご祀神が全て日本人 という廟はここだけだろう。

女性道士でこの廟の宮主である 石羅界さんは、当時居住していた屏 東で綱常からのお告げを受け、自宅 に小さな祭壇を設けた。その後も 度々お告げを受け1996年には現在 の地、枋寮で廟を建てるようお告げ があり、地元の実業家からの寄付 金と私財を使って14年前に現在の 立派な廟を完成させた。

石羅界さんはその後も綱常から 次々とお告げを受けている。ある日 のお告げでは、日本軍が掘った洞 窟の場所を指示され、実際そこへ足 を運ぶと、日本軍が使ったと思われ る日の丸が出てきた。廟には今でも その日の丸が掲示されている。

田中綱常の名を知る人は日本で も多くない。明治時代の海軍少将だ った鹿児島県人である。綱常は天保 13年(1843)生まれ、明治維新前は 薩摩藩士だった。維新後陸軍に入 隊し、後に海軍に転身し海軍少将 で退役している。

綱常と台湾との縁は数十年に及 ぶ。明治4年(1871)、宮古島の漁民 66人が台湾で遭難し、先住民のパ イワン族に54名が斬首されたいわ ゆる「牡丹社事件」が起こった。外務 卿副島種臣が清国代表の毛昶熙と 外交折衝を行ったが、「生蕃は化外 の民」として、日本を相手にしなか った。明治7年(1874)に日本軍は西 郷従道中将率いる「征台の役」を敢 行するが、それに先立ち23名の先 遣部隊を派遣している。この中の一 人が若き綱常であった。その後綱 常は海軍に転属になり、明治23年 (1890)には軍艦「比叡」の艦長として 「エルトゥール号事件」の遭難者を トルコまで送還し、時のオスマン朝 皇帝に謁見している。

明治24年(1891)からは征台の役 時の軍人・軍属の遺骨収集や墳墓 合葬などの処理に従事した。そして、 領台直後には澎湖列島行政庁官、 台北県知事、総督府民政事務次官 などを務めた。

この東龍宮は石羅界さんがこれ までの人生を投げ打ち、残りの人生 をかけてお告げに従う信心深さと それに呼応するかのよに参拝者は 後を絶たない。その信心深さは子孫 まで受け継がれ、現在、息子の李光 立さんが中心となって、田中綱常の 遺族を捜索中だが、その子孫もみ な故人となり消息は追えていない。 お告げと史実が繋がる奇跡まであ と一歩だ。





道士の石羅界さん(中央左)



威風堂々の東龍宮



中華民國外交部・ 合日文化經濟協會・ 中市政府(市没所)

表敬訪問

平成23年11月22日(火)、桃園 空港到着後、中部国際空港出発組 と合流、羽田空港出発組の待つ松 山空港へと向かいました。空港に 着くと、地元メディアの記者数人 が待ち構えており、小菅団長と松 俵義博常任顧問が囲まれて共同取 材を受けました。この模様は台湾 のテレビやインターネットで広く 紹介されました。

インタビューを終えた一行は、

専用バスで最初の訪問先である中 華民國外交部へと向かいました。

外交部に到着すると、待ってお られたのは、慰霊団発足時より大 変お世話になった、元台北駐福岡 經濟文化辦事處處長だった黄明朗 亞東関係協会秘書長でした。久し 振りの再会で懐かしく、また不思 議な縁を感じました。

黄秘書長の福岡時代の思い出も 含めた歓迎の挨拶に続いて、小菅 団長は従来の慰霊と交流に加え、 東日本大震災の復興支援への感謝 と中華民國建国100周年のお祝 いも目的としている旨の答礼の辞 を述べました。そして図らずも建 国100周年記念のバッジと名刺 入れを全員が記念品として戴きま した。

黄秘書長を交えて外交部の玄関 で記念写真を撮った後、一行は次 の訪問先の烏来へ向かいました。



挨拶する黄明朗亞東関係協会秘書長



台日文化經濟協会(鄭祺耀会長)の歓迎夕食会



蔡炳坤副市長を囲んでの記念撮影(台中市政府)

烏来の高砂義勇隊戦没英霊記念 碑での慰霊式を終えた一行は、台 北市内に戻り、台日文化經濟協會 主催の歓迎会に臨みました。会場 には、各テーブルに団員一人ひと りの名前を書いた席札が置かれて いて、変わらぬ細やかな配慮に感 じ入りました。

鄭祺燿会長の歓迎の挨拶、小菅 団長の答礼の挨拶が終わると開宴 となり、美味しい料理に舌鼓を打 ちながら親交を深めました。この 席には昨年まで福岡の辦事處でお 世話になった向明徳領事事務局組 長が同席されていてお元気な様子 に安堵しました。

例年、最終日に歓迎会を設けて いただいていましたが、帰国直前 で飛行機の時間等でいつもバタバ 夕としていて失礼が気になってい ましたが、ようやく胸の痞えが取 れた感じがしました。

11月24日(木)、烏山頭水庫を

後にした一行は台中市政府(市役 所)で、この日日本を発った二泊 三日のBグループ7名の団員と合 流しました。新築されて間もない 庁舎は銀色に輝く立派なもので、 その威容に誰もが圧倒されまし た。団員は隊列を組んで庁舎内に 入り、念願の表敬訪問を果たしま した。案内された会場は、市政府 のトップや外国からの要人のため の会議室で、破格の待遇でした。

接待して下さったのは蔡炳坤副 市長で、中学校の校長出身で実直 な方でした。歓迎の挨拶の中で、 12年前の台湾中部の大地震の際 に日本の救助隊が一番最初に駆け つけてくれたことを台湾の人は忘 れておらず、台中市民が義捐活動 を開始すると雨の降りしきる中、 僅か2時間で800万円集まったこ とを紹介されました。これに対し て小菅団長は、「大震災に対する 世界一の援助の淵源は、50年間 の日本統治時代の先人の努力にあ り、日本と台湾は地下水で繋がつ た兄弟国であって、八田與一の功 績を今尚顕彰し続けて下さること に敬意を表します」と答礼の挨拶 で述べ、Bグループの金澤明夫副 団長に持ってきてもらった「復興 支援感謝しの手拭いを贈呈して応 えました。

1時間余りの表敬訪問を無事終 え、蔡副市長を囲み「ありがとう 台湾 慶祝中華民國建國100 年」の横断幕を掲げて記念写真を 撮り、市庁舎を後にしました。夕 暮れの市庁舎広場はイルミネーシ ョンが美しく幻想的な空間でし た。

表敬訪問の会見の模様は台中市 政府広報局の関係者をはじめ多く の報道機関が取材をしており、早 速、台中市政府等の公式ブログに 写真と会見内容が掲載されまし た。

第13次台湾親善友好慰霊訪問の旅

結団式・壮行会~帰朝報告会・新年会

平成23年度「第13次日華(台)親 善友好慰霊訪問の旅1の結団式・壮 行会には、曾念祖・台北駐福岡經濟 文化辦事處處長、津田信太郎·福岡 市議会議員、田村豐彦·福岡縣護國 神社宮司らの来賓をはじめ、慰霊訪 問団の役員、旅の参加者、九栄会会 員、台湾からの留学生ら67名が参 集、慰霊訪問の旅の成功を祈念す るとともに日台の友好親善の絆を深 めた。

今回は、11月22日(火)から26日 (土)まで、福岡県内から39人、県外 から17人(関東8人)の合計45人が 参加、台湾各地を訪問する。

午後5時すぎから始まった結団式 では、日台両国の国旗敬礼、国歌斉 唱に続き、先の大戦で亡くなった台 湾人元日本兵軍人軍属並びに慰霊 訪問事業に尽力し、志半ばに亡くな られた方に対し黙祷を捧げた後、訪 問団副団長の西山洋氏が開式の辞 を述べた。次いで訪問団事務局の 原田和典氏が経過報告を行い、今 回の慰霊訪問の旅の日程などを簡 潔に説明した。また、訪問の旅を成 功させるために参加者の支援と協 力を呼びかけた。

続いて、訪問団を代表して小菅団 長が挨拶に立ち、今年で13回目を 迎える慰霊訪問の旅を実施してきた 過程での留意点について(1)英霊と の対面、向き合いにこだわってきた ②現地で戦死者の慰霊の灯を守り 続けてきた人や、日本時代の名所旧 跡を管理している人たちとの交流を 大事にしてきた③訪問する場所に ついて、調査・開拓を大事にし、いろ んな所とご縁ができた④訪問団だ けの行事にするのではなく、精神的 に一体感を共有してくれそうな多く の団体などに協力、支援を呼びか け、門を叩き続けてきた⑤訪問団へ の参加を呼びかけ毎年1万通以上 のダイレクトメールを発送、告知活 動に余念がなかった⑥壮行会・帰 朝報告会など式典、行事をきちんと 実施してきた⑦訪問の記録を毎回 定期刊行物「ライセンスメイト」に集 大成した⑧職員で世話人会を作り、 情報、志の共有をしてきた一の8点 を挙げ、さらに「実施していく過程で いろんなことがありましたが、台湾に 行くという強い気持ちでやってきまし

た。台北駐福岡經濟文化辦事處の 方も一所懸命支えて下さった。今年 は中華民國建国100年にあたり、こ ういう年に訪問団が辿りついたとい うことで、感慨深いものがあります。 この旅は単なるイベントではありま せん。一つしかない命を日本のため に捧げられた方々への供養の旅で す。この趣旨に今回45名が賛同さ れ、訪問団が編成できたことは喜び に耐えません」と語り、慰霊訪問の旅 の成功と日台の絆の更なる深化へ 強い決意を述べた。

次いで来賓を代表して黄水益氏 が挨拶に立ち、曾處長の祝辞を代 読、小菅団長をはじめ訪問団員が、 永年に亘り戦没者の慰霊や日本と 台湾との家族・兄弟交流を継続して いることに敬意を表し、日本と台湾 との友好親善促進に尽力しているこ とに謝意を述べた。さらに「日本と中 華民國台湾とは歴史的にも切っても 切れない絆で結ばれています。これ からもお互いに、信頼し、協力してい くことが必要不可欠だと確信してい ます」と代読、引き続き中華民國台 湾への支援と協力を呼びかけた。



和やかに記念撮影



松俵常任顧問へ感謝状の贈呈

横断幕掲げ台湾中を走行・・・大歓迎

昨年11月に実施した「第13次日 華(台)親善友好慰霊訪問の旅」の 帰朝報告会・新年会は平成24年1 月21日(土)、福岡市内の平和樓本 店で開催され、約70名が参集し訪 問団員の無事帰国を祝うとともに、 日・台の親善友好をさらに深めた。

午後5時過ぎからはじまった帰朝 報告会では訪問団員の田中道夫氏 が「日台両国民の"家族交流・兄弟 交流"をさらに深め、その中から多く のことを学び、両国の運命の縦糸と 両国国民の絆という横糸ですばらし いものを織り続けて行きたい」と開 会のことばを述べた。

続いて訪問団を代表して小菅団 長が挨拶に立ち、今回の13次での 旅で特に成し遂げたことを述べた。

慰霊訪問の旅では、宝覚寺での 原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者 慰霊祭をメイン行事としているが、 今回の第13次では、中華民國建国 100年への祝意を表すとともに東日 本大震災への台湾の支援に対する 感謝の念を伝えることを大きな目的 とした。「ありがとう台湾 慶祝中華 民國建国100年」と書いた横断幕を 掲げ、移動のバスの両側にも同様 の張り紙をして台湾中を走り回った。 このことは台湾でも大変喜ばれ、歓 迎を受けた。また、小菅団長は、今回 の旅の特筆すべきこととして①宝覚 寺での日本人墓地における慰霊式 に日本人観光客71人が参加した② 念願だった台中市政府表敬訪問が 3年越しに成就、蔡炳坤副市長の歓 待を受けた。宝覚寺での慰霊式・慰 霊祭が市政府の公式ブログで告示 された③曾處長による台湾の報道 機関への事前連絡により、空港に到 着した初日から取材攻めにあい 大々的に報道された―の3点を挙 げた。最後に小菅団長は「大震災復 興支援へのお礼、中華民國建国

100年の件は、訪問団の活動が1ス テージも2ステージも上に上がった ような感じがします。この活動も点か ら線、そして面への広がりを持つに 至りました。台湾の皆様にもすっかり 信頼され、私たちとの交流を心待ち にしておられる方が増えています。私 たちは13年に及ぶ訪問で体得した 貴重な経験を今後の両国関係のさ らなる強化に役立てていきたい」と 述べ、今秋実施される第14次慰霊 訪問への参加と協力を呼びかけた。

来賓を代表して黄水益氏は、曾念 祖處長のメッセージを代読、訪問団 が永年に亘り、戦没者の慰霊及び 日台交流への支援を実施してきた ことに謝辞を述べたあと、今回の旅 が特に「台湾感謝」という、東日本大 震災に対する台湾の支援に感謝の 念を表した横断幕を掲げて台湾を 訪問、台湾の新聞やテレビを通じて 大きく報道されたことについて、小 菅団長はじめ団員の真心が台湾の 民衆に伝えられ、両国国民の交流 が深められたのではないかと語り、 「今後ますます日本と中華民國台湾 との友好の絆が強くなることを祈念 します」と述べた。その後、小野正明 氏が団員感想を発表した。

昨年初めて参加した小野氏は 「訪問団に同行し、この行事が日台 双方の将来にとっていかに大事な ものであるか痛感しました。小菅団 長はじめ今までに参加された方に 心から敬意を表したい」と述べ、宝 覚寺での慰霊祭と"台湾の靖國神 社"といわれる濟化宮で、日本のた めに散華された2万8000人の位牌 を目にし、涙が溢れ、感謝の念で一 杯になった忘れ難い体験を語り、 「台湾での後継者を絶やさないた めにも、ぜひ慰霊訪問を続けていく ことが大切です」と強調した。

第2部の新年会では、津田信太

郎・福岡市議会議員も駆けつけ、台 北駐福岡經濟文化辦事處の黄水益、 呉沛晃の両氏、野口裕之・産經新聞 九州総局長や台湾在日福岡留学生 会の蕭家如会長や留学生も参加し て賑やかに催された。

訪問団員の反田邦彦氏が開会の ことばを述べスタート。来賓の野口 裕之・産經新聞九州総局長が祝辞 を述べた。野口氏は「台湾総統選挙 後の台中関係は一体どうなるのか、 最近よく質問を受けますが、私は『台 中関係を心配するより、或いは日台 関係、台米関係を気にするよりもまず、 我々の足元をしつかり見なければな らない』と言っています。外交ではこ とごとく諸外国の風下に立っていま す。我々がしつかりしなければ台湾 は中国の側に行き、米国も日本を見 限るでしょう。問題は我が国自体に あります。今、イランがホルムズ海峡 を封鎖しようとしています。

同盟国の米国は、国防長官が戦 争も辞さないと宣言しました。我が 国は9割のエネルギー資源をホル ムズ海峡に頼っているにも拘わらず、 未だに経済一辺倒の憂いしか言っ ていません。外交というのは、すべか らく砲艦外交なのです。強い意識を 持って外交を進めなければなりませ ん。文字通り命がけの決意こそが、 台湾と日本の絆をより深くする最高 の姿勢だと思います」と語った。

次いで、錦慧流師範教授錦慧岳 泉さんによる祝舞「大黒舞」が披露 され、九栄会副会長の上野和彦氏 の乾杯の音頭で祝宴に移った。祝 宴では、軍歌の合唱など和気藹々と した雰囲気の中で、台湾訪問の話に 花が咲き、日台の友好の絆を深める とともに、今秋の第14次訪問に向け 力強い一歩となった。

日台の魂の交流12周年 第9回台湾特別講演会

一 尖閣ばかりか沖縄まで「領土」だと主張する中国の狙いは何か ―

『中国が沖縄を獲る日』

一 中国の「千船保釣」を打ち砕こう! -

台湾特別講演会は、平成15年6 月より実施されており今回で9回目 となる。講師には平成17年から連続 で、台湾出身で中国を知り尽くし鋭 い筆法で評論活動を続ける黄文雄 氏を招いている。

黄文雄氏は「中国が沖縄を獲る 日」と題した講演の中で、中国の国 家戦略の陸から海への変化、尖閣 諸島の領有権を主張するようにな った歴史的経緯とその主張の矛盾、 内政問題から中国国民の目をそら し共産党一党支配を維持するため に常に敵国を作り、紛争を仕掛けな ければ生きていけない国家状況を 詳しく解説、「中国も台湾も1960年 代までは、地図や教科書で尖閣諸 島は日本領土として取り扱ってい る」ことを指摘。「日本は中国に対 抗するためにも、世界の日本に対す る高い評価を知り、自信を取り戻さ なければならない」と熱っぽく語っ た。

会場には曾念祖・台北駐福岡經 濟文化辦事處處長(代理, 呉沛晃副 領事)、松尾嘉三·福岡県議会議員、 副島賢三·福岡教育連盟執行委員 長(代理·寺本真一事務局長)、永田 昌巳・前筑後市議会議員らの来賓 をはじめ、訪問団の役員・団員、九 州不動産専門学院グループの同窓 会・九栄会の会員、台湾に関心を持 つ市民など多くの人が詰めかけ、黄 氏の講演に熱心に耳を傾けていた。

講演に先立ち式典が行われ、国 旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、「生命の 絆」唱和、開会の辞のあと主催者を 代表して日華(台)親善友好慰霊訪 問団の小菅団長が挨拶に立った。

小菅団長は、台湾の宝覚寺での 慰霊祭参列を決意し、慰霊訪問団 を結成するまでの経緯と、団員募 集のために始めた講演会の沿革を 語った後、次のように述べ、慰霊訪 間の旅への参加と協力を呼びかけ た。

「今日では、国土とか領土の代 わりに市民とか消費者、生産者、或 いは国史、国文学、国語の代わりに 日本史とか日本文学、日本語という 言葉が氾濫し、大手を振って歩い ています。国民になる契機がありま せん。国民としての絆が見えにくい 形で巧妙に仕組まれています。国民 となる契機があまりにも少ないため に4兆円で尖閣を売ってくれと言わ れたら迷う日本人が多くなってしま う訳です。先頃、東京でも中国大使 館が大きな土地を購入しました。こ ういう事態を放置していたら、我が 国の領土は外国のものになってしま います。

今日は、我が国をこよなく愛し、 戦前の日本の価値や台湾・朝鮮統 治、満州建国を正しく評価される黄 先生の講演を存分に聞かれて、国 民として一つの契機、日本人として の新たな気づきをともにして頂くこ とを念じます。」

"日本人の心を発見"

次いで来賓を代表して前筑後市 議会議員の永田昌巳氏が次のよう に述べた。

「今、日本は危機的状況におか れています。尖閣諸島、沖縄そして 台湾にも中国の蝕手が伸びていま す。

そういう中において、黄先生の核 心を突いた講演は必ずや日本を導 く方向性を指し示してくれるものと 期待しています。

去る3月11日、日本は未曾有の大 震災に見舞われました。被災された 多くの方々のご冥福をお祈りし、お 見舞い申し上げます。多くの人たち はこの国難の中にあっても冷静、沈 着、そして規律ある行動を整然とと り、世界のマスメディアで賞賛さ れ、報道されました。

これは日本が長い歴史の中で、 培ってきた文化度の高さや思いやり の精神の顕われであり、高潔な DNAを世界に見せつけたのではな いかと思います。日本人という民族 の素晴らしさを震災の中で改めて 感じました。

一方、現在の政局は、醜態をさら け出しています。しかし、慰霊訪問 を10年以上に亘って続けておられ る訪問団には、日本のために戦って 亡くなられた台湾の方々に慰霊の誠 を尽くす真実、信頼、感謝以外に何 ものもありません。

私も11次、12次訪問団に参加さ せて頂きました。戦局不利なマニラ で、台湾兵に帰国命令を発し、自決 した巡査隊の総指揮官・広枝音衛 門警部を祀った獅頭山勧化堂で は、警部の命を受けた台湾人の最 後の生き残りの劉維添氏との感動 的な出会いがありました。

今年の震災でも台湾から160億 円の、世界一の義捐金が寄せられ ました。日本に対してのこれだけの 思いやりは、やはり、日本の統治時 代も含めて、大和魂を台湾人と日本

人が共有できた、いわば兄弟交流の歴史があったからだと思います。 今年も第13次の訪問団があります。 台湾に行くと、日本人の心を発見できます。この講演会参加の機会を通じて訪問団にぜひ一度参加して頂くよう私からもお願いいたします。」

その後、黄楷菜さんが「台湾の 声」を読み上げ、父親で日華(台)親 善友好慰霊訪問団の台湾支部長で もある黄明山氏が、台湾から寄せた 祝辞を代読した。

黄氏は、慰霊訪問の趣旨に賛同するとともに慰霊訪問団に敬意を表し、日台の友好関係が末永く続くことを温かく見守っていることを述べ、東日本大震災について「台湾に居る人達は大変心を痛めています。また、日本国民が心をひとつにして大きな災害に立ち向かい前に進ん

でいる姿を見て大変尊敬しています。日本は必ず立ち直ることができると信じています」とエールを送った。式典が終了後、講演会に移った。

黄氏の講演終了後、同会場で黄 氏を囲み約70名が参集し、懇親会 が開かれた。

黄文雄氏の講演内容(概要)は次のとおり。

(1)一国の首相として知らなさすぎる中国国家戦略の変化と自己主張

鳩山由紀夫前首相は、東シナ海を友好の海にしたいと言ったが、日本人と中国人の考え方がいかに違うかを知らない。中国の国家戦略は変わった。東シナ海、南シナ海、黄海、みんな中国の海と主張している。日本の首相が何もいわないのはおかしい。

毛沢東の時代は、海より陸の戦略だった。空母も必要としなかった。しかし、鄧小平の改革開放の時代に入ると、シーレーンは、中国の戦略的国境と変わった。中国は、もし海に出なければ21世紀の中国はないと主張している。海と陸だけではなく、宇宙空間も国家戦略に入っている。

(2)中国尖閣諸島領有主張の理 不尽

中国の伝統的な海洋観と陸についての考え方については、一般的には陸の境界線は万里の長城だった。中国の長い文明の中で海だけが領土ではなかった。数千年の海と陸についての考え方から沖縄と尖閣を見なければならない。

中国の尖閣領有説には諸説ある が最後に残るのは台湾大屯山脈の 海底への延長説しかない。尖閣と 琉球海溝は大屯山脈の延長である から中国領であると主張する。しか し、この説も地形学的に無理で、国際法上主張するのも無理だ。

尖閣諸島についての台湾の主張には多様な意見があり、李登輝元総統に代表される意見は、尖閣は日本領土であるという考えだ。民進党は、国益上の配慮から一応台湾領土と主張している。一方、国民党の主張は中国の主張とほぼ同じで、台湾の一部と言っている。

(3)尖閣は日本領土の不動の証拠 台湾では1960年代まで、尖閣は日本の領土として学校で教えていた

1970年発行の国定教科書や 1965年発行の中華民國国防研究 所の「世界地図集」では日本領とし て扱われている。北京で1958年に 発行された「世界地図集」でも尖閣 は日本領として扱われている。中華 民國も中国も日本領と認識していた。

(4)沖縄は中国固有領土との主 張が強くなる

中国は、琉球人は中国の福建省、 浙江省、台湾から渡って来たと言っ ている。蒋介石は、台湾の基隆に琉球亡命政府(蔡璋主席)をつくった。

私の調査研究では、1万5000年前は陸の時代で、台湾、琉球、九州は同じ祖先だった。40年ほど前には台湾から縄文式土器が発見された。縄文人のDNAと台湾人のDNAは一番近い。

中国は、琉球人は中国の福建省 三十六姓の子孫と断言。沖縄は日 本政府が中国から強奪したと言っ ている。

中国でなぜ尖閣と沖縄の返還要求が起きているかといえば、国家戦略が変化したことと、15億とも17億ともいわれる人口の激増により、資源不足に陥っていることが挙げられる。1970年代に入り、石油資源目当てに領有権を主張するようになった。

(5)意外な華人の尖閣への無関心度とその中身

新聞では返還を強く要求しているように見えるが、尖閣海域での漁船衝突事件を、大騒ぎになっていると思い調べたら、中国紙の100紙中、2、3紙しか取り上げていない。月刊誌も2ページくらいで内容も貧弱だ。中国人は、実際は沖縄、尖閣に余り関心がない、雑誌を調べた結果、そう思った。

中国政府としては、今は余り尖閣 の問題は取り上げたくない。確かに 返還要求はしているが、政府内部で も習近平副主席は余り騒ぎたくな いのではないか。

(6)尖閣領有主張の理に窮した 中国の次の一手

もし、これから尖閣に対してどう いう手を打つかというと、中国は領 土問題があると、騒ぎ出す前に嫌が らせをする。 尖閣海上包囲とか日本





漁船拿捕とか、商船を座礁させ海 上ホテルにする手法が考えられる。

今の社会情勢から分析すると、 陸の方の問題はある程度処理しつ つある。インド、ソ連、ベトナムとの 国境紛争は大体終わっている。現 在は陸より海の方で紛争を作り出し ている。

(7)中国の仮想敵国の変化

中国は仮想敵国がないとやって いけない。20世紀までは①アメリカ 帝国主義②日本軍国主義③台湾分 裂主義が三大敵国となっていた。

21世紀の中国は、東の日本と西 のインドが二大敵国となっている。 そして、中国の独善的領土観は、近 隣諸国との紛争の元凶となってい る。中国は国内問題を抱え、体制批 判をそらすためにも、いつも周辺諸 国に紛争をしかけないとやっていけ ない側面がある。

(8)中国の主張の変化

最近の中国の主張のひとつは「中 国は強くなったから、これからの世 界は中国がきめる」という主張だ。 もうひとつは「世界の核戦争なら中 国は絶対勝つ」という15億人の過 信であり、大変危険だ。

中国には、人口問題解決は不可 能であり、解決するには核戦争は避 けられない。シベリア、日本、東南 アジアを領有すれば中国人は生き 残れるという考え方がある。

また、核戦争より生物化学兵器を 使ってカナダ、オーストラリア、アメ リカを滅ぼせば、あと2つや3つの 中国が作れ、生き残れるという考え

もある。全く世界に相容れない思想 だ。

中国は海に出なければ中国の未 来はないと主張している。陸の資源 は限られており、海に活路を求める しかないと。

(9)これからの日中関係

我々は、中国の主張を知らなけれ ばならないし、そういう考えは通用 しないということを政治家が知らし めなければならない。

中国の戦略は20年以上に亘って 変わってきた。日本は平和主義など 唱えて時代に通用しなくなってきた。 日本は徐々に目覚めてきたと思うが、 教育の方はまだまだで心配している。 若い世代は戦後教育のせいで頼り ない。

中国の国家戦略は宇宙に向いて いるが、宇宙開発はあくまで自己宣 伝に過ぎないと思う。

(10) 尖閣·沖縄·台湾の戦略的位 置

日本の政治家や自衛隊の中で台 湾に関心をもっている人は少ない。 アメリカのトルーマン大統領は、朝 鮮戦争のときに、台湾は「20隻の不 沈空母に匹敵する」と言った。

台湾は日本の安全上、地勢学的 に大きな意味がある。台湾が危なく なったら尖閣・沖縄も危ない。シー レーンは、日本にとっても生命線だ が中国にとっても非常に大事だ。中 国は石油などの地下資源や食料が 不足し、海外から輸入している。 シーレーンを守るためには、尖閣も 沖縄も欲しい。

台湾がもし日本から離れたらどう なるか。尖閣と沖縄を考えるとき、 台湾も合わせて考えなければなら ない。

沖縄にアメリカ軍がいるだけで大 きな防衛力になっている。沖縄住民 がいやなら台湾に来てもらいたいく らいだ。

(11)日本が絶対不可欠の21世紀 の国家戦略

なぜ強い日本が必要不可欠の生 存条件なのかというと、日本は政治 的大国でないにしても経済大国で あり、アジアの先進国として智恵と 知識の面でもアジアの指導的役割 を果たしてきた。日本は、強い日本 でなければ国際貢献はできない。 普通の国家ではだめなのだ。日本 の持つ歴史的使命といえる。

日本の政治家は、生活のことより も国家戦略を取り上げなければな らない。日本には国家戦略を考えて いるグループが少ない。21世紀の 国家戦略が絶対不可欠なのだ。中 国と対抗する場合どういう戦略が 必要なのか、考えなければならない。

日本は今、自信を失くしているが、 これから何をしなければならない かというと、まず自信を回復するこ とだ。

過去の日本人に対して外国は、勤 勉さ、教育水準の高さを評価した。 東日本大震災でも被災者の公徳心 の高さは、世界の賞賛を浴びた。日 本が自信を回復するためには、外国 からどのように見られているか知ら なければならない。

第10回台湾特別講演会

― ありがとう台湾 ― 世界一の親日国へ感謝

_{第一部} 日本と台湾の過去・現在・未米 黄 文雄 先生

- 私たちが目指すべき日台の関係 -

第二部

東日本大震災から見えた日台の生命の絆 パネル ディスカッション

- 台湾国民は何故世界一のご支援をして下さったのか -



黄文雄 先生 (文明史家)

[階歴] 昭和13年(1938)台湾高雄県岡山鎮生まれ。 昭和36年(1961)来日。昭和44年(1969)早稲田大 学商学部卒業。昭和46年(1971)明治大学大学院、政 治経済学研究科西洋経済史学修士。現在、拓殖大学日 本文化研究所各員教授。



施 光恒 先生 (九州大学大学院准教授) [略歷]昭和46年(1971)福岡県生まれ。平成元年 (1989)福岡県立修猷館高校卒業。平成5年(1993) 慶應義塾大学法学部卒業。同13年(2001)慶應義塾 大学大学院法学研究科博士課程修了。九州大学大学 院比較社会文化研究院助教授を経て現職。



柳原 憲 ← 先生 (西日本台湾学友会前会長) [略歴] 昭和32年(1957) 台湾彰化県和美鎮生まれ。 昭和59年(1984) 来日。平成5年(1993) 九州大学医 学部卒業。九州大学医学部付属病院医員。現在、福岡 県大野城市医療法人柳原皮膚科クリニック理事長。 台湾平埔族研究家。

黄明山 台湾支部長 来たる!

この度の東日本大震災における、台湾からの200億円を超える世界一のご支援が意味するものは何か?台湾の人々にとって日本はどういう国なのか?日本と台湾との強い生命の絆の淵源を探る。

日時: 平成 24 年 6 月 3 日(日)

開演 13:00 開場 12:30

会場:福岡ガーデンパレス 1階ホール

福岡市中央区天神 4-8-15 TEL(092)713-1112

* 講演会開始前に式典(45分間)を催します。

講演会 (13:00~17:00) 会費:1,000 円(学生 500 円) 定員:200 名

00) 会費: 5,000円(^{早期お申込者には}) 定員:100名

申込締切日: 平成 24 年 5 月 31 日(木)

主催:日華(台)親善友好慰霊訪問団 (結成平成11年)

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-3-38 天神 121 ビル 13 階 TEL 092-721-0101 担当 原田・黄

協賛:九栄会(九州不動産専門学院グループ同窓会) JTBトラベル九州

協力:福岡県護國神社 台湾在日福岡留学生会

後援:產經新聞社 福岡教育連盟 福岡県神社庁 日本会議福岡 教育研究会未来 福岡県郷友連盟

日本協議会 福岡県モラロジー協会 福岡県海友会 福岡県国際交流センター(申請中) スタジオ日本

西日本台湾学友会

できます!





日華(台)親善友好慰霊訪問団

本部 福岡市中央区天神1-3-38

TEL(092)721-0101 FAX(092)725-3190

台湾支部 高雄市鳳山區南正一路

2巻11弄5號

TEL(07)751-4906 FAX(07)751-4906

URL http://taiwan.l-mate.net Eメール taiwan@l-mate.net